



Cisco Nexus 5500 シリーズ NX-OS ファイバ チャ ネル コマンド リファレンス

Cisco NX-OS Release 6.x

初版発行 : 2013 年 1 月

最終更新 : 2013 年 1 月

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Nexus 5500 シリーズ NX-OS ファイバチャネル コマンド リファレンス
© 2008-2013 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



CONTENTS

はじめに xi

対象読者 xi

表記法 xi

関連資料 xii

マニュアルに関するフィードバック xiii

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート xiii

新機能および変更された機能に関する情報 xv

Cisco NX-OS リリースの新機能および変更情報 xv

Cisco NX-OS Release 6.0(2)N1(1)の新機能および変更情報 xv

B コマンド FC-1

bind FC-2

bind mac-address FC-4

C コマンド FC-5

cfs distribute FC-6

cfs ipv4 distribute FC-7

cfs ipv4 mcast-address FC-9

cfs ipv6 distribute FC-11

cfs ipv6 mcast-address FC-13

cfs region FC-15

cfs staggered-merge FC-16

channel mode active (SAN ポート チャンネル) FC-17

clear device-alias FC-18

clear fcdomain FC-19

clear fcflow stats FC-20

clear fcns statistics FC-21

clear fcs log FC-22

clear fcs statistics FC-23

clear fctimer session FC-24

clear fspf counters FC-25

[clear fc-port-security](#) FC-26

[clear rlr](#) FC-28

[clear rscn session](#) FC-29

[clear rscn statistics](#) FC-30

[clear zone](#) FC-31

D コマンド FC-33

[description \(仮想ファイバ チャンネル インターフェイス\)](#) FC-34

[device-alias abort](#) FC-35

[device-alias commit](#) FC-36

[device-alias database](#) FC-37

[device-alias distribute](#) FC-38

[device-alias import fcalias](#) FC-39

[device-alias mode](#) FC-40

[device-alias name](#) FC-41

[device-alias rename](#) FC-42

[disable-fka](#) FC-43

[discover custom-list](#) FC-45

[discover scsi-target](#) FC-46

F コマンド FC-49

[fabric profile](#) FC-50

[fabric-binding activate](#) FC-51

[fabric-binding database copy](#) FC-52

[fabric-binding database diff](#) FC-53

[fabric-binding database vsan](#) FC-54

[fabric-binding enable](#) FC-56

[fc-port-security](#) FC-57

[fc-port-security abort](#) FC-59

[fc-port-security commit](#) FC-60

[fc-port-security database](#) FC-61

[fc-port-security distribute](#) FC-63

[fcalias clone](#) FC-64

[fcalias name](#) FC-65

[fcalias rename](#) FC-66

[fcdomain](#) FC-67

[fcdomain abort vsan](#) FC-69

fcdomain commit vsan	FC-70
fcdomain distribute	FC-71
fcdomain rcf-reject	FC-72
fcdroplacency	FC-73
fcflow stats	FC-74
fcid-allocation	FC-76
fcinterop fcid-allocation	FC-77
fcns no-auto-poll	FC-78
fcns proxy-port	FC-79
fcns reject-duplicate-pwwn vsan	FC-80
fcoe	FC-81
fcoe fcf-priority	FC-83
fcoe fcmmap	FC-84
fcoe fka-adv-period	FC-85
fcoe veloopback	FC-86
fcoe vsan	FC-87
fcping	FC-89
fcroute	FC-91
fcs plat-check-global	FC-93
fcs register	FC-94
fcs virtual-device-add	FC-95
fcsp	FC-96
fcsp dhchap	FC-98
fcsp reauthenticate	FC-100
fcsp timeout	FC-101
fctimer	FC-102
fctimer abort	FC-103
fctimer commit	FC-104
fctimer distribute	FC-105
fctrace	FC-106
fdmi suppress-updates	FC-107
feature fabric-binding	FC-108
feature fc-port-security	FC-109
feature fcoe	FC-110
feature fcoe-npv	FC-111

feature fcsp FC-112
 feature fex FC-113
 feature npiv FC-114
 feature npv FC-115
 feature port-track FC-116
 feature-set virtualization FC-117
 fex FC-119
 fspf config FC-120
 fspf cost FC-122
 fspf dead-interval FC-124
 fspf enable FC-126
 fspf hello-interval FC-127
 fspf passive FC-128
 fspf retransmit-interval FC-130

I コマンド FC-131

in-order-guarantee FC-132
 install feature-set virtualization FC-133
 interface fc FC-134
 interface san-port-channel FC-136
 interface vethernet FC-137
 interface vfc FC-139

L コマンド FC-141

lldp FC-142
 lldp (インターフェイス) FC-143
 logging abort FC-144
 logging commit FC-145
 logging distribute FC-146

M コマンド FC-147

member (FC エイリアス コンフィギュレーション モード) FC-148
 member (ゾーン コンフィギュレーション モード) FC-150
 member (ゾーンセット コンフィギュレーション モード) FC-152

N コマンド FC-153

npv auto-load-balance disruptive FC-154
 npv traffic-map FC-155

P コマンド FC-157

- port-track force-shut FC-158
- port-track interface FC-159
- purge fcdomain fcid FC-160

R コマンド FC-161

- rlir preferred-cond fcid FC-162
- rscn FC-164
- rscn abort FC-165
- rscn commit FC-166
- rscn distribute FC-167
- rscn event-tov FC-168

S コマンド FC-169

- san-port-channel persistent FC-170
- scsi-target FC-171
- shutdown FC-173
- shutdown lan (FCoE) FC-175
- switchport (ファイバ チャンネル) FC-176
- switchport (SAN ポート チャンネル) FC-179
- switchport (仮想ファイバ チャンネル インターフェイス) FC-181
- switchport mode trunk FC-183
- switchport ignore bit-errors FC-184
- system default switchport FC-186
- system default zone default-zone permit FC-188
- system default zone distribute full FC-189

show コマンド FC-191

- show cfs FC-192
- show debug npv FC-193
- show device-alias FC-194
- show fabric-binding FC-196
- show fc2 FC-198
- show fc-port-security FC-200
- show fcalias FC-202
- show fcdomain FC-203
- show fcdroplacency FC-205

show fcflo w stats	FC-206
show fcid-allocation	FC-207
show fcns database	FC-208
show fcns statistics	FC-210
show fcoe	FC-211
show fcoe-npv issu-impact	FC-212
show fcoe database	FC-213
show fcroute	FC-215
show fcs	FC-217
show fcsp	FC-219
show fctimer	FC-221
show fdmi	FC-222
show fex	FC-223
show flogi	FC-225
show fspf	FC-227
show in-order-guarantee	FC-229
show interface fcoe	FC-230
show interface san-port-channel	FC-233
show interface vfc	FC-235
show lldp	FC-237
show loadbalancing	FC-240
show npv flogi-table	FC-241
show npv status	FC-242
show npv traffic-map	FC-243
show port index-allocation	FC-244
show rlir	FC-245
show rscn	FC-246
show running-config fcoe_mgr	FC-248
show running-config interface san-port-channel	FC-250
show san-port-channel	FC-251
show scsi-target	FC-253
show startup-config fcoe_mgr	FC-255
show tech-support fcoe	FC-256
show topology	FC-258
show trunk protocol	FC-259

[show vlan fcoe](#) FC-260
[show vsan](#) FC-261
[show wwn](#) FC-263
[show zone](#) FC-264
[show zone analysis](#) FC-267
[show zoneset](#) FC-270

T コマンド FC-271

[trunk protocol enable](#) FC-272

V コマンド FC-273

[vsan](#) FC-274
[vsan database](#) FC-277

W コマンド FC-279

[wwn secondary-mac](#) FC-280
[wwn vsan](#) FC-281

Z コマンド FC-283

[zone clone](#) FC-284
[zone commit](#) FC-285
[zone compact](#) FC-286
[zone copy](#) FC-287
[zone default-zone](#) FC-289
[zone merge-control restrict vsan](#) FC-290
[zone mode enhanced](#) FC-291
[zone name \(コンフィギュレーション モード\)](#) FC-292
[zone name \(ゾーン セット コンフィギュレーション モード\)](#) FC-294
[zone rename](#) FC-295
[zoneset \(コンフィギュレーション モード\)](#) FC-296
[zoneset \(EXEC モード\)](#) FC-298



はじめに

ここでは、『Cisco Nexus 5500 シリーズ NX-OS ファイバチャネル コマンドリファレンス』の対象読者、構成、および表記法について説明します。また、関連マニュアルの入手方法についても説明します。

この前書きは、次の項で構成されています。

- 「対象読者」 (P.xi)
- 「表記法」 (P.xi)
- 「関連資料」 (P.xii)
- 「マニュアルに関するフィードバック」 (P.xiii)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.xiii)

対象読者

このマニュアルは、Cisco NX-OS デバイスの設定と保守を行う、経験豊かなユーザを対象としています。

表記法

コマンドの説明では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	必ずどれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。

出力例では、次の表記法を使用しています。

screen フォント	スイッチに表示される端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!, #	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

関連資料

Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチおよび Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダ のマニュアルは、次の URL から入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps9670/tsd_products_support_series_home.html

マニュアル セットには次の種類のマニュアルが含まれています。

- ライセンシング情報ガイド
- リリース ノート
- インストレーション ガイドおよびアップグレード ガイド
- コンフィギュレーション ガイド
- コンフィギュレーションの例およびテクニカル ノート
- プログラミング ガイド
- 操作ガイド
- エラーおよびシステム メッセージ ガイド
- Field Notice
- セキュリティ アドバイザリー、応答および通告
- トラブルシューティング ガイド
- コマンド リファレンス

- MIB リファレンス ガイド

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバックフォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルも一覧表示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



新機能および変更された機能に関する情報

この章では、Cisco Nexus 5500 シリーズ NX-OS ファイバチャネル コマンド リファレンスの新機能および変更された機能に関するリリース固有の情報を示します。このマニュアルの最新バージョンは、次のシスコ Web サイトから入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps9670/prod_command_reference_list.html

この Cisco NX-OS リリースに関する詳細は、次のシスコ Web サイトで入手できる『Cisco Nexus 5500 Series Switch Release Notes』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps9670/prod_release_notes_list.html

Cisco NX-OS リリースの新機能および変更情報

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 「Cisco NX-OS Release 6.0(2)N1(1) の新機能および変更情報」 (P.xv)

Cisco NX-OS Release 6.0(2)N1(1) の新機能および変更情報

Cisco NX-OS Release 6.0(2)N1(1) で追加または変更されたコマンドはありません。



B コマンド

この章では、B で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

bind

仮想ファイバ チャンネル インターフェイスにインターフェイスをバインドするには、**bind** コマンドを使用します。インターフェイスのバインドを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
bind interface {ethernet chassis-id/slot/port | port-channel channel-no | vethernet veth-num}
```

```
no bind interface {ethernet chassis-id/slot/port | port-channel channel-no | vethernet veth-num}
```

構文の説明

interface	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスをバインドするインターフェイスを指定します。
ethernet	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを、指定されたイーサネット インターフェイスにバインドすることを指定します。
<i>chassis-id</i>	ファブリック エクステンダ シャーシ ID。有効なシャーシ ID の範囲は 100 ~ 199 です。
<i>slot/port</i>	イーサネット インターフェイスのスロット番号とポート番号を指定します。スロット番号は 1 ~ 255、ポート番号は 1 ~ 128 です。 (注) インターフェイスを仮想ファイバ チャンネル インターフェイスにバインドし、Cisco Nexus 2232P ファブリック エクステンダで Fibre Channel over Ethernet (FCoE) トラフィックをイネーブル化した場合、スロット番号は 1、ポート番号は 1 ~ 32 です。
port-channel <i>channel-no</i>	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを、指定された EtherChannel インターフェイスにバインドすることを指定します。EtherChannel 番号の範囲は 1 ~ 4096 です。
vethernet <i>veth-num</i>	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを、指定された仮想イーサネット インターフェイスにバインドすることを指定します。仮想イーサネット インターフェイスの番号は 1 ~ 1048575 です。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

仮想ファイバ チャンネル インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N1(1)	bind 、 description 、および shutdown コマンドは interface vfc コマンドから分離されました。
5.1(3)N1(1)	このコマンドのサポートが、ポート チャンネルのメンバ ポートのバインドを許可するように拡張されました。 このコマンドのサポートが Cisco アダプタ ファブリック エクステンダ (Adapter-FEX) に追加されました。

使用上のガイドライン

仮想ファイバ チャンネル インターフェイスにバインドするイーサネット インターフェイスまたは EtherChannel インターフェイスは、トランク ポートである必要があります。

仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを仮想イーサネット インターフェイスにバインドする前に、**feature-set virtualization** コマンドを使用して、スイッチ上で Cisco アダプタ ファブリック エクステンダ (Adapter-FEX) をイネーブルにする必要があります。

例

次に、イーサネット インターフェイスに仮想ファイバ チャンネル インターフェイス 3 をバインドする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport mode trunk
switch(config-if)# exit
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# bind interface ethernet 1/1
switch(config-if)#
```

次に、仮想ファイバ チャンネル インターフェイス 2 を仮想イーサネット インターフェイスにバインドする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vfc 2
switch(config-if)# bind interface vethernet 100
switch(config-if)# exit
switch(config)# interface vethernet 100
switch(config-if)# bind interface ethernet 101/1/1 channel 5
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
bind (仮想イーサネット インターフェイス)	インターフェイスを仮想イーサネットにバインドします。
fcoe	ファブリック エクステンダで FCoE トラフィックをイネーブルにします。
feature-set virtualization	スイッチで Cisco 仮想マシン機能をイネーブルにします。
interface vfc	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを設定します。
show interface vfc	指定の VFC インターフェイス、属性、およびステータスを表示します。

bind mac-address

MAC アドレスに仮想ファイバ チャンネル インターフェイスをバインドするには、**bind mac-address** コマンドを使用します。インターフェイスのバインドを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
bind mac-address mac-address
```

```
no bind mac-address mac-address
```

構文の説明	<i>mac-address</i>	MAC アドレス。EEEE.EEEE.EEEE の形式を使用します。
-------	--------------------	------------------------------------

コマンド デフォルト	ディセーブル
------------	--------

コマンド モード	仮想ファイバ チャンネル インターフェイス コンフィギュレーション モード
----------	---------------------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(3)N2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドを使用する前に、 feature fcoe-npv コマンドを使用して、スイッチ上で Fibre Channel over Ethernet (FCoE) N ポート バーチャライザ (NPV) がイネーブルであることを確認します。このコマンドには、FCoE NPV ライセンスが必要です。
------------	--

例	次に、MAC アドレスに仮想ファイバ チャンネル インターフェイス 3 をバインドする例を示します。
---	--

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# bind mac-address 0050.3e8d.6400
switch(config-if)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	interface vfc	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを設定します。
	show interface vfc	指定の VFC インターフェイス、属性、およびステータスを表示します。



C コマンド

この章では、C で始まる Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

cfs distribute

スイッチの Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルまたはディセーブルにするには、**cfs distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cfs distribute

no cfs distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

CFS 配信はイネーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、CFS は配信モードです。また、配信モードでは、ファブリック全体の配信がイネーブルです。アプリケーションは、自身のファブリック内の CFS に対応したすべてのスイッチに設定データを配信できます。この設定が操作の通常モードです。

no cfs distribute コマンドを入力して CFS 配信をディセーブルにした場合、次のイベントが発生します。

- CFS コマンドが引き続き動作します。ただし、スイッチの CFS および CFS を使用するアプリケーションは、物理的な接続があったとしても残りのファブリックから隔離されます。
- すべての CFS の操作は隔離されたスイッチに制限されます。
- 他のスイッチで実行された CFS の操作（たとえば、ロック、確定、廃棄）は、隔離されたスイッチにはまったく反映されません。
- ファイバ チャネルおよび IP の両方を介した CFS 配信がディセーブルになります。

例

次に、CFS 配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no cfs distribute
```

次に、CFS 配信を再度イネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv4 distribute

この機能を使用するアプリケーション向けに Internet Protocol Version 4 (IPv4; インターネット プロトコルバージョン 4) を介した Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、**cfs ipv4** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cfs ipv4 distribute

no cfs ipv4 distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

CFS 配信はイネーブルです。CFS over IP はディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

同様のマルチキャスト アドレスを持つすべての CFS over IP 対応スイッチにより、1 つの CFS over IP ファブリックが構成されます。ネットワーク トポロジ変更を検出するためのキープアライブ メカニズムのような CFS プロトコル特有の配信は、IP マルチキャスト アドレスを使用して情報を送受信しません。

このコマンドを使用する場合は、次の注意事項に従ってください。

- IP およびファイバ チャネルの両方を介してスイッチに到達可能である場合、アプリケーション データはファイバ チャネルを介して配信されます。
- IP を介した CFS がイネーブルになっている場合は IPv4 配信または IPv6 配信のどちらかを選択できます。
- 同じスイッチ上で IPv6 配信および IPv4 配信の両方をイネーブルにすることはできません。
- IPv4 配信がイネーブルになっているスイッチは、IPv6 配信がイネーブルになっているスイッチを検知できません。これらのスイッチは互いに接続していても、2 つの別々のファブリックに存在するかのように動作します。

例

次に、CFS IPv4 配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no cfs ipv4 distribute
This will prevent CFS from distributing over IPv4 network.
Are you sure? (y/n) [n]
```

次に、CFS IPv4 配信を再度イネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs ipv4 distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
cfs ipv4 mcast-address	IPv4 を介した CFS 配信の IPv4 マルチキャスト アドレスを設定します。
show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv4 mcast-address

IPv4 を介した Cisco Fabric Services (CFS) 配信の IPv4 マルチキャストアドレスを設定するには、**cfs ipv4 mcast-address** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
cfs ipv4 mcast-address ipv4-address
```

```
no cfs ipv4 mcast-address ipv4-address
```

構文の説明	<i>ipv4-address</i>	IPv4 を介した CFS 配信の IPv4 マルチキャストアドレスを設定します。有効な IPv4 アドレスの範囲は 239.255.0.0 ~ 239.255.255.255 および 239.192.0.0 ~ 239.251.251.251 です。
-------	---------------------	--

コマンド デフォルト マルチキャスト アドレス : 239.255.70.83

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**cfs ipv4 distribute** コマンドを使用して IPv4 を介した CFS 配信をイネーブルにします。

類似のマルチキャストアドレスを持つ IP を介した CFS 対応スイッチのすべては、IP を介した 1 つの CFS ファブリックを形成します。ネットワーク トポロジ変更を検出するためのキープアライブ メカニズムのような CFS プロトコル特有の配信は、IP マルチキャストアドレスを使用して情報を送受信します。

アプリケーションデータの CFS 配信はダイレクトユニキャストを使用します。

CFS over IP マルチキャストアドレスの値を設定できます。デフォルトの IPv4 マルチキャストアドレスは 239.255.70.83 です。

例 次に、IPv4 を介した CFS の IP マルチキャストアドレスを設定する例を示します。

```
switch(config)# cfs ipv4 mcast-address 239.255.1.1
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure? (y/n) [n] y
```

次に、IPv4 を介した CFS 配信のデフォルト IPv4 マルチキャストアドレスに戻す例を示します。

```
switch(config)# no cfs ipv4 mcast-address 10.1.10.100
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure? (y/n) [n] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
cfs ipv4 distribute	IPv4 を介した CFS 配信をイネーブルまたはディセーブルにします。
show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv6 distribute

Cisco Fabric Services (CFS) を使用するアプリケーション向けに IPv6 を介した CFS 配信をイネーブルにするには、**cfs ipv6 distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cfs ipv6 distribute

no cfs ipv6 distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

CFS 配信はイネーブルです。CFS over IPv4 はディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

類似のマルチキャスト アドレスを持つ IP を介した CFS 対応スイッチのすべては、IP を介した 1 つの CFS ファブリックを形成します。ネットワーク トポロジ変更を検出するためのキープアライブ メカニズムのような CFS プロトコル特有の配信は、IP マルチキャスト アドレスを使用して情報を送受信します。

このコマンドを使用する場合は、次の注意事項に従ってください。

- IP およびファイバ チャネルの両方を介してスイッチに到達可能である場合、アプリケーション データはファイバ チャネルを介して配信されます。
- IP を介した CFS がイネーブルになっている場合は IPv4 配信または IPv6 配信のどちらかを選択できます。
- 同じスイッチ上で IPv6 配信および IPv4 配信の両方をイネーブルにすることはできません。
- IPv4 配信がイネーブルになっているスイッチは、IPv6 配信がイネーブルになっているスイッチを検知できません。これらのスイッチは互いに接続していても、2 つの別々のファブリックに存在するかのように動作します。

例

次に、CFS IPv6 配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no cfs ipv6 distribute
This will prevent CFS from distributing over IPv6 network.
Are you sure? (y/n) [n]
```

次に、CFS IPv6 配信を再度イネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs ipv6 distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
cfs ipv6 mcast-address	IPv6 を介した CFS 配信の IPv6 マルチキャスト アドレスを設定します。
show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv6 mcast-address

IPv6 を介した Cisco Fabric Services (CFS) 配信の IPv6 マルチキャスト アドレスを設定するには、**cfs ipv6 mcast-address** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
cfs ipv6 mcast-address ipv6-address
```

```
no cfs ipv6 mcast-address ipv6-address
```

構文の説明	<i>ipv6-address</i>	IPv6 マルチキャスト アドレスまたは IPv6 を介した CFS 配信を設定します。IPv6 管理スコープ範囲は [ff15::/16, ff18::/16] です。
-------	---------------------	---

コマンド デフォルト	マルチキャスト アドレス : ff15::efff:4653
------------	--------------------------------

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード
----------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**cfs ipv6 distribute** コマンドを使用して IPv6 を介した CFS 配信をイネーブルにします。

類似のマルチキャスト アドレスを持つ IP を介した CFS 対応スイッチのすべては、IP を介した 1 つの CFS ファブリックを形成します。ネットワーク トポロジ変更を検出するためのキープアライブ メカニズムのような CFS プロトコル特有の配信は、IP マルチキャスト アドレスを使用して情報を送受信します。アプリケーションデータの CFS 配信はダイレクト ユニキャストを使用します。

IPv6 の CFS over IP マルチキャスト アドレスの値を設定できます。デフォルトの IPv6 マルチキャスト アドレスは ff15::efff:4653 です。IPv6 管理スコープ範囲の例は、ff15::0000:0000 から ff15::ffff:ffff または ff18::0000:0000 から ff18::ffff:ffff です。

例

次に、IPv6 を介した CFS の IP マルチキャスト アドレスを設定する例を示します。

```
switch(config)# cfs ipv6 mcast-address ff13::e244:4754
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure? (y/n) [n] y
```

次に、IPv6 を介した CFS 配信のデフォルト IPv6 マルチキャスト アドレスに戻す例を示します

```
switch(config)# no cfs ipv6 mcast-address ff13::e244:4754
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure? (y/n) [n] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
cfs ipv6 distribute	IPv6 を介した CFS 配信をイネーブルまたはディセーブルにします。
show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs region

選択したスイッチに対して、アプリケーション配信のスコープを制限するような領域を作成するには、**cfs region** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
cfs region region-id
```

```
no cfs region region-id
```

構文の説明

<i>region-id</i>	領域 ID を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。合計 200 の領域がサポートされます。
------------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトの領域 ID は 0 です。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

1 つのアプリケーションは、指定したスイッチ上の 1 つの領域にしか属することができません。領域 ID を作成してそれをアプリケーションに適用することで、アプリケーション配信は同様の ID を持つスイッチに制限されます。

Cisco Fabric Services (CFS) 領域により、アプリケーション スコープから孤立した配信領域を作成することができます。現在、領域は物理的なスコープ アプリケーションに対してだけサポートされます。領域の設定が行われていない場合、アプリケーションはデフォルト領域に属します。デフォルトの領域は領域 ID 0 です。

例

次に、領域 ID を作成する例を示します。

```
switch(config)# cfs region 1
```

次に、領域にアプリケーションを割り当てる例を示します。

```
switch(config)# cfs region 1  
switch(config-cfs-region)# ntp
```

次に、領域に割り当てられているアプリケーションを削除する例を示します。

```
switch(config)# cfs region 1  
switch(config-cfs-region)# no ntp
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cfs regions	全設定済みアプリケーションとピアを表示します。

cfs staggered-merge

Cisco Fabric Series (CFS) を使用して複数の Virtual SAN (VSAN) からのデータをマージするには、**cfs staggered-merge** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cfs staggered-merge enable

no cfs staggered-merge enable

構文の説明

enable	CFS staggered-merge オプションをイネーブルにします。
---------------	--------------------------------------

コマンド デフォルト

スタaggerド マージはディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、CFS スタaggerド マージをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs staggered-merge enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cfs status	スタaggerド マージがイネーブルになっているかどうかを表示します。

channel mode active (SAN ポート チャネル)

アクティブ チャネル ポートで SAN ポート チャネルを設定するには、**channel mode active** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

channel mode active

no channel mode [active]

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

SAN ポート チャネル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、SAN ポート チャネル インターフェイス 3 をアクティブ チャネルとして設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)# channel mode active
switch(config-if)#
```

次に、SAN ポート チャネル インターフェイスをデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)# no channel mode
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。
switchport (SAN ポート チャネル)	SAN ポート チャネル インターフェイスのスイッチポート パラメータを設定します。
interface san-port-channel	SAN ポート チャネル インターフェイスを設定します。

clear device-alias

デバイスエイリアス情報を消去するには、**clear device-alias** コマンドを使用します。

```
clear device-alias {database | session | statistics}
```

構文の説明	オプション	説明
	database	デバイスエイリアスデータベースを消去します。
	session	セッション情報を消去します。
	statistics	デバイスエイリアス統計情報を消去します。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、デバイスエイリアスセッションをクリアする例を示します。

```
switch# clear device-alias session
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

clear fcdomain

設定済みホストのリスト全体を消去するには、**clear fcdomain** コマンドを使用します。

clear fcdomain session vsan vsan-id

構文の説明

session	セッション情報を消去します。
vsan vsan-id	1 ~ 4093 の範囲で指定された VSAN のファイバチャネル ドメインを消去します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、設定されたホストのリストだけを消去します。既存の接続は切断されません。

例

次に、リモート キャプチャ用に設定されたホストのリスト全体をクリアする例を示します。

```
switch# clear fcdomain
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcdomain	リモート キャプチャ用に設定されたホストのリストを表示します。

clear fcflow stats

ファイバチャネルフローの統計情報を消去するには、**clear fcflow stats** コマンドを使用します。

clear fcflow stats [**aggregated**] **index** *flow-index*

構文の説明	aggregated	(任意) ファイバチャネルフローの集約統計情報を消去します。
	index	指定フローインデックスのファイバチャネルフローカウンタを消去します。
	<i>flow-index</i>	フローインデックス番号を指定します。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、フローインデックス 1 に対する集約ファイバチャネルフロー統計情報をクリアする例を示します。

```
switch(config)# clear fcflow stats aggregated index 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcflow	fcflow 統計情報を表示します。

clear fcns statistics

ネーム サーバの統計情報を消去するには、**clear fcns statistics** コマンドを使用します。

clear fcns statistics vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	1 ~ 4093 の範囲で指定された VSAN の FCS 統計情報を消去します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
例	次に、ネーム サーバの統計情報をクリアする例を示します。 switch# clear fcns statistics vsan 1	
関連コマンド	コマンド	説明
	show fcns statistics	ネーム サーバ統計情報を表示します。

clear fcsm log

Fibre Channel Signal Modeling (FCSM) ログをクリアするには、**clear fcsm log** コマンドを使用します。

clear fcsm log

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FCSM ログをクリアする例を示します。

```
switch# clear fcsm log
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcs	ファブリック設定サーバ情報を表示します。

clear fcs statistics

ファブリック設定サーバ統計情報を消去するには、**clear fcs statistics** コマンドを使用します。

clear fcs statistics vsan *vsan-id*

構文の説明	vsan <i>vsan-id</i>	1 ~ 4093 の範囲で指定された VSAN の FCS 統計情報を消去します。
コマンドデフォルト	なし	
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
例	次に、VSAN 10 のファブリック コンフィギュレーション サーバ統計情報をクリアする例を示します。 switch# clear fcs statistics vsan 10	
関連コマンド	コマンド	説明
	show fcs statistics	ファブリック設定サーバ統計情報を表示します。

clear fctimer session

fctimer Cisco Fabric Services (CFS) セッションのコンフィギュレーションおよびロックを消去するには、**clear fctimer session** コマンドを使用します。

clear fctimer session

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、fctimer セッションをクリアする例を示します。

```
switch# clear fctimer session
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fctimer	fctimer 情報を表示します。

clear fspf counters

Fabric Shortest Path First (FSPF) 統計情報を消去するには、**clear fspf counters** コマンドを使用します。

```
clear fspf counters vsan vsan-id [interface type]
```

構文の説明	vsan	VSAN でカウンタを消去します。
	vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
	interface type	(任意) あるインターフェイスでカウンタをクリアすることを指定します。インターフェイス タイプは、 fc (ファイバ チャンネル) と san-port-channel (SAN ポート チャンネル) です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン インターフェイスが指定されていない場合、VSAN のすべてのカウンタが消去されます。インターフェイスが指定されている場合、指定のインターフェイスのカウンタが消去されます。

例 次に、VSAN 1 の FSPF 統計情報をクリアする例を示します。

```
switch# clear fspf counters vsan 1
```

次に、指定のファイバ チャンネル インターフェイスの VSAN 1 の FSPF 統計情報をクリアする例を示します。

```
switch# clear fspf counters vsan 1 interface fc 3/2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fspf	特定の VSAN に対するグローバルな FSPF 統計情報を表示します。

clear fc-port-security

スイッチのポート セキュリティ情報をクリアするには、**clear fc-port-security** コマンドを使用します。

```
clear fc-port-security {database auto-learn {interface fc slot/port | san-port-channel port} |
  session | statistics} vsan vsan-id
```

構文の説明		
database		ポート セキュリティのアクティブ コンフィギュレーション データベースを消去します。
auto-learn		指定のインターフェイスまたは VSAN の自動学習されたエントリを消去します。
interface fc slot/port		指定のファイバ チャネル インターフェイスの情報を消去します。
san-port-channel port		指定の SAN ポート チャネルのエントリを消去します。指定できる範囲は 1 ~ 128 です。
session		ポート セキュリティ Cisco Fabric Services (CFS) コンフィギュレーション セッションおよびロックを消去します。
statistics		ポート セキュリティ カウンタを消去します。
vsan vsan-id		指定の VSAN ID のエントリを消去します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン アクティブ データベースは読み取り専用です。**clear fc-port-security database** コマンドは、競合解決時に使用できます。

例 次に、指定の VSAN のポート セキュリティ データベースから既存の統計情報をすべてクリアする例を示します。

```
switch# clear fc-port-security statistics vsan 1
```

次に、VSAN 内の指定インターフェイスのアクティブ データベースから、学習エントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear fc-port-security database auto-learn interface fc2/1 vsan 1
```

次に、VSAN 全体のアクティブ データベースから、学習エントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear fc-port-security database auto-learn vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show fc-port-security</code>	設定されたポート セキュリティ情報を表示します。

clear rlir

Registered Link Incident Report (RLIR) 情報を消去するには、**clear rlir** コマンドを使用します。

```
clear rlir {history | recent {interface fc slot/port | portnumber port} | statistics vsan vsan-id}
```

構文の説明		
history		RLIR のインシデント リンク履歴を消去します。
recent		最近のリンク インシデントをクリアします。
interface fc slot/port		指定インターフェイスのエントリをクリアします。
portnumber port		リンク インシデントのポート番号を表示します。
statistics		RLIR 統計情報を消去します。
vsan vsan-id		Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の RLIR 統計情報をクリアします。 VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、VSAN 1 の RLIR 統計情報をクリアする例を示します。

```
switch# clear rlir statistics vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show rlir	RLIR 情報を表示します。

clear rscn session

指定の Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の Registered State Change Notification (RSCN) セッションをクリアするには、**clear rscn session** コマンドを使用します。

clear rscn session vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	RSCN セッションを消去する VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
-------	---------------------	---

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、VSAN 1 の RSCN セッションをクリアする例を示します。

```
switch# clear rscn session vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	rscn	RSCN を設定します。
	show rscn	RSCN 情報を表示します。

clear rscn statistics

指定の Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の Registered State Change Notification 統計情報をクリアするには、**clear rscn statistics** コマンドを使用します。

clear rscn statistics vsan vsan-id

構文の説明

vsan	VSAN の RSCN 統計情報を消去します。
vsan-id	VSAN の ID は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 1 の RSCN 統計情報をクリアする例を示します。

```
switch# clear rscn statistics vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show rscn	RSCN 情報を表示します。

clear zone

指定の Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のゾーン サーバの設定情報をすべてクリアするには、**clear zone** コマンドを使用します。

```
clear zone {database | lock | statistics} vsan vsan-id
```

構文の説明	パラメータ	説明
	database	ゾーン サーバ データベース情報を消去します。
	lock	ゾーン サーバ データベース ロックを消去します。
	statistics	ゾーン サーバ統計を消去します。
	vsan	VSAN のゾーン情報を消去します。
	<i>vsan-id</i>	VSAN の ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **clear zone database** コマンドを入力した後に、明示的に **copy running-config startup-config** コマンドを入力して、次にスイッチを起動するときに確実に実行コンフィギュレーションが使用されるようにする必要があります。

リモートスイッチから **clear zone lock** コマンドを入力した場合は、そのリモートスイッチのロックだけが消去されます。ロックを行ったスイッチから **clear zone lock** コマンドを入力すると、その VSAN 内のすべてのロックが消去されます。ロックを行ったスイッチのセッションロックを消去する方法として、**no zone commit vsan** コマンドを使用することを推奨します。

例 次に、VSAN 1 ゾーン サーバ内の設定情報をすべてクリアする例を示します。

```
switch# clear zone database vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show zone	設定されたインターフェイスのゾーン情報を表示します。

■ clear zone



D コマンド

この章では、D で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

description (仮想ファイバチャネル インターフェイス)

仮想ファイバチャネル インターフェイスの目的のサマリーを入力するには、**description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description *line*

no description

構文の説明	<i>line</i>	インターフェイスを説明するテキスト。説明は最大 80 文字で、スペースを含めることができます。
-------	-------------	---

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	仮想ファイバチャネル インターフェイス コンフィギュレーション モード
---------	-------------------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
	5.0(2)N1(1)	bind 、 description 、および shutdown コマンドは interface vfc コマンドから分離されました。

例

次に、仮想ファイバチャネル インターフェイス 3 の説明を入力する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# description vFC for attaching to Eth1/1 interface
switch(config-if)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	bind	仮想ファイバチャネル インターフェイスにインターフェイスをバインドします。
	interface vfc	仮想ファイバチャネル インターフェイスを設定します。
	show interface vfc	指定の VFC インターフェイス、属性、およびステータスを表示します。

device-alias abort

進行中の Distributed Device Alias Services (デバイスエイリアス) Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**device-alias abort** コマンドを使用します。

device-alias abort

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次に、処理中のデバイス CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# device-alias abort
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイスエイリアスデータベースを設定および有効にします。
device-alias distribute	デバイスエイリアスの CFS 分配をイネーブルにします。
show device-alias	デバイスエイリアス情報を表示します。

device-alias commit

ファブリック内で進行中の Distributed Device Alias Services (デバイスエイリアス) Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションに関連した未決定コンフィギュレーションを適用するには、**device-alias commit** コマンドを使用します。

device-alias commit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次に、アクティブな Dynamic Port VSAN Membership (DPVM) データベースに保留中の変更をコミットする例を示します。

```
switch(config)# device-alias commit
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイスエイリアスデータベースを設定および有効にします。
device-alias distribute	デバイスエイリアスの CFS 分配をイネーブルにします。
show device-alias	デバイスエイリアス情報を表示します。

device-alias database

Distributed Device Alias Services (デバイスエイリアス) セッションを開始して、デバイスエイリアスデータベースを設定するには、**device-alias database** コマンドを使用します。デバイスエイリアスデータベースを非アクティブにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias database

no device-alias database

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

非アクティブ

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

device-alias database コマンドは、このファブリックにあるすべてのスイッチ上のすべてのデータベースをロックするデバイスエイリアスセッションを開始します。デバイスエイリアスデータベースコンフィギュレーションモードを終了したとき、デバイスエイリアスセッションが終了し、ロックが解除されます。

すべての変更は、一時的なデバイスエイリアスデータベース内でしか実行されません。変更を永続的なものにするには、**device-alias commit** コマンドを使用します。

例

次に、デバイスエイリアスセッションをアクティブにし、デバイスエイリアスデータベースコンフィギュレーションモードにする例を示します。

```
switch(config)# device-alias database
switch(config-device-alias-db)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias commit	一時的なデバイスエイリアスデータベースへの変更をアクティブデバイスエイリアスデータベースにコミットします。
show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

device-alias distribute

Distributed Device Alias Services (デバイスエイリアス) の Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、**device-alias distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias distribute

no device-alias distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

CFS 配信セッションへ未決定の変更を適用するには、**device-alias commit** コマンドを使用します。

例

次に、デバイスエイリアス情報の配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# device-alias distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias commit	アクティブ デバイス エイリアス データベースへの変更を確定します。
device-alias database	デバイス エイリアス データベースを設定および有効にします。
show device-alias	デバイス エイリアス情報を表示します。

device-alias import fcalias

デバイス エイリアス データベース情報を別の Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) からインポートするには、**device-alias import fcalias** コマンドを使用します。デフォルト設定または工場出荷時デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
device-alias import fcalias vsan vsan-id
```

```
no device-alias import fcalias vsan vsan-id
```

構文の説明

vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
---------------------	------------------------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

次の制限を満たしている場合、この機能を使用して、データを損失することなくレガシー デバイス名 コンフィギュレーションをインポートできます。

- 各 fcalias には、メンバーが 1 つだけある。
- メンバー タイプがデバイス名実装でサポートされている。

名前の競合が存在する場合、fcalias はインポートされません。デバイス名データベースは、VSAN 従属 fcalias データベースから完全に独立しています。

インポート操作が完了したら、変更されたグローバル FC エイリアス テーブルは、物理ファブリック内の他のすべてのスイッチに **device-alias distribute** コマンドを使用して配信できるため、新しい定義がすべての場所で使用できるようになります。

例

次に、デバイス エイリアス情報をインポートする例を示します。

```
switch(config)# device-alias import fcalias vsan 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイス エイリアス データベースを設定および有効にします。
device-alias distribute	fcalias データベースの変更をファブリックに配信します。
show device-alias	デバイス エイリアス データベース情報を表示します。

device-alias mode

デバイスエイリアス拡張モードを設定するには、**device-alias mode** コマンドを使用します。デバイスエイリアス拡張モードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias mode enhanced

no device-alias mode enhanced

構文の説明

enhanced	拡張モードを指定します。
-----------------	--------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次に、デバイスエイリアス拡張モードを設定する例を示します。

```
switch(config)# device-alias mode enhanced
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイスエイリアス データベース コンフィギュレーション モードを開始します。
show device-alias	デバイスエイリアス データベース情報を表示します。

device-alias name

デバイスエイリアスデータベースにデバイス名を設定するには、**device-alias name** コマンドを使用します。デバイスエイリアスデータベースからデバイス名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
device-alias name device-name pwwn pwwn-id
```

```
no device-alias name device-name
```

構文の説明

<i>device-name</i>	デバイス名。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
pwwn <i>pwwn-id</i>	pWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次に、デバイス名データベースにデバイス名エイリアス エントリを設定する例を示します。

```
switch(config)# device-alias database
switch(config-device-alias-db)# device-alias name Device1 pwwn 21:00:00:20:37:6f:db:bb
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーション モードを開始します。
show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

device-alias rename

デバイスエイリアス データベースにデバイス名を設定するには、**device-alias rename** コマンドを使用します。デバイスエイリアス データベースからデバイス名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
device-alias rename device-name1 device-name2
```

```
no device-alias rename device-name
```

構文の説明

<i>device-name1</i>	現行のデバイス名を指定します。
<i>device-name2</i>	新しいデバイス名を指定します。最大長は、64 文字です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

デバイスエイリアス データベース コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次に、デバイス名データベースにデバイス名エイリアス エントリを設定する例を示します。

```
switch(config)# device-alias database
switch(config-device-alias-db)# device-alias rename Device1 Device2
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイスエイリアス データベース コンフィギュレーション モードを開始します。
show device-alias	デバイスエイリアス データベース情報を表示します。

disable-fka

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) Initialization Protocol (FIP) キープアライブ (FKA) メッセージをディセーブルにするには、**disable-fka** コマンドを使用します。FKA メッセージをイネーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

disable-fka

no disable-fka

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

仮想ファイバ チャネル インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**feature fcoe-npv** コマンドを使用して、スイッチ上で Fibre Channel over Ethernet (FCoE) N ポート バーチャライザ (NPV) をイネーブルにする必要があります。スイッチが N ポート バーチャライザ (NPV) モードの場合、FKA メッセージをディセーブルにできません。



(注)

スイッチが NPV モードでないことを確認してください。スイッチの NPV 設定を削除するには、**switchport** コマンドを使用します。

このコマンドには、FCoE NPV ライセンスが必要です。

例

次に、FKA メッセージの検証をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# disable-fka
switch(config-if)#
```

次に、FKA メッセージの検証をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# no disable-fka
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe fka-adv-period	FIP キープ アライブ (FKA) メッセージが ENode の MAC アドレスに送信される時間間隔を設定します。
feature fcoe-npv	スイッチの FCoE NPV をイネーブルにします。
show fcoe-npv issu-impact	FCoE NPV の設定情報を表示します。
switchport (仮想ファイバ イバチャネルインター フェイス)	仮想ファイバチャネル インターフェイスのスイッチ ポート パラメータを設定します。

discover custom-list

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の指定ドメイン ID の検出を選択的に開始するには、**discover custom-list** コマンドを使用します。

```
discover custom-list {add | delete} vsan vsan-id domain domain-id
```

構文の説明		
add		カスタマイズされたリストにターゲットを追加します。
delete		カスタマイズされたリストからターゲットを削除します。
vsan vsan-id		指定した VSAN ID の SCSI ターゲットを検出します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
domain domain-id		指定したドメイン ID の SCSI ターゲットを検出します。有効な範囲は 1 ~ 239 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、指定の VSAN およびドメイン ID の検出を選択的に開始する例を示します。

```
switch# discover custom-list add vsan 1 domain 2
```

次に、カスタマイズされたリストから指定の VSAN およびドメイン ID を削除する例を示します。

```
switch# discover custom-list delete vsan 1 domain 2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show scsi-target	既存の SCSI ターゲットの設定情報を表示します。
	show vsan	設定された仮想 SAN (VSAN) に関する情報を表示します。

discover scsi-target

スイッチに接続されているローカルストレージまたはファブリック全体のリモートストレージの SCSI ターゲットを検出するには、**discover scsi-target** コマンドを使用します。

```
discover scsi-target {custom-list | local | remote | vsan vsan-id fcid fc-id} os {aix | all | hpux | linux | solaris | windows} [lun | target]
```

構文の説明

custom-list	カスタマイズされたリストから SCSI ターゲットを検出します。
local	ローカル SCSI ターゲットを検出します。
remote	リモート SCSI ターゲットを検出します。
vsan <i>vsan-id</i>	指定した Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID の SCSI ターゲットを検出します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
fcid <i>fc-id</i>	指定の Fibre Channel ID (FCID) の SCSI ターゲットを検出します。フォーマットは、 <i>0xhhhhhhh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
os	指定したオペレーティング システムを検出します。
aix	AIX オペレーティング システムを検出します。
all	すべてのオペレーティング システムを検出します。
hpux	HPUX オペレーティング システムを検出します。
linux	Linux オペレーティング システムを検出します。
solaris	Solaris オペレーティング システムを検出します。
windows	Windows オペレーティング システムを検出します。
lun	(任意) SCSI ターゲットおよび Logical Unit Number (LUN) を検出します。
target	(任意) SCSI ターゲットを検出します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、すべてのオペレーティング システムに割り当てられたローカル ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target local os all
discovery started
```

次に、Windows オペレーティング システムに割り当てられたリモート ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target remote os windows
discovery started
```

次に、指定の VSAN (1) および FCID (0x9c03d6) の SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6 os aix
discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6
VSAN:    1 FCID: 0x9c03d6 PWWN: 00:00:00:00:00:00:00:00
      PRLI RSP: 0x01 SPARM: 0x0012...
```

次の例では、Linux オペレーティング システムに割り当てられたターゲットを、カスタマイズされたリストから検出することを開始します。

```
switch# discover scsi-target custom-list os linux
discovery started
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show scsi-target</code>	既存の SCSI ターゲットの設定情報を表示します。

■ discover scsi-target



F コマンド

この章では、F で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

fabric profile

事前設定された Quality of Service (QoS) 設定を利用するには、**fabric profile** コマンドを使用します。デフォルトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を入力します。

fabric profile {reliable-multicast | unicast-optimized}

no fabric profile

構文の説明

reliable-multicast	マルチキャストトラフィック配信の信頼性を高めるためにファブリックの QoS パラメータを最適化します。
unicast-optimized	ユニキャストトラフィックに関するファブリックの QoS パラメータを最適化します。

コマンドデフォルト

unicast-optimized

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、マルチキャストトラフィック配信の信頼性を高めるためのファブリックを設定する例を示します。

```
switch(config)# fabric profile reliable-multicast
```

次に、ファブリックプロファイルをデフォルト値に設定する例を示します。

```
switch(config)# no fabric profile
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fabric profile	ファブリックの現行の設定値を表示します。

fabric-binding activate

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のファブリック バインディングをアクティブにするには、**fabric-binding activate** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fabric-binding activate vsan vsan-id [force]
```

```
no fabric-binding activate vsan vsan-id
```

構文の説明

vsan vsan-id	VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
force	(任意) ファブリック バインディングを強制的に有効にします。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、指定の VSAN のファブリック バインディング データベースをアクティブにする例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding activate vsan 1
```

次に、指定の VSAN のファブリック バインディング データベースを非アクティブにする例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding activate vsan 10
```

次に、指定の VSAN のファブリック バインディング データベースを強制的にアクティブにする例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding activate vsan 3 force
```

次に、以前の設定状態に戻すか、または工場出荷時のデフォルト状態に戻す（状態が設定されていない場合）例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding activate vsan 1 force
```

関連コマンド

コマンド	説明
fabric-binding database	ファブリック バインディング データベースを設定します。
fabric-binding enable	ファブリック バインディングをイネーブルにします。

fabric-binding database copy

アクティブなファブリック バインディング データベースからコンフィギュレーション ファブリック バインディング データベースへのコピーを実行するには、**fabric-binding database copy** コマンドを使用します。

fabric-binding database copy vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
-------	---------------------	---

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	EXEC モード
---------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	<p>ファブリック バインディングは、VSAN 単位で構成されており、FICON VSAN およびファイバ チャネル VSAN の両方に実装できます。</p> <p>設定されたデータベースが空の場合、このコマンドは受け付けられません。</p>
------------	---

例	<p>次に、VSAN 1 内のアクティブなデータベースからコンフィギュレーション データベースにコピーする例を示します。</p> <pre>switch# fabric-binding database copy vsan 1</pre>
---	---

関連コマンド	コマンド	説明
	fabric-binding diff	ファブリック バインディング データベース間の差異を提供します。

fabric-binding database diff

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) 内のアクティブ データベースとコンフィギュレーション データベースの差異を表示するには、**fabric-binding database diff** コマンドを使用します。

```
fabric-binding database diff {active | config} vsan vsan-id
```

構文の説明		
	active	コンフィギュレーション データベースに対するアクティブ データベース内の差異についての情報を提供します。
	config	アクティブ データベースに対するコンフィギュレーション データベース内の差異についての情報を提供します。
	vsan vsan-id	VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファブリック バインディングは、VSAN 単位で構成されており、FICON VSAN およびファイバ チャネル VSAN の両方に実装できます。

例 次に、VSAN 1 のアクティブ データベースとコンフィギュレーション データベースの間の差異を表示する例を示します。

```
switch# fabric-binding database diff active vsan 1
```

次に、コンフィギュレーション データベースとアクティブ データベースの間の差異を表示する例を示します。

```
switch# fabric-binding database diff config vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fabric-binding copy	アクティブ ファブリック バインディング データベースからコンフィギュレーション ファブリック バインディング データベースにコピーします。

fabric-binding database vsan

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) 内のユーザ指定ファブリック バインディング リストを設定するには、**fabric-binding database vsan** コマンドを使用します。ファブリック バインディングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fabric-binding database vsan vsan-id
swwn switch-wwn domain domain-id
```

```
fabric-binding database vsan vsan-id
no swwn switch-wwn domain domain-id
```

```
no fabric-binding database vsan vsan-id
```

構文の説明

vsan vsan-id	VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
swwn switch-wwn	スイッチの WWN をドット付き 16 進表記で設定します。
domain domain-id	特定のドメイン ID を指定します。ドメイン ID の範囲は 1 ~ 239 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファブリック バインディングは、VSAN 単位で設定します。ファイバ チャネル VSAN では、Switch World Wide Name (sWWN) だけが必要です。ドメイン ID は任意です。

ユーザ指定のファブリック バインディング リストには、ファブリック内の sWWN のリストが含まれています。リストにない sWWN、または許可リストで指定されているドメイン ID と異なるドメイン ID を使用する sWWN がファブリックへの参加を試みると、スイッチとファブリック間の ISL が VSAN 内で自動的に隔離され、スイッチはファブリックへの参加を拒否されます。

例

次に、ファブリック バインディング データベース モードを開始して、スイッチの sWWN およびドメイン ID を、設定済みのデータベース リストに追加する例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding database vsan 5
switch(config-fabric-binding)# swwn 21:00:05:30:23:11:11:11 domain 102
```

次に、指定の VSAN のファブリック バインディング データベースを削除する例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding database vsan 10
```

次に、設定されたデータベース リストから、スイッチの sWWN およびドメイン ID を削除する例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding database vsan 5
switch(config-fabric-binding)# no swwn 21:00:15:30:23:1a:11:03 domain 101
```

関連コマンド

コマンド	説明
fabric-binding activate	ファブリック バインディングをアクティブにします。
fabric-binding enable	ファブリック バインディングをイネーブルにします。

fabric-binding enable

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のファブリック バインディングをイネーブルにするには、**fabric-binding enable** コマンドを使用します。ファブリック バインディングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fabric-binding enable

no fabric-binding enable

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
5.1(3)N1(1)	このコマンドは非推奨になり、 feature fabric-binding コマンドに置き換えられました。これは、下位互換性のためにいくつかのリリースにわたって保持されます。

使用上のガイドライン

ファブリック バインディングは、VSAN 単位で設定します。

ファブリック バインディングに参加するファブリック内のスイッチごとに、ファブリック バインディング機能をイネーブルにする必要があります。

例

次に、スイッチのファブリック バインディングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding enable
```

次に、スイッチのファブリック バインディングをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
fabric-binding activate	ファブリック バインディングをアクティブにします。
fabric-binding database	ファブリック バインディング データベースを設定します。

fc-port-security

ポートセキュリティ機能を設定して侵入の試みを拒否するには、**fc-port-security** コマンドを使用します。コマンドを無効にするか、または工場出荷時のデフォルト状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fc-port-security {activate vsan vsan-id [force | no-auto-learn] | auto-learn vsan vsan-id |  
database vsan vsan-id}
```

```
no fc-port-security {activate vsan vsan-id [force | no-auto-learn] | auto-learn vsan vsan-id |  
database vsan vsan-id}
```

構文の説明

activate	指定 VSAN のポートセキュリティデータベースをアクティブにして、自動学習機能を自動的にイネーブルにします。
vsan <i>vsan-id</i>	Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
force	(任意) データベースを強制的にアクティブにします。
no-auto-learn	(任意) ポートセキュリティデータベースの自動学習機能をディセーブルにします。
auto-learn	指定した VSAN で自動学習をイネーブルにします。
database	指定した VSAN でポートセキュリティデータベース コンフィギュレーション モードを開始します。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ポートセキュリティ機能をアクティブにすると、**auto-learn** オプションも自動的にイネーブルになります。**fc-port-security activate vsan number no-auto-learn** コマンドを使用することによって、**fc-port-security** 機能をアクティブにし、自動学習をディセーブルにすることを選択できます。この場合、手でポートセキュリティデータベースを読み込んで個別に各ポートの安全性を確保する必要があります。

auto-learn オプションが VSAN でイネーブルの場合、**force** オプションを使用しないとその VSAN のデータベースをアクティブにできません。

例

次に、指定された VSAN のポートセキュリティデータベースをアクティブにして、自動学習を自動的にイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security activate vsan 1
```

次に、指定された VSAN のポートセキュリティ データベースを非アクティブにして、自動学習を自動的にディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fc-port-security activate vsan 1
```

次に、VSAN 1 のポートセキュリティ データベースの自動学習機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security activate vsan 1 no-auto-learn
```

次に、自動学習をイネーブルにすることで、VSAN 1 へのアクセスが許可されているすべてのデバイスについてスイッチが学習できるようにする例を示します。これらのデバイスは、ポートセキュリティ アクティブ データベースに記録されます。

```
switch(config)# fc-port-security auto-learn vsan 1
```

次に、自動学習をディセーブルにして、スイッチにアクセスする新しいデバイスについてスイッチが学習することを停止する例を示します。

```
switch(config)# no fc-port-security auto-learn vsan 1
```

次に、指定された VSAN のポートセキュリティ データベース モードを開始する例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security database vsan 1
switch(config-fc-port-security)#
```

次に、競合がある場合でも、VSAN 1 のポートセキュリティ データベースを強制的にアクティブにする例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security activate vsan 1 force
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fc-port-security database	設定されたポートセキュリティ情報を表示します。

fc-port-security abort

処理中のポートセキュリティ Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**fc-port-security abort** コマンドを使用します。

fc-port-security abort vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
-------	---------------------	------------------------------------

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション モード
---------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、処理中のポートセキュリティ CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security abort vsan 33
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fc-port-security distribute	ポートセキュリティの CFS 配信をイネーブルにします。
	show fc-port-security	ポートセキュリティ情報を表示します。

fc-port-security commit

ファブリックで処理中のポートセキュリティ Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションについて、保留中の設定を適用するには、コンフィギュレーション モードで **fc-port-security commit** コマンドを使用します。

fc-port-security commit vsan vsan-id

構文の説明

vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、アクティブなポートセキュリティ設定への変更をコミットする例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security commit vsan 13
```

関連コマンド

コマンド	説明
fc-port-security distribute	ポートセキュリティの CFS 配信をイネーブルにします。
show fc-port-security	ポートセキュリティ情報を表示します。

fc-port-security database

ポート セキュリティ データベースをコピーするか、ポート セキュリティ データベース内の差異を表示するには、**fc-port-security database** コマンドを使用します。

fc-port-security database {copy | diff {active | config}} vsan vsan-id

構文の説明		
copy		アクティブ データベースをコンフィギュレーション データベースにコピーします。
diff		アクティブ ポート セキュリティ データベースとコンフィギュレーション ポート セキュリティ データベースの差異を表示します。
active		アクティブ データベースをコンフィギュレーション データベースに書き込みます。
config		コンフィギュレーション データベースをアクティブ データベースに書き込みます。
vsan vsan-id		VSAN ID を指定します。範囲は 1 ~ 4093 番です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン アクティブ データベースが空の場合、**fc-port-security database diff active** コマンドを使用して競合を解決してください。

例 次に、アクティブ データベースをコンフィギュレーション データベースにコピーする例を示します。

```
switch# fc-port-security database copy vsan 1
```

次に、アクティブ データベースとコンフィギュレーション データベースの間の差異を出力する例を示します。

```
switch# fc-port-security database diff active vsan 1
```

次に、コンフィギュレーション データベースとアクティブ データベースの間の差異について情報を出力する例を示します。

```
switch# fc-port-security database diff config vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
fc-port-security database	ポート セキュリティ データベース間の差異についての情報をコピーし、表示します。
show fc-port-security database	設定されたポート セキュリティ情報を表示します。

fc-port-security distribute

ポートセキュリティ用の Cisco Fabric Service (CFS) 配信をイネーブルにするには、**fc-port-security distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fc-port-security distribute

no fc-port-security distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイバチャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**fc-port-security commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションにコミットする必要があります。

例

次に、ポートセキュリティ コンフィギュレーションをファブリックに配信する例を示します。

```
switch(config)# fc-port-security distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
fc-port-security commit	ポートセキュリティ コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定します。
show fc-port-security	ポートセキュリティ情報を表示します。

fcalias clone

ファイバチャネルエイリアスを複製するには、**fcalias clone** コマンドを使用します。

fcalias clone *origFcalias-Name* *cloneFcalias-Name* **vsan** *vsan-id*

構文の説明		
<i>origFcalias-Name</i>	<i>cloneFcalias-Name</i>	ファイバチャネルエイリアスを指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
vsan		Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の複製ファイバチャネルエイリアスを指定します。
<i>vsan-id</i>		VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファイバチャネルエイリアスをディセーブルにするには、**fcalias name** コマンドの **no** 形式を使用します。

例 次に、VSAN 45 の cloneAlias に、origAlias という名前の FC エイリアスを複製する例を示します。

```
switch(config)# fcalias clone origAlias cloneAlias vsan 45
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcalias	FC エイリアスのメンバー名情報を表示します。

fcalias name

ファイバチャネルエイリアスを設定するには、**fcalias name** コマンドを使用します。ファイバチャネルエイリアスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcalias name *alias-name* **vsan** *vsan-id*

no fcalias name *alias-name* **vsan** *vsan-id*

構文の説明	<i>alias-name</i>	FC エイリアスの名前を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できません。
	vsan	Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) 用の FC エイリアスを指定します。
	<i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン エイリアス内に複数のメンバーを含めるには、FC ID、fWWN、または pWWN 値を使用します。

例 次に、VSAN 3 上に AliasSample という名前の FC エイリアスを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcalias name AliasSample vsan 3  
switch(config-fcalias)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	member (FC エイリアス コンフィギュレーション モード)	指定のゾーンに対するエイリアスメンバーを設定します。

fcalias rename

ファイバチャネルエイリアス (Fcalias) の名前を変更するには、**fcalias rename** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcalias rename *current-name new-name vsan vsan-id*

no fcalias rename *current-name new-name vsan vsan-id*

構文の説明

<i>current-name</i>	現在の FC エイリアスの名前を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
<i>new-name</i>	新しい FC エイリアスの名前を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次に、FC エイリアスの名前を変更する例を示します。

```
switch(config)# fcalias rename oldalias newalias vsan 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcalias name	FC エイリアス名を設定します。
show fcalias	FC エイリアス情報を表示します。

fcdomain

ファイバチャネルドメイン機能を設定するには、**fcdomain** コマンドを使用します。ファイバチャネルドメインをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcdomain {allowed domain vsan vsan-id | auto-reconfigure vsan vsan-id | contiguous-allocation vsan vsan-id | domain id {preferred | static} vsan vsan-id | fabric-name name vsan vsan-id | fcid {database | persistent vsan vsan-id} | optimize fast-restart vsan vsan-id | priority value vsan vsan-id | restart [disruptive] vsan vsan-id | vsan vsan-id}
```

```
no fcdomain {allowed domain vsan vsan-id | auto-reconfigure vsan vsan-id | contiguous-allocation vsan vsan-id | domain id {preferred | static} vsan vsan-id | fabric-name name vsan vsan-id | fcid {database | persistent vsan vsan-id} | optimize fast-restart vsan vsan-id | priority value vsan vsan-id | restart [disruptive] vsan vsan-id | vsan vsan-id}
```

構文の説明

allowed domain	許可されたドメイン ID のリストを設定します。有効範囲は 1 ~ 239 です。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
auto-reconfigure	自動再設定を設定します。
contiguous-allocation	一連の割り当てを設定します。
domain id	ドメイン ID とそのタイプを設定します。有効な範囲は 0 ~ 239 です。
preferred	優先させるドメイン ID を設定します。デフォルトでは、主要スイッチによって割り当てられたドメイン ID がローカルスイッチで受け入れられ、割り当てられたドメイン ID は実行中のドメイン ID になります。
static	スタティックにドメイン ID を設定します。割り当てられたドメイン ID は廃棄されます。すべてのローカルインターフェイスが独立し、ローカルスイッチが自身に設定されたドメイン ID を割り当てます。割り当てられたドメイン ID が実行中のドメイン ID になります。
fabric-name name	ファブリック名を指定します。名前のフォーマットは、 hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。
fcid	ファイバチャネルドメインに永続的な FC ID を設定します。
database	永続的な FC ID モードを開始します。
persistent	ファイバチャネルドメインの永続的な FC ID をイネーブル、またはディセーブルにします。
optimize fast-restart	指定の VSAN 上でドメインマネージャの高速再起動をイネーブルにします。
priority value	(任意) ファイバチャネルドメインのプライオリティを指定します。範囲は 1 ~ 254 です。
restart	中断のある、または障害のないファブリックの再設定を開始します。
disruptive	(任意) 中断を伴うファブリック再設定を強制的に実行します。

コマンドデフォルト

イネーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、主要なスイッチの選択、ドメイン ID 配信の設定、ファブリックの再構成、および FC ID の割り当てを実行できます。

大部分のファブリックでは、特に多数の論理ポート（3200 以上）を使用する場合は、**optimize fast-restart** オプションを使用することを推奨します。論理ポートは VSAN 内の物理ポートのインスタンスであるためです。

例

次に、VSAN 87 に優先ドメイン ID を設定する例を示します。

```
switch(config)# fcdomain domain 3 preferred vsan 87
```

次に、VSAN 1 に中断を伴うファブリック再設定を指定する例を示します。

```
switch(config)# fcdomain restart disruptive vsan 1
```

次に、VSAN 7 ~ 10 のドメイン マネージャの高速再起動をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcdomain optimize fast-restart vsan 7 - 10
```

次に、VSAN 3 に Fabric World Wide Name (fWWN) を設定する例を示します。

```
switch(config)# fcdomain fabric-name 20:1:ac:16:5e:0:21:01 vsan 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcdomain	ファイバチャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain abort vsan

キャッシュされたデータをコミットせずにフラッシュしてロックを解除するには、**fcdomain abort vsan** コマンドを使用します。キャッシュされたデータのフラッシュをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcdomain abort vsan vsan-id

no fcdomain abort vsan vsan-id

構文の説明	<i>vsan-id</i>	Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
コマンドデフォルト	イネーブル	
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
例	次に、キャッシュされたデータをフラッシュする例を示します。 switch(config)# fcdomain abort vsan 10	
関連コマンド	コマンド	説明
	fcdomain	ファイバ チャネル ドメイン機能をイネーブルにします。
	fcdomain commit vsan	キャッシュされたデータを確定し、ロックを解除します。
	show fcdomain	ファイバ チャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain commit vsan

キャッシュされたデータを確定して、ロックを解除するには、**fcdomain commit vsan** コマンドを使用します。キャッシュされたデータをコミットせずにロックを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcdomain commit vsan vsan-id

no fcdomain commit vsan vsan-id

構文の説明

vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

次に、キャッシュされたデータをコミットする例を示します。

```
switch(config)# fcdomain commit vsan 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcdomain	ファイバ チャネル ドメイン機能をイネーブルにします。
fcdomain abort vsan	キャッシュされたデータを確定せずにフラッシュし、ロックを解除します。
show fcdomain	ファイバ チャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain distribute

Cisco Fabric Services (CFS) を使用したファブリック配信をイネーブルにするには、**fcdomain distribute** コマンドを使用します。CFS を使用したファブリック配信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcdomain distribute

no fcdomain distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、CFS を使用したファブリック配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcdomain distribute
```

次に、CFS を使用したファブリック配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fcdomain distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcdomain	ファイバ チャネル ドメイン機能をイネーブルにします。
show fcdomain	ファイバ チャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain rcf-reject

ファイバ チャネル インターフェイスの Reconfigure Fabric (RCF) 拒否フラグをイネーブルにするには、**fcdomain rcf-reject** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
```

```
no fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
```

構文の説明

vsan vsan-id	Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
---------------------	--

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

選択したファイバ チャネルまたは仮想ファイバ チャネルのインターフェイスに RCF 拒否オプションを設定するには、このコマンドを使用します。

例

次に、仮想ファイバ チャネル インターフェイスに FCIP RCF 拒否の **fcdomain** 機能を設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# fcdomain rcf-reject vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcdomain	ファイバ チャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。
show interface fc	指定したファイバ チャネル インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

fcdroplateny

ネットワークおよびスイッチのファイバチャネル廃棄遅延時間を設定するには、**fcdroplateny** コマンドを使用します。ファイバチャネルの遅延時間をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcdroplateny {**network milliseconds** [**vsan vsan-id**] | **switch milliseconds**}

no fcdroplateny {**network milliseconds** [**vsan vsan-id**] | **switch milliseconds**}

構文の説明

network milliseconds	ネットワークの遅延を指定します。有効な範囲は 500 ~ 60000 です。
vsan vsan-id	(任意) Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
switch milliseconds	スイッチの遅延を指定します。有効な範囲は 0 ~ 60000 ミリ秒です。

コマンドデフォルト

ネットワーク遅延 : 2000 ミリ秒
スイッチ遅延 : 500 ミリ秒

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ネットワーク遅延時間を 5000 ミリ秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# fcdroplateny network 5000
```

次に、スイッチ遅延時間をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch(config)# no fcdroplateny switch 4000
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcdroplateny	設定されているファイバチャネル廃棄遅延パラメータを表示します。

fcflow stats

fcflow 統計情報を設定するには、**fcflow stats** コマンドを使用します。カウンタをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcflow stats {aggregated index flow-number vsan vsan-id | index flow-number destination-fcid
source-fcid netmask vsan vsan-id}
```

```
no fcflow stats {aggregated index flow-number | index flow-number}
```

構文の説明

aggregated	集約 fcflow 統計情報を設定します。
index <i>flow-number</i>	フロー インデックスを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 2147483647 です。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
<i>destination-fcid</i>	宛先 FCID を 16 進数の形式で指定します。
<i>source-fcid</i>	送信元 FCID を 16 進数の形式で指定します。
<i>netmask</i>	送信元および宛先 FCID のマスクを指定します (16 進数で最大 6 文字で、範囲は 0xff0000 ~ 0xfffff)。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フロー カウンタをイネーブルにした場合、集約フローおよびフロー統計情報に対して最大 1024 のエントリをイネーブルにできます。使用されていないフロー インデックスを、各新規フローに割り当てるようにしてください。フロー インデックスの番号の間は、集約フロー統計情報とフロー統計情報間で共有します。

例

次に、集約フロー カウンタをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcflow stats aggregated index 1005 vsan 1
```

次に、集約フロー カウンタをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fcflow stats aggregated index 1005
```

次に、特定のフローのフロー カウンタをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcflow stats index 1 0x145601 0x5601 0xffffffff vsan 1
```

次に、インデックス 1001 のフロー カウンタをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fcflow stats index 1001
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show fcflow stats</code>	設定されているファイバ チャネル廃棄遅延パラメータを表示します。

fcid-allocation

デフォルトのエリア企業 ID リストに FCID を手動で追加するには、**fcid-allocation** コマンドを使用します。デフォルトのエリア企業 ID リストから FCID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcid-allocation area company-id company-id

no fcid-allocation area company-id company-id

構文の説明

area	会社 ID の自動地域リストを変更します。
company-id <i>company-id</i>	会社 ID を設定します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

FC 標準では、スイッチの Fx ポートに接続されている N ポートに一意の FCID を割り当てる必要があります。使用される FCID 数を保護するため、Cisco Nexus 5500 シリーズスイッチは、特別な割り当て方式を使用します。

一部の Host Bus Adapter (HBA; ホストバスアダプタ) は、ドメインとエリアが同じ FC ID を持つターゲットを検出しません。スイッチソフトウェアは、この動作が発生しないテスト済みの企業 ID のリストを保持しています。これらの HBA には、単一の FCID が割り当てられ、残りにはエリア全体が割り当てられます。

多数のポートを持つスイッチのスケールビリティを高めるため、スイッチのソフトウェアはこの動作を実行する HBA のリストを保持します。各 HBA はファブリック ログインの間、pWWN で使用される企業 ID (Organizational Unique Identifier (OUI; 組織固有識別子) としても知られる) によって識別されます。エリア全体が、リストされている企業 ID を持つ N ポートに割り当てられ、残りには、単一の FC ID が割り当てられます。割り当てられる FC ID のタイプ (エリア全体または単一) に関係なく、FC ID エントリは永続的です。

例

次に、新しい企業 ID をデフォルトのエリア企業 ID リストに追加する例を示します。

```
switch(config)# fcid allocation area company-id 0x003223
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcid-allocation	企業 ID のファイバチャネルエリア リストを表示します。

fcinterop fcid-allocation

スイッチに FCID を割り当てるには、**fcinterop fcid-allocation** コマンドを使用します。スイッチの FCID をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcinterop fcid-allocation {auto | flat | none}
```

```
no fcinterop fcid-allocation {auto | flat | none}
```

構文の説明

auto	単一の FCID を互換性のある HBA に割り当てます。
flat	単一の FCID を割り当てます。
none	FCID 範囲を割り当てます。

コマンドデフォルト

デフォルトの設定は、FCID の自動割り当てです。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、スイッチの FCID 割り当て方法を定義します。

例

次に、FCID の割り当てを flat に設定する例を示します。

```
switch(config)# fcinterop fcid-allocation flat
```

関連コマンド

コマンド	説明
show flogi database	Fabric Login (FLOGI) テーブルを表示します。

fcns no-auto-poll

ネーム サーバ データベースでの自動ポーリングをイネーブルまたはディセーブルにするには、**fcns no-auto-poll** コマンドを使用します。

```
fcns no-auto-poll [vsan vsan-id] | [wwn wwn-id]
```

```
no fcns no-auto-poll [vsan vsan-id] | [wwn wwn-id]
```

構文の説明

vsan <i>vsan-id</i>	(任意) Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
wwn <i>wwn-id</i>	(任意) ポート WWN を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 2 の自動ポーリングをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcns no-auto-poll vsan 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcns	指定の VSAN またはすべての VSAN に対するネーム サーバ データベース および統計情報を表示します。

fcns proxy-port

ネーム サーバ プロキシを登録するには、**fcns proxy-port** コマンドを使用します。

```
fcns proxy-port wwn-id vsan vsan-id
```

```
no fcns proxy-port wwn-id vsan vsan-id
```

構文の説明	<i>wwn-id</i>	ポート WWN を指定します。形式は、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。
	vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
コマンドデフォルト	なし	
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	<p>あるネーム サーバは、他のネーム サーバのプロキシとなるよう設定できます。ネーム サーバの情報は、CLI を使用して表示できます。ネーム サーバは CLI または Cisco Fabric Manager で表示させることができます。</p> <p>ネーム サーバ登録要求はすべて、パラメータが登録または変更されたポートと同じポートから発信されます。同一ポートから送られない場合、要求は拒否されます。</p>	
例	<p>次に、VSAN 2 のプロキシ ポートを設定する例を示します。</p> <pre>switch(config)# fcns proxy-port 21:00:00:e0:8b:00:26:d vsan 2</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	show fcns	指定の VSAN またはすべての VSAN に対するネーム サーバデータベースおよび統計情報を表示します。

fcns reject-duplicate-pwwn vsan

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の重複 Fibre Channel Name Server (FCNS; ファイバ チャネル ネーム サーバ) を拒否するには、**fcns reject-duplicate-pwwn vsan** コマンドを使用します。

```
fcns reject-duplicate-pwwn vsan vsan-id
```

```
no fcns reject-duplicate-pwwn vsan vsan-id
```

構文の説明

vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
---------------------	------------------------------------

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 2 の重複 FCNS pWWN を拒否する例を示します。

```
switch(config)# fcns reject-duplicate-pwwn vsan 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcns	指定の VSAN またはすべての VSAN に対するネーム サーバ データベース および統計情報を表示します。

fcoe

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) Initialization Protocol (FIP) および FCoE トラフィックのピン接続用にスイッチに Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダ (FEX) を関連付けるには、**fcoe** コマンドを使用します。アソシエーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcoe [vsan vsan-id]
```

```
no fcoe [vsan]
```

構文の説明

vsan *vsan-id* VSAN のステータスを指定します。VSAN ID の範囲は 1 ~ 4094 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

FEX コンフィギュレーション モード
VLAN コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**feature fex** コマンドを使用してスイッチの ファブリック エクステンダ (FEX) 機能がイネーブルになっていることを確認してください。

このコマンドは、Cisco Nexus 2232P ファブリック エクステンダでのみ使用できます。FCoE トラフィックをイネーブルにするために仮想ファイバチャネル インターフェイスにインターフェイスをバインドする場合は、スロット番号 1 を使用してください。指定できるポート番号の範囲は 1 ~ 32 です。

例

次に、イネーブルな FCoE として FEX を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature fex
switch(config)# fex 100
switch(config-fex)# fcoe
switch(config-fex)#
```

次に、ファブリックの仮想ポート チャネル (vPC) トポロジで FCoE トラフィックを伝送するために FEX のペアを設定する例を示します。FEX のホスト アップリンク ポートは同じポートチャネルに設定されています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature lacp
switch(config)# feature fex
switch(config)# feature fcoe
switch(config)# fex 100
switch(config-fex)# fcoe
switch(config-fex)# exit
switch(config)# interface vfc 1
switch(config-if)# bind interface eth101/1/1
switch(config)# interface eth101/1/1
```

```

switch(config-if)# channel-group 1
switch(config)# fex 102
switch(config-fex)# fcoe
switch(config)# interface vfc 1
switch(config-if)# bind interface eth102/1/2
switch(config)# interface eth102/1/2
switch(config-if)# channel-group 1
switch(config-if)#

```

次に、VLAN 上で FCoE トラフィックを設定する例を示します。

```

switch# configure terminal
switch(config)# vlan 5
switch(config-vlan)# fcoe vsan 1
switch(config-vlan)#

```

次に、FEX で FCoE をディセーブルにする例を示します。

```

switch# configure terminal
switch(config)# fex 100
switch(config-fex)# no fcoe
switch(config-fex)#

```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcoe	スイッチの FCoE 機能をイネーブルにします。
feature fex	スイッチの FEX 機能をイネーブルにします。
feature lacp	Link Aggregation Control Protocol (LACP) をイネーブルにします。
show fex	特定の FEX に関する情報を表示します。

fcoe fcf-priority

Fibre Channel Forwarder (FCF) から FCoE ノード (ENode) にアドバタイズされる FCoE Initialization Protocol (FIP) のプライオリティ値を設定するには、**fcoe fcf-priority** コマンドを使用します。デフォルトの FCF プライオリティ値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcoe fcf-priority value

no fcoe fcf-priority value

構文の説明	<i>value</i>	FCF プライオリティ値を指定します。有効な範囲は 0 ~ 255 で、デフォルトは 128 です。
-------	--------------	--

コマンドデフォルト	128
-----------	-----

コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション モード インターフェイス vFC モード
---------	---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドを使用する前に、 feature fcoe コマンドを使用してスイッチの FCoE をイネーブルにする必要があります。
------------	--

Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチは、自身のプライオリティをアドバタイズします。このプライオリティは、最適な接続先スイッチを判別するためにファブリック内の統合ネットワーク アダプタ (CNA) によって使用されます。

例	次に、スイッチ上で FCF プライオリティを設定する例を示します。
---	-----------------------------------

```
switch(config)# fcoe fcf-priority 50
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fcoe fcmmap	FCoE MAC Address Prefix (FC-Map; FCoE MAC アドレス プレフィックス) 値を設定します。
	fcoe fka-adv-period	FIP キープアライブ (FKA) メッセージが ENode の MAC アドレスに送信される時間間隔を設定します。
	feature fcoe	スイッチ上で FCoE をイネーブルにします。
	show fcoe	FC-Map、デフォルト FCF プライオリティ値、FKA アドバタイズメント期間などの FCoE パラメータを表示します。

fcoe fcmmap

FCoE ノード (ENode) を関連付けるために使用される FCoE MAC アドレス プレフィックス (FC-Map) を設定するには、**fcoe fcmmap** コマンドを使用します。デフォルトのグローバル FC-Map 値 0xefc00 に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcoe fcmmap value

no fcoe fcmmap value

構文の説明	<i>value</i>	FC-Map 値を指定します。有効な範囲は 0xefc00 ~ 0xefcff で、デフォルトは 0xefc00 です。
-------	--------------	--

コマンド デフォルト 0xefc00

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用する前に、**feature fcoe** コマンドを使用してスイッチの FCoE をイネーブルにする必要があります。

FC-Map を設定することにより、ファブリックをまたぐ通信を原因とするデータ破損を回避できます。FC-Map はこの Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチのファイバチャネルファブリックを識別します。FC-Map が設定されると、現在のファブリックの一部ではない MAC アドレスがスイッチによって廃棄されます。

このコマンドにはライセンスが必要です。

例 次に、スイッチ上で FC-Map 値を設定する例を示します。

```
switch(config)# fcoe fcmmap 0xefc10
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fcoe fcf-priority	FCoE Initialization Protocol (FIP) のプライオリティ値を設定します。
	fcoe fka-adv-period	FIP キープアライブ (FKA) メッセージが ENode の MAC アドレスに送信される時間間隔を設定します。
	feature fcoe	スイッチ上で FCoE をイネーブルにします。
	show fcoe	FC-Map、デフォルト FCF プライオリティ値、FKA アドバタイズメント期間などの FCoE パラメータを表示します。

fcoe fka-adv-period

FIP キープアライブ (FKA) メッセージが FCoE ノード (ENode) の MAC アドレスに送信される時間間隔を設定するには、**fcoe fka-adv-period** コマンドを使用します。デフォルト値の 128 秒に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcoe fka-adv-period value

no fcoe fka-adv-period value

構文の説明	<i>value</i>	FKA アドバタイズメント期間 (秒単位) を指定します。有効な範囲は 4 ~ 60 秒で、デフォルトは 8 秒です。
-------	--------------	---

コマンド デフォルト 8 秒

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用する前に、**feature fcoe** コマンドを使用して、スイッチ上で FCoE をイネーブルにする必要があります。

例 次に、スイッチの FKA アドバタイズメント期間を 5 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# fcoe fka-adv-period 5
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fcoe fcf-priority	FCoE Initialization Protocol (FIP) のプライオリティ値を設定します。
	fcoe fcmmap	FCoE ノード (ENode) を関連付けるのに使用される FCoE MAC アドレスプレフィックス (FC-Map) を設定します。
	feature fcoe	スイッチ上で FCoE をイネーブルにします。
	show fcoe	FC-Map、デフォルト FCF プライオリティ値、FKA アドバタイズメント期間などの FCoE パラメータを表示します。
	show fcoe database	FCoE データベース情報を表示します。

fcoe vloopback

仮想 E (VE) ポートの仮想ファブリック ID (VFID) チェックをイネーブルにするには、**fcoe vloopback** コマンドを使用します。VE ポートのチェックをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcoe vloopback

no fcoe vloopback

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**feature fcoe-npv** コマンドを使用して、スイッチ上で Fibre Channel over Ethernet (FCoE) N ポート バーチャライザ (NPV) がイネーブルであることを確認します。このコマンドには、FCoE NPV ライセンスが必要です。

例

次に、VE ポートの VFID チェックをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# fcoe vloopback
switch(config)#
```

次に、VE ポートの VFID チェックをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no fcoe vloopback
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcoe-npv	FCoE NPV 機能をイネーブルにします。
show fcoe-npv	FCoE NPV の設定情報を表示します。
issu-impact	

fcoe vsan

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) トラフィックを伝送する VLAN に Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) をマッピングするには、**fcoe vsan** コマンドを使用します。マッピングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcoe vsan [vsan_ID]
```

```
no fcoe vsan [vsan_ID]
```

構文の説明	<code>vsan_ID</code> (任意) VSAN ID。有効な範囲は 1 ~ 4094 です。				
コマンドデフォルト	なし				
コマンドモード	VLAN コンフィギュレーション モード				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>5.0(2)N1(1)</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。				

使用上のガイドライン

FCoE VLAN を VSAN にマッピングする前に、VSAN データベース コンフィギュレーション モードで **vsan** コマンドを使用して VSAN を作成する必要があります。

FCoE には FCoE VLAN だけを使用する必要があります。デフォルト VLAN の VLAN1 を FCoE VLAN として使用しないでください。プライベート VLAN では、FCoE はサポートされません。

FCoE VLAN を VSAN にマッピングするとき、その VSAN が別の FCoE VLAN にマッピングされていないことを確認してください。FCoE VLAN をマッピングする VSAN が別の FCoE VLAN にすでにマッピングされている場合、次のエラーが表示されます。

```
vlan 30:another FCoE VLAN mapping exists using the requested VSAN
```

VSAN 番号を指定しない場合、使用中の FCoE VLAN から、同じ番号の VSAN へのマッピングが作成されます。

例 次に、FCoE VLAN から VSAN にマッピングする例を示します。

```
switch(config)# vlan 30
switch(config-vlan)# fcoe vsan 337
switch(config-vlan)#
```

関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>show vsan</td><td>VSAN のコンフィギュレーション情報を表示します。</td></tr><tr><td>show vlan fcoe</td><td>FCoE VLAN から VSAN へのマッピングを表示します。</td></tr><tr><td>show vsan membership</td><td>VSAN メンバーシップ情報を表示します。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	show vsan	VSAN のコンフィギュレーション情報を表示します。	show vlan fcoe	FCoE VLAN から VSAN へのマッピングを表示します。	show vsan membership	VSAN メンバーシップ情報を表示します。
コマンド	説明								
show vsan	VSAN のコンフィギュレーション情報を表示します。								
show vlan fcoe	FCoE VLAN から VSAN へのマッピングを表示します。								
show vsan membership	VSAN メンバーシップ情報を表示します。								

コマンド	説明
<code>vsan</code>	VSAN 情報またはメンバーシップを設定します。
<code>vsan database</code>	VSAN データベース モードを開始します。

fcping

N ポートに ping を実行するには、**fcping** コマンドを使用します。

```
fcping {device-alias aliasname | fcid {fc-port | domain-controller-id} | pwwn pwwn-id} vsan
vsan-id [count number [timeout value [usr-priority priority]]]
```

構文の説明

device-alias <i>aliasname</i>	デバイスエイリアス名を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
fcid	宛先 N ポートの FCID を指定します。
<i>fc-port</i>	FCID ポート（形式は <i>0xhhhhhh</i> ）
<i>domain-controller-id</i>	宛先スイッチに接続するコントローラ ID を指定します。
pwwn <i>pwwn-id</i>	宛先 N ポートのポート WWN を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。
vsan <i>vsan-id</i>	宛先 N ポートの VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
count number	（任意）送信フレーム数を指定します。値 0 はフレームを送り続けることを意味します。有効な範囲は 0 ~ 2147483647 です。
timeout value	（任意）タイムアウト値を秒単位で指定します。有効な範囲は 1 ~ 10 で、デフォルトの待機時間は 5 秒です。
usr-priority priority	（任意）スイッチファブリックでフレームが受信するプライオリティを指定します。有効な範囲は 0 ~ 1 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ドメインコントローラ ID を得るには、ドメイン ID と FFC を結合します。たとえば、ドメイン ID が 0xda (218) の場合、連結された ID は 0xffcda になります。

例

次に、宛先の FCID に fcping 操作を設定する例を示します。デフォルトでは、5 フレームが送信されません。

```
switch# fcping fcid 0xd70000 vsan 1
```

次に、count オプションを使用して、送信するフレーム数を設定する例を示します。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。値を 0 にすると、ping を実行し続けます。

```
switch# fcping fcid 0xd70000 vsan 1 count 10
```

次に、タイムアウト値を設定する例を示します。

```
switch# fcping fcid 0xd500b4 vsan 1 timeout 10
```

次に、指定した宛先のデバイス エイリアスを使用した `fcping` 操作を表示する例を示します。

```
switch# fcping device-alias x vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show fcdomain</code>	ファイバチャネル ドメイン (fcdomain) 情報を表示します。

fcroute

ファイバチャネル ルートを設定し、ポリシー ルーティングを有効にするには、**fcroute** コマンドを使用します。この設定を削除するか、工場出荷時のデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcroute {fcid [network-mask] interface {fc slot/port | san-port-channel port | vfc vfc-id} domain
domain-id {metric number | remote | vsan vsan-id}}
```

```
no fcroute {fcid [network-mask] interface {fc slot/port | san-port-channel port | vfc vfc-id}
domain domain-id {metric number | remote | vsan vsan-id}}
```

構文の説明

<i>fcid</i>	FC ID を指定します。フォーマットは 0xhhhhhh です。
<i>network-mask</i>	(任意) FC ID のネットワーク マスクを指定します。フォーマットは 0x0 ~ 0xfffff です。
interface	インターフェイスを指定します。
fc slot/port	ファイバチャネル インターフェイスと、そのスロット番号およびポート番号を指定します。
san-port-channel port	SAN ポート チャネル インターフェイスを指定します。
vfc vfc-id	バーチャル ファイバチャネル インターフェイスを指定します。
domain domain-id	ネクストホップ スイッチのドメインに対するルートを指定します。有効な範囲は 1 ~ 239 です。
metric number	ルートのコストを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルトのコストは 10 です。
remote	リモート接続している宛先スイッチのスタティック ルートを設定します。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、転送情報をスイッチに割り当て、優先パスのルート マップを有効にします。

例

次に、VSAN 2 のファイバチャネル インターフェイス、およびネクストホップ スイッチのドメインに対するルートを指定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x111211 interface fc3/1 domain 3 vsan 2
```

次に、VSAN 4 の SAN ポート チャネル インターフェイス、およびネクストホップ スイッチのドメインに対するルートを指定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x111211 interface san-port-channel 1 domain 3 vsan 4
```

次に、VSAN 1 のファイバチャネル インターフェイス、ネクスト ホップ スイッチのドメインに対するルート、およびルートのコストを指定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x031211 interface fc1/1 domain 3 metric 1 vsan 1
```

次に、VSAN 3 のファイバチャネル インターフェイス、ネクスト ホップ スイッチのドメインに対するルート、およびルートのコストを指定して、リモートで接続している宛先スイッチのスタティックルートを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x111112 interface fc3/1 domain 3 metric 3 remote vsan 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcroute	ファイバチャネル ルートを表示します。
fcroute-map	優先パスのファイバチャネル ルート マップを指定します。
show fcroute-map	優先パスのルート マップ設定およびステータスを表示します。
fcroute policy fcroute-map	優先パスのファイバチャネル ルート マップを有効にします。

fcs plat-check-global

ファブリック全体での Fabric Configuration Server (FCS; ファブリック コンフィギュレーション サーバ) プラットフォームおよびノード名のチェックをイネーブルにするには、**fcs plat-check-global** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcs plat-check-global vsan vsan-id

no fcs plat-check-global vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id プラットフォーム チェックの VSAN ID を 1 ~ 4096 の範囲で指定します。				
コマンド デフォルト	なし				
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>5.0(2)N1(1)</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。				
例	次に、FCS プラットフォームおよびノード名のチェックをファブリック全体でイネーブルにする例を示します。 <pre>switch(config)# fcs plat-check-global vsan 2</pre>				
関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>show fcs</td><td>ファブリック設定サーバ情報を表示します。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	show fcs	ファブリック設定サーバ情報を表示します。
コマンド	説明				
show fcs	ファブリック設定サーバ情報を表示します。				

fcs register

Fabric Configuration Server (FCS; ファブリック コンフィギュレーション サーバ) 属性を登録するには、**fcs register** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcs register

no fcs register

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FCS 属性を登録する例を示します。

```
switch(config)# fcs register
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcs	ファブリック設定サーバ情報を表示します。

fcs virtual-device-add

FCS からのゾーン情報に関するクエリーに仮想デバイスを含めるには、**fcs virtual-device-add** コマンドを使用します。仮想デバイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcs virtual-device-add [vsan-ranges vsan-ids]
```

```
no fcs virtual-device-add [vsan-ranges vsan-ids]
```

構文の説明	vsan-ranges vsan-ids (任意) VSAN の範囲を 1 つ以上指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
-------	---

コマンド デフォルト	ディセーブル
------------	--------

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード
----------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	VSAN の範囲は <i>vsan-ids-vsan-ids</i> のように使用します。複数の範囲を指定する場合は、各範囲をカンマで区切ります。範囲を指定しないと、コマンドはすべての VSAN に適用されます。
------------	--

例	次に、1 つの範囲の VSAN に追加する例を示します。 switch(config)# fcs virtual-device-add vsan-ranges 2-4 次に、複数の範囲の VSAN に追加する例を示します。 switch(config)# fcs virtual-device-add vsan-ranges 2-4,5-8
---	---

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcs	ファブリック設定サーバ情報を表示します。

fcsp

Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) 対応のスイッチの特定のインターフェイスについて FC-SP 認証モードを設定するには、**fcsp** コマンドを使用します。インターフェイスの FC-SP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcsp {**auto-active** | **auto-passive** | **on** | **off**} [*timeout-period*]

no fcsp

構文の説明

auto-active	指定のインターフェイスを認証するため、 auto-active モードを設定します。
auto-passive	指定のインターフェイスを認証するため、 auto-passive モードを設定します。
on	指定のインターフェイスを認証するため、 on モードを設定します。
off	指定のインターフェイスを認証するため、 off モードを設定します。
<i>timeout-period</i>	(任意) インターフェイスを再認証するためのタイムアウト期間を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 100000 分です (0 がデフォルトで、認証は実行されません)。

コマンドデフォルト

auto-passive モード

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**feature fcsp** コマンドを使用して FC-SP をイネーブルにする必要があります。

例

次に、スロット 2 のポート 1 のファイバチャネル インターフェイスに対して、認証モードをオンにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fcsp on
switch(config-if)#
```

次に、選択されたインターフェイスを、工場出荷時のデフォルト状態 (**auto-passive**) に戻す例を示します。

```
switch(config-if)# no fcsp
```

次に、選択されたインターフェイスを、FC-SP 認証を開始するように変更する例を示します (ただし、再認証は許可しません)。

```
switch(config-if)# fcsp auto-active 0
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcsp	FC-SP をイネーブルにします。
show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

fcsp dhchap

スイッチの DHCHAP オプションを設定するには、**fcsp dhchap** コマンドを使用します。工場出荷時のデフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcsp dhchap {devicename switch-wwn password [0 | 7] password |
  dhgroup [0] [1][2][3][4] | hash [md5 | sha1] | password [0 | 7] password [wwn-id]}
```

```
no fcsp dhchap {devicename switch-wwn password [0 | 7] password |
  dhgroup [0] [1][2][3][4] | hash [md5 | sha1] | password [0 | 7] password [wwn-id]}
```

構文の説明

devicename	ファブリック内の別のデバイスのパスワードを設定します。
<i>switch-wwn</i>	設定するデバイスの WWN を指定します。
password	ローカル スイッチの DHCHAP パスワードを設定します。
0	(任意) クリア テキスト パスワードを指定します。
7	(任意) 暗号化されたテキストでパスワードを指定します。
dhgroup	DHCHAP Diffie-Hellman グループ プライオリティ リストを設定します。
0	(任意) Null DH を指定します。交換は実行されません (デフォルト)。
1 2 3 4	(任意) 標準で指定される 1 つ以上のグループを指定します。
hash	優先順位に従って DHCHAP ハッシュ アルゴリズム プライオリティ リストを設定します。
md5	(任意) Message Digest 5 (MD5) ハッシュ アルゴリズムを指定します。
sha1	(任意) SHA-1 ハッシュ アルゴリズムを指定します。
<i>wwn-id</i>	(任意) WWN ID を指定します。形式は、hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

fcsp dhchap コマンドが表示されるのは、**feature fcsp** コマンドを入力した場合だけです。

ハッシュ アルゴリズムとして SHA-1 を使用すると、Remote Authentication Dial-In User Service (RADIUS) または TACACS+ が使用できなくなります。

DH グループの設定を変更する場合は、ファブリック内のすべてのスイッチに対して設定をグローバルに変更してください。

例

次に、FC-SP をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# # feature fcsp
```

次に、SHA-1 ハッシュ アルゴリズムだけを使用する場合の設定の例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap hash sha1
```

次に、MD-5 ハッシュ アルゴリズムだけを使用する場合の設定の例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap hash md5
```

次に、DHCHAP 認証に対して、MD-5 を使用してから SHA-1 を使用する、デフォルトのハッシュ アルゴリズム プライオリティ リストの使用を定義する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap hash md5 sha1
```

次に、MD-5 ハッシュ アルゴリズムを使用してから SHA-1 ハッシュ アルゴリズムを使用する、工場出荷時のデフォルトのプライオリティ リストに戻す例を示します。

```
switch(config)# no fcsp dhchap hash sha1
```

次に、設定された順番で、DH グループ 2、3、および 4 を優先的に使用する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap dhgroup 2 3 4
```

次に、ローカル スイッチのクリア テキスト パスワードを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap password 0 mypassword
```

次に、指定した WWN を持つデバイスに使用されるローカル スイッチのクリア テキスト パスワードを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap password 0 mypassword 30:11:bb:cc:dd:33:11:22
```

次に、ローカル スイッチに対して暗号化フォーマットで入力されるパスワードを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap password 7 sfsfdf
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcsp	FC-SP をイネーブルにします。
show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

fcsp reauthenticate

ファイバ チャネルまたはバーチャル ファイバ チャネルのインターフェイスを再認証するには、**fcsp reauthenticate** コマンドを使用します。工場出荷時のデフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcsp reauthenticate interface {fc slot/port | vfc vfc-id}
```

```
no fcsp reauthenticate interface {fc slot/port | vfc vfc-id}
```

構文の説明

interface	再認証を実行するインターフェイスを指定します。
fc slot/port	ファイバ チャネル インターフェイスのスロット番号およびポート番号を指定します。
vfc vfc-id	仮想ファイバ チャネル インターフェイスを、仮想インターフェイス グループ番号および仮想インターフェイス ID で指定します。

コマンドデフォルト

30 秒

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、仮想ファイバ チャネル インターフェイスに Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) 再認証を設定する例を示します。

```
switch# fcsp reauthenticate vfc 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcsp	FC-SP をイネーブルにします。
show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

fcsp timeout

Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) メッセージのタイムアウト値を設定するには、**fcsp timeout** コマンドを使用します。工場出荷時のデフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcsp timeout *timeout-period*

no fcsp timeout *timeout-period*

構文の説明

timeout-period タイムアウトの期間を指定します。時間の範囲は 20 ~ 100 秒です。

コマンド デフォルト

30 秒

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

fcsp timeout コマンドを表示できるのは、**feature fcsp** コマンドを使用して FC-SP をイネーブルにしたときだけです。

例

次に、FCSP タイムアウト値を設定する例を示します。

```
switch(config)# feature fcsp
switch(config)# fcsp timeout 60
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcsp	FC-SP をイネーブルにします。
show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

fctimer

デフォルトのファイバ チャンネル タイマーを変更するには、**fctimer** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fctimer {d_s_tov milliseconds | e_d_tov milliseconds | r_a_tov milliseconds} [vsan vsan-id]
```

```
no fctimer {d_s_tov milliseconds | e_d_tov milliseconds | r_a_tov milliseconds} [vsan vsan-id]
```

構文の説明

d_s_tov milliseconds	Distributed Services のタイムアウト値 (DS_TOV) を指定します。有効な範囲は 5000 ~ 100000 ミリ秒です。
e_d_tov milliseconds	Error Detect のタイムアウト値 (ED_TOV) を指定します。有効な範囲は 1000 ~ 100000 ミリ秒で、デフォルトは 2000 ミリ秒です。
r_a_tov milliseconds	Resolution Allocation タイムアウト値 (RA_TOV) を指定します。有効な範囲は 5000 ~ 100000 ミリ秒で、デフォルトは 10000 ミリ秒です。
vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。

コマンド デフォルト

ファイバ チャンネル タイマーのデフォルト値は次のとおりです。

- DS_TOV : 30 秒
- ED_TOV : 2 秒
- RA_TOV : 10 秒

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco、Brocade、および McData の FC Error Detect (ED_TOV) と Resource Allocation (RA_TOV) のタイマーは、デフォルトで同一の値に設定されています。これらの値は、必要に応じて変更できます。FC-SW2 規定に準拠しているため、これらの値はファブリック内の各スイッチで同一の値にする必要があります。

特定の VSAN に異なる TOV 値を設定する場合は、**vsan** オプションを使用します。

例

次に、デフォルトのファイバ チャンネル タイマーを変更する例を示します。

```
switch(config)# fctimer e_d_tov 5000
switch(config)# fctimer r_a_tov 7000
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fctimer	設定されたファイバ チャンネル タイマー値を表示します。

fctimer abort

進行中のファイバチャネル タイマー (fctimer) Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**fctimer abort** コマンドを使用します。

fctimer abort

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、処理中の CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# fctimer abort
```

関連コマンド

コマンド	説明
fctimer distribute	fctimer の CFS 配信をイネーブルにします。
show fctimer	fctimer 情報を表示します。

fctimer commit

ファブリック内で処理中のファイバチャネル タイマー (fctimer) Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションに関連した保留中のコンフィギュレーションを適用するには、**fctimer commit** コマンドを使用します。

fctimer commit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

例

次に、アクティブなファイバチャネル タイマー コンフィギュレーションへの変更をコミットする例を示します。

```
switch(config)# fctimer commit
```

関連コマンド

コマンド	説明
fctimer distribute	fctimer の CFS 配信をイネーブルにします。
show fctimer	fctimer 情報を表示します。

fctimer distribute

ファイバチャネル タイマー (fctimer) の Cisco Fabric Service (CFS) 配信をイネーブルにするには、**fctimer distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fctimer distribute

no fctimer distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイバチャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**fctimer commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定する必要があります。

例

次に、デフォルトのファイバチャネル タイマーを変更する例を示します。

```
switch(config)# fctimer distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
fctimer commit	ファイバチャネル タイマー コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定します。
show fctimer	fctimer 情報を表示します。

fctrace

N ポートへのルートをトレースするには、**fctrace** コマンドを使用します。

```
fctrace {device-alias aliasname | fcid fcid | pwwn pwwn-id} vsan vsan-id [timeout seconds]
```

構文の説明

device-alias <i>aliasname</i>	デバイスエイリアス名を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
fcid <i>fcid</i>	宛先 N ポートの FCID を指定し、形式は 0xhhhhhh です。
pwwn <i>pwwn-id</i>	宛先 N ポートの PWWN を指定し、形式は、 hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
timeout <i>seconds</i>	(任意) タイムアウト値を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 10 です。

コマンドデフォルト

デフォルトでは、タイムアウトまでの待機時間は 5 秒に設定されています。

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)NI(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 1 の指定 FCID へのルートをトレースする例を示します。

```
switch# fctrace fcid 0x660000 vsan 1
```

次に、VSAN 1 の指定デバイスエイリアスへのルートをトレースする例を示します。

```
switch# fctrace device-alias x vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcping	N ポートに ping を実行します。

fdmi suppress-updates

Fabric-Device Management Interface (FDMI) アップデートを停止するには、**fdmi suppress-updates** コマンドを使用します。

fdmi suppress-updates vsan vsan-id

構文の説明

vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
---------------------	------------------------------------

コマンドデフォルト

デフォルトでは、FDMI アップデートは停止されません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 1 の FDMI アップデートを停止する例を示します。

```
switch# fdmi suppress-updates vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fdmi	FDMI データベース情報を表示します。

feature fabric-binding

仮想 SAN (VSAN) のファブリック バインディングをイネーブルにするには、**feature fabric-binding** コマンドを使用します。ファブリック バインディングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fabric-binding

no feature fabric-binding

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファブリック バインディングは、VSAN 単位で設定します。

ファブリック バインディングに参加するファブリック内のスイッチごとに、ファブリック バインディング機能をイネーブルにする必要があります。

例

次に、スイッチのファブリック バインディングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature fabric-binding
switch(config)#
```

次に、スイッチのファブリック バインディングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no feature fabric-binding
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fabric-binding activate	ファブリック バインディングをアクティブにします。
fabric-binding database	ファブリック バインディング データベースを設定します。

feature fc-port-security

ポートセキュリティをイネーブルにするには、**feature fc-port-security** コマンドを使用します。ポートセキュリティをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fc-port-security

no feature fc-port-security

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

feature fc-port-security コマンドを入力すると、FC ポートセキュリティの設定に使用される他のコマンドがイネーブルになります。

例

次に、ポートセキュリティをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fc-port-security
```

次に、ポートセキュリティをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no feature fc-port-security
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fc-port-security	ポートセキュリティ情報を表示します。

feature fcoe

FC_FEATURES_PKG ライセンスのインストール後にバーチャルおよびネイティブのファイバチャネル インターフェイスをイネーブルにするには、**feature fcoe** コマンドを使用します。ファイバチャネル インターフェイスをディセーブルにして、FC_FEATURES_PKG ライセンスをライセンス マネージャ ソフトウェアに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fcoe

no feature fcoe

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

FCoE 機能をイネーブルまたはディセーブルにするには、コンフィギュレーションを保存してからスイッチをリブートする必要があります。

例

次に、スイッチの FCoE をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fcoe
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe	FCoE パラメータを設定します。
show feature	FCoE がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

feature fcoe-npv

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) N ポート バーチャライザ (NPV) をイネーブルにするには、**feature fcoe-npv** コマンドを使用します。FCoE NPV をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fcoe-npv

no feature fcoe-npv

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

以前に FCoE を (**feature fcoe** コマンドを使用して) スイッチ上でイネーブルにした場合、FCoE NPV 機能をイネーブルにすることはできません。FCoE NPV をイネーブルにするには、FCoE 機能をディセーブルにして、システムをリロードし、次にスイッチで FCoE NPV をイネーブルにします。

このコマンドには、FCoE NPV ライセンスが必要です。

例

次に、スイッチで FCoE NPV をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fcoe-npv
FCoE NPV license checked out successfully
fc_plugin extracted successfully
FC plugin loaded successfully
FCoE manager enabled successfully
FCoE NPV enabled on all modules successfully
Warning: Ensure class-fcoe is included in qos policy-maps of all types
switch(config)#
```

次に、スイッチ上で FCoE NPV をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no feature fcoe-npv
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
bind mac-address	仮想ファイバチャネルインターフェイスに MAC アドレスをバインドします。
show feature	FCoE がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

feature fcsp

スイッチの Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) をイネーブルにするには、**feature fcsp** コマンドを使用します。FC-SP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fcsp

no feature fcsp

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

FC-SP 機能がイネーブルであれば、他の FC-SP コマンドを使用できます。

例

次に、FC-SP をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fcsp
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

feature fex

スイッチでファブリック エクステンダ (FEX) 機能をイネーブルにするには、**feature fex** コマンドを使用します。FEX をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fex

no feature fex

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、スイッチで FEX 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature fex
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fex	ファブリック エクステンダを作成し、ファブリック エクステンダ コンフィギュレーション モードを開始します。
show feature	スイッチでイネーブルまたはディセーブルである機能を表示します。

feature npiv

スイッチのすべての Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の N Port Identifier Virtualization (NPIV; N ポート識別子仮想化) をイネーブルにするには、**feature npiv** コマンドを使用します。NPIV をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature npiv

no feature npiv

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

NPIV は、単一 N ポートに複数のポート ID を割り当てる手段を提供します。この機能を使用すると、N ポート上の複数のアプリケーションが異なる ID を使用したり、アクセス コントロール、ゾーニング、ポート セキュリティをアプリケーション レベルで実装したりできます。

スイッチ上のすべての VSAN に対して NPIV をグローバルでイネーブルにし、NPIV 対応のアプリケーションが複数の N ポート ID を使用できるようにする必要があります。

例

次に、スイッチのすべての VSAN について、NPIV をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature npiv
```

次に、スイッチのすべての VSAN について、NPIV をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no feature npiv
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイス設定を表示します。

feature npv

N Port Virtualization (NPV; N ポート仮想化) モードをイネーブルにするには、**feature npv** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature npv

no feature npv

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

NPV モードをイネーブルにすると、インターフェイスに関連したスイッチ コンフィギュレーションが消去され、スイッチは再起動します。スイッチは NPV モードで再起動します。NPV の設定および確認コマンドは、NPV がスイッチでイネーブルの場合にだけ、使用できます。NPV モードをディセーブルにした場合、関連するすべての設定が自動的に消去され、スイッチは再起動します。

例

次に、NPV モードをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature npv
```

関連コマンド

コマンド	説明
show npv status	NPV の現在のステータスを表示します。

feature port-track

間接的なエラーを見つけるためのポート トラッキングをイネーブルにするには、**feature port-track** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature port-track

no feature port-track

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

追跡されたポートがダウンになると、ソフトウェアはリンクされたポートをダウンにします。追跡されたポートが障害から復旧して再度アップになると、リンクされたポートも自動的にアップになります (特に別の設定がないかぎり)。

例

次に、ポート トラッキングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature port-track
```

次に、ポート トラッキングをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no feature port-track
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface fc	指定したファイバ チャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。
show interface san-port-channel	指定の SAN ポート チャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。

feature-set virtualization

スイッチで Cisco 仮想マシン機能をイネーブルにするには、**feature-set virtualization** コマンドを使用します。仮想化機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature-set virtualization

no feature-set virtualization

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン



(注) シスコ仮想マシン機能は、Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチでだけサポートされます。

このコマンドを使用する前に、**install feature-set virtualization** コマンドを使用して、必ずスイッチ上で仮想化フィーチャセットをインストールしておきます。

スイッチ上でシスコ仮想マシンをイネーブルにするまで、仮想化コマンドの表示や仮想化コマンドへのアクセスはできません。



(注) スイッチでの仮想化をイネーブルにする前に、シスコ仮想マシンのフィーチャ セットをインストールする必要があります。

スイッチでこの機能をディセーブルにする前に、次の作業を実行します。

- スイッチ上のすべての仮想イーサネット インターフェイス コンフィギュレーションを削除します。
- スイッチ上のすべての仮想ネットワーク タグ (VNTag) コンフィギュレーションを削除します。
- すべての vethernet タイプのポート プロファイルを削除します。
- **switchport mode access** コマンドを使用してポート モードをアクセスに変更します。

このコマンドには、Enhanced Layer 2 ライセンスが必要です。

例

次に、スイッチ上の仮想化機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature-set virtualization
switch(config)#
```

次に、スイッチ上の仮想化機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# no feature-set virtualization  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface vethernet	仮想イーサネット (vEth) インターフェイスを設定します。
install feature-set virtualization	仮想化フィーチャ セットをスイッチにインストールします。
show feature-set	仮想化フィーチャ セットのステータスを表示します。

fex

Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダを作成し、ファブリック エクステンダ コンフィギュレーション モードを開始するには、**fex** コマンドを使用します。ファブリック エクステンダ 設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fex chassis_ID
```

```
no fex chassis_ID
```

構文の説明	<i>chassis_ID</i>	ファブリック エクステンダ シャーシ ID。有効なシャーシ ID の範囲は 100 ~ 199 です。
-------	-------------------	---

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード
----------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	ファブリック エクステンダは、親スイッチ上のインターフェイスに対して接続および関連付けが行われる前に、作成および設定を行うことができます。ファブリック エクステンダをスイッチに関連付けると、作成した設定がファブリック エクステンダに転送され、適用されます。
------------	--

例	次に、ファブリック エクステンダ コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。
---	--

```
switch# configure terminal
switch(config)# fex 101
switch(config-fex)#
```

次に、ファブリック エクステンダ設定を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no fex 101
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fcoe	Fibre Channel over Ethernet (FCoE) トラフィックのために、ファブリック エクステンダをスイッチに接続します。
	show fex	スイッチに接続されているすべての設定済みファブリック エクステンダ シャーシを表示します。

fspf config

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) 全体の Fabric Shortest Path First (FSPF) 機能を設定するには、**fspf config** コマンドを使用します。VSAN 全体の FSPF 設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```

fspf config vsan vsan-id
  min-ls-arrival ls-arrival-time
  min-ls-interval ls-interval-time
  region region-id
  spf {hold-time spf-holdtime | static}

```

```

no min-ls-arrival
no min-ls-interval
no region
no spf {hold-time | static}

```

```

no fspf config vsan vsan-id

```

構文の説明

vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
min-ls-arrival <i>ls-arrival-time</i>	ドメインの新しいリンク ステート アップデートがスイッチによって受け入れられるまで最小時間を指定します。 <i>ls-arrival-time</i> は、ミリ秒単位の時間を指定する整数です。指定できる範囲は 0 ~ 65535 です。
min-ls-interval <i>ls-interval-time</i>	ドメインの新しいリンク ステート アップデートがスイッチによって生成されるまで最小時間を指定します。 <i>ls-interval-time</i> は、時間を指定するミリ秒単位の整数です。指定できる範囲は 0 ~ 65535 です。
region <i>region-id</i>	スイッチが属している自律領域を指定します。バックボーン領域は、 <i>region-id=0</i> です。 <i>region-id</i> は符号なし整数値で、範囲は 0 ~ 255 です。
spf	Shortest Path First (SPF) ルート計算に関連するパラメータを指定します。
hold-time <i>spf-holdtime</i>	2 つの連続した SPF 計算の間の時間を指定します。時間が短い場合、ルーティングは変更に対して速く処理されますが、CPU の使用率が高くなります。 <i>spf-holdtime</i> は、時間を指定するミリ秒単位の整数です。指定できる範囲は 0 ~ 65535 です。
static	スタティックな SPF を強制的に計算します。

コマンド デフォルト

このコマンドは、バーチャル ファイバ チャネル インターフェイスには使用できません。FSPF コンフィギュレーション モードでは、デフォルトはダイナミック SPF 計算です。*spf hold-time* を設定する場合、FSPF のデフォルト値は 0 です。*min-ls-arrival* を設定する場合、FSPF のデフォルト値は 1000 ミリ秒です。*min-ls-interval* を設定する場合、FSPF のデフォルト値は 5000 ミリ秒です。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

fspf config コマンドを使用すると、指定の Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の FSPF コンフィギュレーション モードを開始できます。FSPF コンフィギュレーション モードでは、コマンドによってこの VSAN の FSPF が設定されます。

例

次に、VSAN 1 のスタティック SPF 計算を設定し、VSAN 3 の FSPF コンフィギュレーションを削除する例を示します。

```
switch(config)# fspf config vsan 1
switch(fspf-config)# spf static
switch(fspf-config)# exit
switch(config)# no fspf config vsan 3
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
fspf enable	指定された VSAN 内で FSPF ルーティング プロトコルをイネーブルにします。
fspf cost	指定された VSAN 内の選択されたインターフェイスにコストを設定します。
fspf hello-interval	VSAN 内のリンクの状態を確認するために、hello メッセージ インターバルを指定します。
fspf passive	指定された VSAN 内の特定のインターフェイスに対して FSPF プロトコルをディセーブルにします。
fspf retransmit	指定された VSAN の未確認応答リンク ステート アップデートの再送信タイム インターバルを指定します。

fspf cost

Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスまたは仮想ファイバ チャネル インターフェイスの Fabric Shortest Path First (FSPF) リンク コストを設定するには、**fspf cost** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf cost link-cost vsan vsan-id
```

```
no fspf cost link-cost vsan vsan-id
```

構文の説明

<i>link-cost</i>	FSPF リンク コストを秒単位で指定します。 FCIP インターフェイスの場合、範囲は 1 ~ 65535 です。 仮想 FC インターフェイスの場合、範囲は 1 ~ 30000 です。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

- 1 ギガビット/秒のインターフェイスでは 1000 秒
- 2 ギガビット/秒のインターフェイスでは 500 秒

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N2(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N2(1)	仮想ファイバ チャネル インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

FSPF はファブリック内のすべてのスイッチのリンク ステータスを追跡し、データベース内の各リンクにコストを対応付け、コストが最小なパスを選択します。インターフェイスに関連付けられたコストは、**fspf cost** コマンドを使用すれば変更可能で、FSPF ルート選択が実装されます。

仮想ファイバ チャネル インターフェイスの場合、このコマンドは、仮想 E (VE) ポートの FSPF パラメータを設定します。

例

次に、FCIP インターフェイスで FSPF リンク コストを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf cost 5000 vsan 1
```

次に、仮想ファイバ チャネル インターフェイスで FSPF リンク コストを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 5
switch(config-if)# fspf cost 2100 vsan 1
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
show interface fc	指定したファイバ チャネル インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
switchport mode E	仮想ファイバ チャネル インターフェイスを VE ポートとして設定します。

fspf dead-interval

hello メッセージが受信されず、ネイバーがダウンしたと判断されるまでの最大インターバルを設定するには、**fspf dead-interval** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fspf dead-interval seconds vsan vsan-id

no fspf dead-interval seconds vsan vsan-id

構文の説明

seconds	FSPF のデッド インターバルを秒単位で指定します。有効な範囲は 2 ～ 65535 です。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ～ 4093 です。

コマンド デフォルト

80 秒

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N2(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N2(1)	仮想ファイバ チャネル インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

この値は、ISL の両端のポートで同じでなければなりません。



注意

設定したデッド時間間隔が hello 時間間隔より短い場合、コマンドプロンプトでエラーが報告されます。

仮想ファイバ チャネル インターフェイスの場合、このコマンドは、仮想 E (VE) ポートの FSPF パラメータを設定します。

例

次に、ネイバーがダウンしたと見なされるまでの、hello メッセージの最大インターバルを 4000 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf dead-interval 4000 vsan 1
switch(config-if)#
```

次に、仮想ファイバ チャネル インターフェイスで、ネイバーがダウンしたと見なされるまでの、hello メッセージの最大インターバルを 300 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 5
switch(config-if)# fspf dead-interval 300 vsan 1
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
show interface fc	指定したファイバ チャネル インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
switchport mode E	仮想ファイバ チャネル インターフェイスを VE ポートとして設定します。

fspf enable

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の Fabric Shortest Path First (FSPF) をイネーブルにするには、**fspf enable** コマンドを使用します。FSPF ルーティング プロトコルをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fspf enable vsan vsan-id

no fspf enable vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
コマンド デフォルト	イネーブル	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	このコマンドは、バーチャルファイバチャネルインターフェイスには使用できません。 このコマンドは VSAN 上で FSPF をグローバルに設定します。	
例	次に、VSAN 5 の FSPF をイネーブルにし、VSAN 7 の FSPF をディセーブルにする例を示します。 switch(config)# fspf enable vsan 5 switch(config)# no fspf enable vsan 7	
関連コマンド	コマンド	説明
	fspf config vsan	VSAN の FSPF 機能を設定します。
	show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。

fspf hello-interval

リンク状態を確認するには、**fspf hello-interval** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf hello-interval seconds vsan vsan-id
```

```
no fspf hello-interval seconds vsan vsan-id
```

構文の説明

hello-interval seconds	FSPF の hello インターバルを秒単位で指定します。範囲は、Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスの場合は 2 ~ 65535、仮想ファイバチャネル インターフェイスの場合は 1 ~ 65534 です。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

20 秒

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N2(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N2(1)	仮想ファイバチャネル インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、指定のファイバチャネル インターフェイスの Fabric Shortest Path First (FSPF) を設定します。この値は、Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスの ISL の両端のポートで同じである必要があります。

仮想ファイバチャネル インターフェイスの場合、このコマンドは、仮想 E (VE) ポートの FSPF パラメータを設定します。

例

次に、VSAN 1 の hello インターバルを 3 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1  
switch(config-if)# fspf hello-interval 3 vsan 1
```

次に、VSAN 1 の仮想ファイバチャネル インターフェイスの hello インターバルを 30 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 5  
switch(config-if)# fspf hello-interval 30 vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
switchport mode E	仮想ファイバチャネル インターフェイスを VE ポートとして設定します。

fspf passive

選択したインターフェイスの Fabric Shortest Path First (FSPF) プロトコルをディセーブルにするには、**fspf passive** コマンドを使用します。デフォルト状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf passive vsan vsan-id
```

```
no fspf passive vsan vsan-id
```

構文の説明

vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

FSPF はイネーブルです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N2(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N2(1)	仮想ファイバ チャネル インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、FSPF は Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスのすべての E ポートおよび TE ポートでイネーブルです。FSPF をディセーブルにするには、**fspf passive** コマンドを使用してインターフェイスをパッシブに設定します。プロトコルが正常に動作するためには、ISL の両端のポートで FSPF をイネーブルにする必要があります。

仮想ファイバ チャネル インターフェイスの場合、このコマンドは、仮想 E (VE) ポートの FSPF パラメータを設定します。

例

次に、VSAN 1 の FCIP インターフェイスの FSPF プロトコルをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf passive vsan 1
```

次に、VSAN 1 の仮想ファイバ チャネル インターフェイスの FSPF プロトコルをディセーブルにし、インターフェイス コンフィギュレーションを確認する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 5
switch(config-if)# fspf passive vsan 1
switch(config-if)# show fspf interface
FSPF interface vfc5 in VSAN 1
FSPF routing administrative state is passive
Timer intervals configured, Hello 30 s, Dead 300 s, Retransmit 5 s
FSPF State is DOWN

switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
show interface fc	指定した FCIP インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
switchport mode E	仮想ファイバチャネルインターフェイスを VE ポートとして設定します。

fspf retransmit-interval

未確認応答リンク状態アップデートがインターフェイス上で送信されるまでの時間を指定するには、**fspf retransmit-interval** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fspf retransmit-interval *seconds* *vsan* *vsan-id*

no fspf retransmit-interval *seconds* *vsan* *vsan-id*

構文の説明	seconds	Fabric Shortest Path First (FSPF) の再送信インターバルを秒単位で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 65535 です。
	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト 5 秒

コマンドモード インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
	5.0(2)N2(1)	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン この値は、Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスの ISL の両端のポートで同じである必要があります。

仮想ファイバ チャンネル インターフェイスの場合、このコマンドは、仮想 E (VE) ポートの FSPF パラメータを設定します。

例 次に、未確認応答リンク ステート アップデートが VSAN 1 のインターフェイス上で送信されるまでの再送信間隔を 6 秒に指定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf retransmit-interval 6 vsan 1
```

次に、3 秒の再送信インターバルを指定し、インターバルの後に未確認応答リンク ステート アップデートが VSAN 1 の仮想ファイバ チャンネル インターフェイスで送信する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 5
switch(config-if)# fspf retransmit-interval 3 vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
	show interface fc	指定した FCIP インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
	switchport mode E	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを VE ポートとして設定します。



I コマンド

この章では、I で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

in-order-guarantee

順次配信をイネーブルにするには、**in-order-guarantee** コマンドを使用します。順序どおりの配信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

in-order-guarantee [*vsan vsan-id*]

no in-order-guarantee [*vsan vsan-id*] [,] [-]

構文の説明

vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
[,] [-]	(任意) カンマで区切って複数の VSAN を入力することも、またダッシュを使用して VSAN の範囲を入力することも可能です。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

データ フレームの順次配信は、送信元の送信順と同一の順番で宛先にフレーム配信することを保証します。

例

次に、順序どおりの配信をスイッチ全体でイネーブルにする例を示します。

```
switch(config) # in-order-guarantee
```

次に、順序どおりの配信をスイッチ全体でディセーブルにする例を示します。

```
switch(config) # no in-order-guarantee
```

次に、順序どおりの配信を特定 VSAN でイネーブルにする例を示します。

```
switch(config) # in-order-guarantee vsan 3452
```

次に、順序どおりの配信を特定 VSAN でディセーブルにする例を示します。

```
switch(config) # no in-order-guarantee vsan 101
```

関連コマンド

コマンド	説明
show in-order-guarantee	in-order-guarantee ステータスを表示します。

install feature-set virtualization

スイッチ上でシスコ仮想マシンのフィーチャセットをインストールするには、**install feature-set virtualization** コマンドを使用します。シスコ仮想マシンのフィーチャセットを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

install feature-set virtualization

no install feature-set virtualization

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン



(注)

シスコ仮想マシン機能は、Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチでだけサポートされます。

このコマンドには、Enhanced Layer 2 ライセンスが必要です。

例

次に、スイッチ上でシスコ仮想マシンのフィーチャセットをインストールする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# install feature-set virtualization
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature-set virtualization	スイッチで Cisco 仮想マシン フィーチャ セットをイネーブルにします。
show feature-set	仮想化フィーチャセットのステータスを表示します。
show running-config	実行システム コンフィギュレーション情報を表示します。

interface fc

Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチのファイバチャネル インターフェイスを設定するには、**interface fc** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface fc slot/port
  channel-group {group-id [force] | auto}
  fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
  fcsp {auto-active | auto-passive | on | off} [timeout-period]
  fspf {cost link-cost vsan vsan-id | dead-interval seconds vsan vsan-id | hello-interval seconds
vsan vsan-id | passive vsan vsan-id | retransmit-interval seconds vsan vsan-id}
  switchport

no interface fc slot/port
  no channel-group {group-id [force] | auto}
  no fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
  no fcsp {auto-active | auto-passive | on | off}
  no fspf {cost link-cost vsan vsan-id | dead-interval seconds vsan vsan-id | hello-interval
seconds vsan vsan-id | passive vsan vsan-id | retransmit-interval seconds vsan vsan-id}
  switchport
```

構文の説明

<i>slot/port</i>	インターフェイスのスロット番号およびポート番号を指定します。
channel-group	ポート チャネルに追加するか、ポート チャネルから削除します。
<i>group-id</i>	ポート チャネル グループ番号を 1 ~ 128 の間で指定します。
force	(任意) ポートを強制的に追加します。
auto	ポート チャネルの自動作成をイネーブルにします。
fcdomain	インターフェイス モードを開始します。
rcf-reject	Reconfigure Fabric (RCF) 拒否フラグを設定します。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
fcsp	特定インターフェイスの Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) パラメータを設定します。
auto-active	指定のインターフェイスを認証するため、 auto-active モードを設定します。
auto-passive	指定のインターフェイスを認証するため、 auto-passive モードを設定します。
on	指定のインターフェイスを認証するため、 on モードを設定します。
off	指定のインターフェイスを認証するため、 off モードを設定します。
<i>timeout-period</i>	(任意) インターフェイスを再認証するためのタイムアウト期間を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 100000 分です (0 がデフォルトで、認証は実行されません)。
fspf	FSPF パラメータを設定します。
cost link-cost	FSPF リンク コストを設定します。指定できる範囲は 1 ~ 65535 です。
dead-interval seconds	FSPF のデッド インターバルを秒単位で設定します。有効な範囲は 2 ~ 65535 です。
hello-interval seconds	FSPF の hello インターバルを設定します。指定できる範囲は 1 ~ 65535 です。
passive	インターフェイスの FSPF をディセーブル、またはイネーブルにします。

retransmit-interval <i>seconds</i>	FSPF の再送信インターフェイスを秒単位で設定します。指定できる範囲は 1 ～ 65535 です。
switchport	スイッチポート パラメータを設定します。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

次の形式でコマンドを入力して、インターフェイスの範囲を指定できます。

```
interface fc 1/1 - 5 , fc 2/5 - 7
```

インターフェイスをイネーブルにするには、**no shutdown** コマンドを使用します。

interface fc コマンドを使用すると、インターフェイス コンフィギュレーション モードになります。このモードでは 5 つのコマンドを使用できます (それぞれに **no** 形式があります)。これらの 5 つのコマンドは、インターフェイス コンフィギュレーション モードだけで使用できます。

channel-group auto コマンドでは、ポート チャネルの自動作成がイネーブルになります。ポート チャネルの自動作成がインターフェイスに対してイネーブルになっている場合、古いソフトウェアバージョンにダウングレードする前、または手動で設定されたチャネル グループのインターフェイスを設定する前に、まずこのコンフィギュレーションをディセーブルにする必要があります。

例

次に、ファイバ チャネル インターフェイス 3 のポート 1 ～ 4 を設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 3/1 - 4
```

次に、スロット 3 のポート 1 のファイバ チャネル インターフェイスをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 3/1
switch(config-if)# no shutdown
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。

interface san-port-channel

Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチの SAN ポート チャネル インターフェイスを設定するには、**interface san-port-channel** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface san-port-channel port
```

```
no interface san-port-channel port
```

構文の説明	<i>port</i> SAN ポート チャネル インターフェイス ID。有効な範囲は 1 ~ 256 です。
-------	---

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード
----------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
	5.1(3)N1(1)	description 、 shutdown 、および switchport キーワードは、 interface san-port-channel コマンドから分けられました。これらは個別のコマンドとして説明します。

使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは必要ありません。
------------	-----------------------

例	この例では、SAN ポート チャネル インターフェイス 3 で SAN を設定する例を示します。
---	--

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	channel mode active (SAN ポート チャネル)	アクティブ ポート チャネル ポートとして SAN ポート チャネル インターフェイスを設定します。
	show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
	shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。
	switchport (SAN ポート チャネル)	SAN ポート チャネル インターフェイスのスイッチ ポート パラメータを設定します。

interface vethernet

仮想イーサネット (vEth) インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface vethernet** コマンドを使用します。仮想イーサネット インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface vethernet veth-id[, vethernet veth-id, ...]
```

```
no interface vethernet veth-id[, vethernet veth-id, ...]
```

構文の説明

<i>veth-id</i>	仮想イーサネット インターフェイス番号。有効な範囲は 1～1,048,575 です。 複数の仮想イーサネット インターフェイスを指定できます。必ずカンマ (,) 区切り文字を使用します。
----------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

仮想イーサネット インターフェイスを使用する前に、**feature-set virtualization** コマンドを使用してスイッチの Cisco 仮想マシン機能をイネーブルにする必要があります。

Cisco Nexus 5548 スイッチでは、最大で 1000 個の仮想イーサネット インターフェイスを作成できます。スイッチで Cisco アダプタ ファブリック エクステンダ (Adapter-FEX) をディセーブルにする前に、必ずこれらのインターフェイスを削除してください。仮想イーサネット インターフェイスを削除した後、スイッチの実行コンフィギュレーションを必ずスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。

例

次に、仮想イーサネット インターフェイス 10 のコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vethernet 10
switch(config-if)#
```

次に、仮想イーサネット インターフェイスを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no interface vethernet 2
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
bind	仮想イーサネット インターフェイスにインターフェイスをバインドします。
feature-set virtualization	スイッチで Cisco 仮想マシン機能をイネーブルにします。
show interface vethernet	仮想イーサネット インターフェイスの各種パラメータを表示します。
show running-config interface	インターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。

interface vfc

Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチの仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを設定するには、**interface vfc** コマンドを使用します。仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface vfc vfc-id
```

```
no interface vfc vfc-id
```

構文の説明	<i>vfc-id</i>	仮想インターフェイス ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 8192 です。
コマンド デフォルト		ディセーブル
コマンド モード		グローバル コンフィギュレーション モード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
	5.0(2)N1(1)	bind 、 description 、および shutdown コマンドは interface vfc コマンドから分離されました。
	5.0(2)N2(1)	仮想 E (VE) ポートのサポートが追加されました。
使用上のガイドライン		次の形式でコマンドを入力して、インターフェイスの範囲を指定できます。 interface vfc 1 - 3, vfc 5 - 7
例		次に、仮想ファイバ チャンネル インターフェイス 3 のインターフェイス コンフィギュレーション モードを入力する例を示します。 switch(config)# interface vfc 3 switch(config-if)#
関連コマンド	コマンド	説明
	bind	インターフェイスに仮想ファイバ チャンネル インターフェイスをバインドします。
	description	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスの目的のサマリーを入力します。
	show interface vfc	指定の VFC インターフェイス、属性、およびステータスを表示します。
	shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。
	switchport (仮想ファイバ チャンネル インターフェイス)	仮想ファイバ チャンネル インターフェイスを仮想 E (VE) ポートとして設定します。
	switchport mode trunk	イーサネット インターフェイスをトランク ポートとして設定します。

■ interface vfc



L コマンド

この章では、L で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

lldp

Link Layer Discovery Protocol (LLDP; リンク層検出プロトコル) のグローバル オプションを設定するには、**lldp** コマンドを使用します。LLDP の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
lldp {holdtime seconds | reinit seconds | timer seconds}
```

```
no lldp {holdtime | reinit | timer}
```

構文の説明

holdtime seconds	保持時間 (秒単位) を指定し、デバイスが、受信した LLDP 情報を破棄するまでに保持する時間の長さを設定します。 有効な範囲は 10 ~ 255 です。デフォルトは 120 秒です。
reinit seconds	任意のインターフェイスで LLDP の初期化を実行する前に待つ時間の長さ (秒単位) を指定します。 有効な範囲は 1 ~ 10 秒で、デフォルトは 2 秒です。
timer seconds	LLDP パケットが送信されるレート (秒単位) を指定します。 有効な範囲は 5 ~ 254 秒で、デフォルトは 30 秒です。

コマンドデフォルト

保持時間 : 120 秒。
再初期化 : 2 秒。
タイマー : 30 秒。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

LLDP 設定値には、ピアから受信した LLDP 情報を廃棄するまでの時間、任意のインターフェイスで LLDP 初期化を実行するまで待機する時間、および LLDP パケットを送信するレートが含まれます。

例

次に、グローバルな LLDP ホールドタイムを 200 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# lldp holdtime 200
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
lldp (インターフェイス)	インターフェイスに LLDP 機能を設定します。
show lldp	LLDP 設定情報を表示します。

lldp (インターフェイス)

インターフェイス上でリンク層検出プロトコル (LLDP) パケットの受信または送信をイネーブルにするには、**lldp** コマンドを使用します。LLDP パケットの受信または送信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
lldp {receive | transmit}
```

```
no lldp {receive | transmit}
```

構文の説明	receive	インターフェイスが LLDP パケットを受信するよう、指定します。
	transmit	インターフェイスが LLDP パケットを送信するよう、指定します。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、LLDP パケットを送信するようインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# lldp transmit
switch(config-if)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interface	インターフェイスに関する設定情報を表示します。

logging abort

進行中のロギング Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**logging abort** コマンドを使用します。

logging abort

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、処理中のロギング CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# logging abort
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging	ロギング情報を表示します。

logging commit

ファブリック内で進行中のロギング Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションに関する未決定コンフィギュレーションを適用するには、**logging commit** コマンドを使用します。

logging commit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、アクティブなロギング コンフィギュレーションへの変更をコミットする例を示します。

```
switch(config)# logging commit
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging	ロギング情報を表示します。

logging distribute

ロギングの Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、**logging distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging distribute

no logging distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイバチャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**logging commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定する必要があります。

例

次に、ロギング コンフィギュレーションの配信を変更する例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging commit	ロギング コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定します。
show logging	ロギング情報を表示します。



M コマンド

この章では、M で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

member (FC エイリアス コンフィギュレーション モード)

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のファイバ チャネル エイリアスにメンバ名を追加するには、**member** コマンドを使用します。ファイバ チャネル エイリアスからメンバ名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
member {device-alias aliasname | domain-id domain-id port-number port-number | fcid fc-id |
fwwn fwwn-id | interface fc slot/port [domain-id domain-id | swwn swwn-id] | pwwn pwwn-id
| symbolic-nodename nodename}
```

```
no member {device-alias aliasname | domain-id domain-id port-number port-number | fcid fc-id
| fwwn fwwn-id | interface fc slot/port [domain-id domain-id | swwn swwn-id] | pwwn pwwn-id
| symbolic-nodename nodename}
```

構文の説明

device-alias <i>aliasname</i>	メンバー デバイス エイリアスを指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
domain-id <i>domain-id</i>	メンバー ドメイン ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 239 です。
port-number <i>port-number</i>	0 ~ 255 の範囲でポート番号を指定します。
fcid <i>fc-id</i>	メンバー FC ID を指定します。フォーマットは、 <i>0xhhhhhh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
fwwn <i>fwwn-id</i>	メンバー fWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
interface fc <i>slot/port</i>	メンバ インターフェイス ID と、そのスロット番号およびポート番号を指定します。
swwn <i>swwn-id</i>	(任意) メンバー sWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
pwwn <i>pwwn-id</i>	メンバー pWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
symbolic-nodename <i>nodename</i>	メンバー シンボル ノード名を指定します。最大 255 文字まで可能です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

FC エイリアス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、`samplealias` というエイリアスにメンバを追加する例を示します。

```
switch(config)# fcalias name samplealias
```

次に、メンバにファイバチャネル インターフェイスを定義する例を示します。

```
switch(config-fcalias)# member interface fc3/1
```

次に、指定されたメンバを削除する例を示します。

```
switch(config-fcalias)# no member interface fc3/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcalias name	エイリアスを設定します。
show fcalias	エイリアスのメンバー名情報を表示します。

member (ゾーン コンフィギュレーション モード)

ファイバ チャネル ゾーンにメンバー名を追加するには、**member** コマンドを使用します。ゾーンからメンバ名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
member {device-alias aliasname | domain-id domain-id port-number port | fcalias alias-name |
fcid fc-id | fwwn fwwn-id | interface fc slot/port [domain-id domain-id | swwn swwn-id] | pwwn
pwwn-id [lun lun-id] | symbolic-nodename nodename}
```

```
no member {device-alias aliasname | domain-id domain-id port-number port | fcalias alias-name
| fcid fc-id | fwwn fwwn-id | interface fc slot/port [domain-id domain-id | swwn swwn-id] |
pwwn pwwn-id [lun lun-id] | symbolic-nodename nodename}
```

構文の説明

device-alias <i>aliasname</i>	メンバー デバイス エイリアスを指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
domain-id <i>domain-id</i>	メンバー ドメイン ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 239 です。
port-number <i>port</i>	メンバー ポート番号を指定します。有効な範囲は 0 ~ 255 です。
fcalias <i>alias-name</i>	ファイバ チャネル エイリアス名を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
fcid <i>fc-id</i>	メンバー FC ID を指定します。フォーマットは、 <i>0xhhhhhh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
fwwn <i>fwwn-id</i>	メンバー fWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
interface fc <i>slot/port</i>	メンバ インターフェイス ID と、そのスロット番号およびポート番号を指定します。
swwn <i>swwn-id</i>	(任意) メンバー sWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
pwwn <i>pwwn-id</i>	メンバー pWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
lun <i>lun-id</i>	(任意) メンバ Logical Unit Number (LUN) ID を指定します。フォーマットは、 <i>0xhhhh[:hhhh[:hhhh[:hhhh]]]</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
symbolic-nodename <i>nodename</i>	メンバー シンボル ノード名を指定します。名前は、最大 255 文字まで指定できます。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ゾーン セット ゾーン コンフィギュレーション モードおよびゾーン セットゾーン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ゾーン セット プロンプトからゾーンにメンバーを追加する必要がある場合にだけ、ゾーン セット ゾーンのメンバーを作成します。

例

次に、VSAN 1 の zs1 というゾーンにメンバを追加する例を示します。

```
switch(config)# zone name zs1 vsan 1
switch(config-zone)# member fcid 0x111112
```

次に、VSAN 1 の Zoneset1 というゾーン セットにゾーンを追加する例を示します。

```
switch(config)# zoneset name ZoneSet1 vsan 1
switch(config-zoneset-zone)# member fcid 0x111112
```

次に、ファイバ チャネル インターフェイス メンバをゾーンに割り当てる例を示します。

```
switch(config)# zoneset name ZoneSet1 vsan 1
switch(config-zoneset-zone)# member interface fc 3/1
```

次に、指定したデバイスをゾーンから削除する例を示します。

```
switch(config-zoneset-zone)# no member interface fc 3/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
zoneset (コンフィギュレーション モード)	ゾーン セットの名前を指定します。
zone name (ゾーン セット コンフィギュレーション モード)	ゾーン セットにゾーンを設定します。
show zoneset	ゾーン セット情報を表示します。

member (ゾーンセット コンフィギュレーション モード)

ゾーンセット メンバを設定するには、**member** コマンドを使用します。ゾーンセット メンバを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

member *member-name*

no member *member-name*

構文の説明

member-name メンバ名を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ゾーンセット コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、メンバゾーンをゾーンセットに追加する例を示します。

```
switch(config)# zoneset name Zoneset1 vsan 10
switch(config-zoneset)# member ZoneA
```

関連コマンド

コマンド	説明
show zone	ゾーン情報を表示します。
zoneset name	ゾーンセットを作成します。



N コマンド

この章では、N で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

npv auto-load-balance disruptive

N Port Virtualization (NPV; N ポート仮想化) ディスラプティブ ロード バランシングをイネーブルにするには、**npv auto-load-balance disruptive** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

npv auto-load-balance disruptive

no npv auto-load-balance disruptive

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ディスラプティブ ロード バランシングを設定できるのは NPV モードだけです。

ディスラプティブ ロード バランシングがイネーブルの場合、新しい NP アップリンクが動作すると、NPV はすべての利用可能な NP アップリンク全体にサーバ インターフェイスを再配布します。サーバ インターフェイスを 1 つの NP アップリンクからの別の NP アップリンクに移動するために、NPV はサーバ インターフェイスを強制的に再初期化して、サーバがコア スイッチへのログインを新たに実行するようにします。このアクションにより、接続されているエンド デバイス上でトラフィックが中断します。

サーバトラフィックの中断を回避するには、新しい NP アップリンクを追加した後にだけこの機能をイネーブルにし、サーバ インターフェイスの再配布が完了したらこの機能を再度ディセーブルにします。

例

次に、ディスラプティブ ロード バランシングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# npv auto-load-balance disruptive
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature npv	NPV モードをイネーブルにします。
show npv status	NPV の現在のステータスを表示します。

npv traffic-map

N Port Virtualization (NPV; N ポート仮想化) トラフィック マップを設定するには、**npv traffic-map** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
npv traffic-map server-interface {fc slot/port | vfc vfc-id} external-interface fc slot/port
```

```
no npv traffic-map server-interface {fc slot/port | vfc vfc-id} external-interface fc slot/port
```

構文の説明

server-interface	サーバ インターフェイス、またはサーバ インターフェイスの範囲を指定します。
fc slot/port	ネイティブ ファイバ チャンネル インターフェイスのスロット番号とポート番号を指定します。
vfc vfc-id	バーチャル ファイバ チャンネル インターフェイスを指定します。
external-interface	サーバ インターフェイスによって選択可能な NP/TNP アップリンク インターフェイスまたは NP/TNP アップリンク インターフェイスの範囲を指定します。

コマンド デフォルト

トラフィック マップなし。スイッチは、自動アップリンク選択を使用して、サーバ インターフェイスの NP アップリンクを選択します。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、スイッチが NPV モードで動作しているときにだけ使用できます。NPV トラフィック マップは、NPV モードでだけ設定できます。

例

次に、サーバ インターフェイス **vfc1** と NP アップリンク **fc 3/1** とのマッピングを作成する例を示します。

```
switch(config)# npv traffic-map server-interface vfc 1 external-interface fc 3/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature npv	NPV モードをイネーブルにします。
show npv status	NPV の現在のステータスを表示します。



P コマンド

この章では、P で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

port-track force-shut

追跡されたポートを強制的にシャットダウンするには、**port-track force-shut** コマンドを使用します。ポート トラッキングを再度イネーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

port-track force-shut

no port-track force-shut

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

追跡されたポートが復旧しても、リンクされたポートをダウンのままにするには、**port-track force-shut** コマンドを使用します。必要になったときは、**no port-track force-shut** コマンドを使用して、ポートを明示的にアップにする必要があります。

例

次に、インターフェイスと、トラッキング中のインターフェイスを強制的にシャットダウンする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/2
switch(config-if)# no port-track force-shut
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature port-track	ポート トラッキングをイネーブルにします。
show interface fc	指定したファイバ チャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。
show interface san-port-channel	指定の SAN ポート チャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。

port-track interface

特定インターフェイスのポート トラッキングをイネーブルにするには、**port-track interface** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
port-track interface {fc slot/port | san-port-channel port} [vsan vsan-id]
```

```
no port-track interface {fc slot/port | san-port-channel port} [vsan vsan-id]
```

構文の説明

fc slot/port	ファイバ チャネル インターフェイスを指定します。
san-port-channel port	SAN ポート チャネル インターフェイスを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 128 です。
vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスが追跡中のポートがダウン状態になった場合、インターフェイスもダウン状態になります。追跡されたポートが復旧すると、リンクされているインターフェイスも復旧します。リンクされたインターフェイスをダウンのままにするには、**port-track force-shut** コマンドを使用します。

例

次に、特定のインターフェイスのポート トラッキングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/3
switch(config-if)# port-track interface san-port-channel 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature port-track	ポート トラッキングをイネーブルにします。
port-track force-shut	ポート トラッキングのインターフェイスを強制的にシャットダウンします。
show interface fc	指定したファイバ チャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。
show interface san-port-channel	指定の SAN ポート チャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。

purge fcdomain fcid

永続的な FCID を消去するには、**purge fcdomain fcid** コマンドを使用します。

purge fcdomain fcid vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	VSAN ID の FCID が消去されることを示します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
-------	---------------------	--

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	EXEC モード
---------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、VSAN 4 内にあるすべてのダイナミックな未使用 FCID を消去する例を示します。

```
switch# purge fcdomain fcid vsan 4
```

次に、VSAN 4、5、6 内にあるすべてのダイナミックな未使用 FCID を消去する例を示します。

```
switch# purge fcdomain fcid vsan 4-6
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcdomain	ファイバチャネル ドメイン (fcdomain) 情報を表示します。



R コマンド

この章では、R で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

rlr preferred-cond fcid

Registered Link Incident Report (RLIR) フレームを優先的に受信するホストを指定するには、**rlr preferred-cond fcid** コマンドを使用します。優先的なホストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
rlr preferred-cond fcid fc-id vsan vsan-id
```

```
no rlr preferred-cond fcid fc-id vsan vsan-id
```

構文の説明

fcid <i>fc-id</i>	FC ID を指定します。フォーマットは 0xhhhhh です。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

デフォルトでは、登録機能が「always receive」に設定されているホストがない場合、スイッチは登録機能が「conditionally receive」に設定されている仮想 SAN (VSAN) 内のホストの 1 つに RLIR フレームを送信します。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スイッチが優先ホストに RLIR フレームを送信するのは、次の条件が満たされた場合だけです。

- RLIR に関して、登録機能が「always receive」に設定されているホストが VSAN 内にない。VSAN 内の 1 つ以上のホストが「always receive」として登録されている場合、RLIR はそれらのホストにだけ送信され、設定されている優先ホストには送信されません。
- 優先ホストの登録機能が「conditionally receive」に設定されている。登録されているすべてのホストの登録機能が「conditionally receive」に設定されている場合は優先ホストが RLIR フレームを受信します。

指定できる RLIR 優先ホストは、VSAN ごとに 1 つだけです。

例

次に、VSAN 2 の RLIR 優先ホストとして FCID 0x654321 を指定する例を示します。

```
switch(config)# rlr preferred-cond fcid 0x654321 vsan 2
```

次に、VSAN 2 の RLIR 優先ホストとして FCID 0x654321 を削除する例を示します。

```
switch(config)# no rlr preferred-cond fcid 0x654321 vsan 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show rlir	RILR、Link Incident Record Registration (LIPR)、および Distribute Registered Link Incident Record (DRLIR) フレームの情報を表示します。
clear rlir	RLIR をクリアします。
debug rlir	RLIR デバッグをイネーブルにします。

rscn

Registered State Change Notification (RSCN) を設定するには、**rscn** コマンドを使用します。RSCN はファブリック内の変更について N ポートに通知するファイバチャネル サービスです。

```
rscn {multi-pid | suppress domain-swrscn} vsan vsan-id
```

構文の説明

multi-pid	複数ポート ID (マルチ PID) フォーマットで RSCN を送信します。
suppress domain-swrscn	ドメイン フォーマット SW-RSCN の伝送を抑制します。
vsan vsan-id	VSAN 情報またはメンバーシップを設定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、RSCN を multi-PID フォーマットで設定する例を示します。

```
switch(config)# rscn multi-pid vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show rscn src-table	ステート変更登録テーブルを表示します。
show rscn statistics	RSCN 統計情報を表示します。

rscn abort

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の Registered State Change Notification (RSCN) 設定を取り消すには、**rscn abort** コマンドを使用します。取り消しを戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
rscn abort vsan vsan-id
```

```
no rscn abort vsan vsan-id
```

構文の説明	vsan vsan-id	RSCN 設定を取り消す VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
-------	---------------------	--

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション モード
---------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例	次に、VSAN 1 の RSCN 設定を取り消す例を示します。
---	---------------------------------

```
switch(config)# rscn abort vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	rscn commit	指定された VSAN の未決定の RSCN 設定を確定します。
	rscn distribute	RSCN 設定の配信をイネーブルにします。
	rscn event-tov	RSCN イベント タイムアウトを設定します。
	clear rscn session vsan	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
	show rscn	RSCN 設定情報を表示します。

rscn commit

未決定の Registered State Change Notification (RSCN) 設定を適用するには、**rscn commit** コマンドを使用します。保留中の RSCN 設定を廃棄するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
rscn commit vsan vsan-id
```

```
no rscn commit vsan vsan-id
```

構文の説明

vsan vsan-id	RSCN 設定を確定する VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
---------------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

アクティブ データベースに加えられた変更をコミットする場合、ファブリック内のすべてのスイッチに設定がコミットされます。コミットが正常に行われると、設定の変更がファブリック全体に適用され、ロックが解除されます。

例

次に、VSAN 1 の RSCN 設定をコミットする例を示します。

```
switch(config)# rscn commit vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
rscn abort	指定された VSAN の未決定の RSCN 設定を取り消します。
rscn distribute	RSCN 設定の配信をイネーブルにします。
rscn event-tov	RSCN イベント タイムアウトを設定します。
clear rscn session	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
show rscn	RSCN 設定情報を表示します。

rscn distribute

Registered State Change Notification (RSCN) 設定の配信をイネーブルにするには、**rscn distribute** コマンドを使用します。配信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

rscn distribute

no rscn distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

RSCN タイマー配信はディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

RSCN タイマー設定は、Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) 内のすべてのスイッチで同一にする必要があります。Cisco Fabric Service (CFS) は、RSCN タイマー設定をファブリック内のすべてのスイッチに自動的に配信します。RSCN タイマー設定だけが配布されます。

例

次に、RSCN 設定の配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# rscn distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
rscn abort	指定された VSAN の未決定の RSCN 設定を取り消します。
rscn commit	未決定の RSCN 設定を適用します。
rscn event-tov	RSCN イベント タイムアウトを設定します。
clear rscn session	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
show rscn	RSCN 設定情報を表示します。

rscn event-tov

指定 Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の Registered State Change Notification (RSCN) のイベント タイムアウト値を設定するには、**rscn event-tov** コマンドを使用します。イベント タイムアウト値を取り消し、デフォルトの値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

rscn event-tov timeout vsan vsan-id

no rscn event-tov timeout vsan vsan-id

構文の説明

timeout	イベント タイムアウト値をミリ秒単位で指定します。有効な範囲は 0 ~ 2000 です。
vsan vsan-id	RSCN イベント タイマーを使用する VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

ファイバ チャネル VSAN のデフォルトのタイムアウト値は 2000 ミリ秒です。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

タイムアウト値を変更する前に、**rscn distribute** コマンドを使用して RSCN 設定の配信をイネーブルにする必要があります。

RSCN タイマーは、初期化およびスイッチオーバーの実行時に Cisco Fabric Services (CFS) に登録されます。

例

次に、VSAN 1 の RSCN イベント タイムアウト値を設定する例を示します。

```
switch(config)# rscn event-tov 20 vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
rscn abort	指定された VSAN の未決定の RSCN 設定を取り消します。
rscn commit	未決定の RSCN 設定を適用します。
rscn distribute	RSCN 設定の配信をイネーブルにします。
clear rscn session	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
show rscn	RSCN 設定情報を表示します。



S コマンド

この章では、S で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

san-port-channel persistent

自動作成された SAN ポート チャンネルを永続的な SAN ポート チャンネルに変換するには、**san-port-channel persistent** コマンドを使用します。

san-port-channel *port-channel-id* **persistent**

構文の説明

<i>port-channel-id</i>	ポート チャンネル ID を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 128 です。
persistent	自動作成された SAN ポート チャンネルを永続的な SAN ポート チャンネルに変換します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは元に戻すことができません。ユーザ作成のチャンネル グループは、自動作成チャンネル グループに変換できません。**san-port-channel persistent** コマンドが、自動作成されたチャンネル グループに適用されると、チャンネル グループ番号は変更されず、メンバ ポートのプロパティはユーザ作成チャンネル グループのプロパティに変更されます。チャンネル モードはアクティブのままです。

例

次に、自動作成されたチャンネル グループのプロパティを永続的チャンネル グループに変更する例を示します。

```
switch# san-port-channel 10 persistent
```

関連コマンド

コマンド	説明
san-port-channel protocol	SAN ポート チャンネル プロトコルをイネーブルにします。
show interface port-channel	SAN ポート チャンネル インターフェイスの情報を表示します。
show port-channel	SAN ポート チャンネルの情報を表示します。

scsi-target

SCSI ターゲット検出を設定するには、**scsi-target** コマンドを使用します。SCSI ターゲット ディスカバリーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
scsi-target {auto-poll [vsan vsan-id] | discovery | ns-poll [vsan vsan-id] | on-demand [vsan vsan-id] }
```

```
no scsi-target {auto-poll [vsan vsan-id] | discovery | ns-poll [vsan vsan-id] | on-demand [vsan vsan-id] }
```

構文の説明

auto-poll	SCSI ターゲット自動ポーリングをグローバルに、または VSAN ごとに設定します。
vsan <i>vsan-id</i>	(任意) VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
discovery	SCSI ターゲット検出を設定します。
ns-poll	SCSI ターゲット ネーム サーバ ポーリングをグローバルに、または VSAN ごとに設定します。
on-demand	オンデマンドの SCSI ターゲットをグローバルに、または VSAN ごとに設定します。

コマンドデフォルト

各オプションの SCSI ターゲット検出はイネーブルです。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

自動グローバル SCSI ターゲット検出は、デフォルトで有効です。検出は、オンデマンドのネーム サーバ ポーリングを使用して、または自動ポーリング オプションによって、特定の VSAN でトリガーされる場合もあります。すべてのオプションは、デフォルトで有効になっています。すべての検出オプションを無効にするには、**no scsi-target discovery** コマンドを使用します。また、このコマンドの **no** 形式オプションを使用して、特定のオプションを無効にすることもできます。

例

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット自動ポーリング ディスカバリーを設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target auto-poll vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット自動ポーリング ディスカバリーを削除する例を示します。

```
switch(config)# no scsi-target auto-poll vsan 1
```

次に、SCSI ターゲット ディスカバリーを設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target discovery
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット NS ポーリング ディスカバリーを設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target ns-poll vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット NS ポーリング ディスカバリを削除する例を示します。

```
switch(config)# no scsi-target ns-poll vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット オンデマンド ディスカバリを設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target on-demand vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット オンデマンド ディスカバリを削除する例を示します。

```
switch(config)# no scsi-target on-demand vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
discover scsi-target	スイッチのローカルストレージ上またはファブリックを介したリモートストレージ上の SCSI ターゲットを検出します。
show scsi-target	既存の SCSI ターゲットの設定情報を表示します。

shutdown

仮想ファイバ チャンネル インターフェイスまたは SAN ポート チャンネル インターフェイスの状態を管理的にダウンに変更するには、**shutdown** コマンドを使用します。インターフェイスをイネーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

shutdown [force]

no shutdown

構文の説明	force	(任意) インターフェイスの状態を管理上のダウンに強制的に変更するよう指定します。
-------	--------------	---

コマンド デフォルト
イネーブル

コマンド モード
仮想ファイバ チャンネル インターフェイス コンフィギュレーション モード
SAN ポート チャンネル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
	5.0(2)N1(1)	shutdown コマンドは、 interface vfc コマンドから分けられました。
	5.1(3)N1(1)	shutdown キーワードは、 interface san-port-channel コマンドから分けられました。
		(注) Cisco Nexus 5500 シリーズで 5.1(3)N1(1) よりも前の Cisco NX-OS リリースを実行している場合、このコマンドは interface san-port-channel コマンドのキーワードでした。

使用上のガイドライン
インターフェイスをイネーブルにするには、**no shutdown** コマンドを使用します。

例
次に、仮想ファイバ チャンネル インターフェイス 3 をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# shutdown
switch(config-if)#
```

次に、仮想ファイバ チャンネル インターフェイス 3 をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# no shutdown
switch(config-if)#
```

次に、SAN ポート チャンネル インターフェイスを強制的に管理的ダウン状態にする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)# shutdown force
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface san-port-channel	SAN ポート チャネル インターフェイスを設定します。
interface vfc	仮想ファイバ チャネル インターフェイスを設定します。
show interface vfc	指定の VFC インターフェイス、属性、およびステータスを表示します。
show interface vfc	指定の VFC インターフェイス、属性、およびステータスを表示します。

shutdown lan (FCoE)

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) リンクでイーサネットトラフィックをシャットダウンするには、**shutdown lan** コマンドを使用します。イーサネットトラフィックを戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

shutdown lan

no shutdown lan

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

シャットダウンしません。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

インターフェイス上でイーサネットトラフィックをシャットダウンするには、このコマンドを使用します。インターフェイスが FCoE VLAN の一部である場合は、シャットダウンを実行しても、その FCoE トラフィックに影響はありません。

例

次に、FCoE リンクでイーサネットインターフェイスをシャットダウンする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# shutdown lan
switch(config-if)#
```

次に、インターフェイスをシャットダウンまたはディセーブルにした後で、インターフェイス上のトラフィックを復元する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no shutdown lan
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe	FCoE パラメータを設定します。

switchport (ファイバチャネル)

ファイバチャネルでスイッチポートパラメータを設定するには、**switchport** コマンドを使用します。コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport
  {fcrxbbcredit {number [mode E | F] | default} |
  mode {F | NP | SD} |
  speed {1000 | 2000 | 4000 | 8000 | auto [max 2000]} |
  trunk {allowed vsan {[add] vsan-id | all} | mode {auto | off | on}}}}

no switchport {fcrxbbcredit | mode | speed | trunk {allowed vsan [[add] vsan-id | all] | mode}}
```

構文の説明

fcrxbbcredit	ポートの受信 BB_credit を設定します。
<i>number</i>	受信 BB_credit を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 240 です。
mode	特定のポートモードの受信 BB_credit を設定します。
E	E または TE モードに対する受信 BB_credit を設定します。
F	F ポートモードの受信 BB_credit を設定します。
default	ポートモードおよび機能に基づいてデフォルトの受信 BB_credit を設定します。
mode	ポートモードを設定します。
F	F ポートモードを設定します。
NP	N ポートプロキシモードを設定します。NP モードは、スイッチが N ポートバーチャライザ (NPV) モードで実行されている場合にのみ有効です。
SD	SD ポートモードを設定します。
speed	ポート速度を設定します。
1000	1000 Mbps の速度を設定します。
2000	2000 Mbps の速度を設定します。
4000	4000 Mbps の速度を設定します。
8000	8000 Mbps の速度を設定します。
auto	自動感知速度を設定します。
max 2000	(任意) 24 ポートおよび 48 ポートの 4 Gbps スイッチングモジュールインターフェイスの自動モードで予約されている最大帯域幅として、2 Gbps を設定します。
trunk	インターフェイスのトランキングパラメータを設定します。
allowed	インターフェイスの許可リストを指定します。
vsan	VSAN の範囲を設定します。
add	(任意) 許可 VSAN リストに VSAN ID を追加します。
<i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
all	すべての VSAN を許可 VSAN リストに追加します。
mode	トランキングモードを設定します。
auto	自動トランキングモードを設定します。
off	トランキングモードをディセーブルにします。
on	トランキングモードをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

EISL カプセル化はディセーブルです。
デフォルトの受信データ バッファ サイズは 2112 バイトです。
ポート モードは **auto** です。
速度は **auto** です。
最大自動速度は **2000** です。
トランク モードは **on** です。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

次の形式でコマンドを入力して、インターフェイスの範囲を指定できます。

```
interface fc 1/1 - 5, fc 2/5 - 7
```

インターフェイスのポート速度によって、ポート グループのポートが使用可能な共有リソースの量が決まります。ポート グループのリソースは、使用できない帯域幅であっても予約されます。たとえば、インターフェイスが自動感知 (**auto**) を行うよう設定されている場合は、最大稼働速度が 2 Gbps であっても、4 Gbps の帯域が予約されます。同じインターフェイスで、最大速度 2 Gbps (**auto max 2000**) の自動感知が設定されている場合は 2 Gbps の帯域だけが予約され、使用されない 2 Gbps の帯域は、ポート グループの他のインターフェイスにより共有されます。

ポート モードの設定時には、次のガイドラインを守ってください。

- 自動ポート モードおよび E ポート モードは、共有速度モードでは設定できません。
- 共有ポートから専用ポートへは、速度、ポート モード、クレジットの順に設定する必要があります。
- 専用ポートから共有ポートへは、クレジット、ポート モード、速度の順に設定する必要があります。

例

次に、ファイバチャネル インターフェイスのスイッチ ポート パラメータを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/3
switch(config-if)# switchport description techdocsSample
switch(config-if)# switchport mode E
switch(config-if)# switchport trunk mode auto
switch(config-if)# switchport trunk allowed vsan all
switch(config-if)# switchport trunk allowed vsan 3
switch(config-if)# switchport trunk allowed vsan add 2
switch(config-if)# switchport fcrxbbcredit 20
```

次に、仮想ファイバチャネル インターフェイスのモードを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 2
switch(config-if)# switchport mode F
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcxbbcredit extended enable	スイッチで拡張 BB_credit をイネーブルにします。
show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

switchport (SAN ポート チャンネル)

SAN ポート チャンネル インターフェイスでスイッチ ポート パラメータを設定するには、**switchport** コマンドを使用します。コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport {description line | mode {NP | auto} | speed {1000 | 2000 | 4000 | 8000 | auto} | trunk
            {allowed vsan [vsan-id | add vsan-id | all] | mode {auto | on | off}}}
```

```
no switchport {description | mode | speed | trunk {allowed vsan [vsan-id | add vsan-id | all] |
              mode}}
```

構文の説明

description <i>line</i>	インターフェイスの説明を指定します。最大 80 文字の英数字を入力できません。
mode	特定のポート モードの受信 BB_credit を設定します。
NP	SAN ポート チャンネル インターフェイスを N ポート バーチャライザ (NPV) ポートとして設定します。
auto	自動感知モードを設定します。
speed	ポート速度を設定します。
1000	1000 Mbps の速度を設定します。
2000	2000 Mbps の速度を設定します。
4000	4000 Mbps の速度を設定します。
8000	8000 Mbps の速度を設定します。
auto	自動ネゴシエーション速度を設定します。
trunk	インターフェイスのトランキング パラメータを設定します。
allowed	インターフェイスの許可リストを指定します。
vsan	VSAN の範囲を設定します。
vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
add	許可 VSAN リストに VSAN ID を追加します。
all	すべての VSAN を許可 VSAN リストに追加します。
mode	トランキング モードを設定します。
on	トランキング モードをイネーブルにします。
off	トランキング モードをディセーブルにします。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

SAN ポート チャンネル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
	5.1(3)N1(1)	E ポートは、このリリースからドロップされました。 N ポート バーチャライザ (NPV) ポートおよび 8000 Mbps ポート速度のサポートが追加されました。 switchport キーワードは、 interface san-port-channel コマンドから分けられ、独立したコマンドとして表示されるようになりました。 (注) Cisco Nexus 5500 シリーズで 5.1(3)N1(1) よりも前の Cisco NX-OS リリースを実行している場合、このコマンドは interface san-port-channel コマンドのキーワードでした。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは必要ありません。

例 次に、SAN ポート チャネル インターフェイスのスイッチ ポート パラメータを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)# switchport description SAN Port Channel 3 Configuration
switch(config-if)# switchport speed 2000
switch(config-if)# switchport mode NP
switch(config-if)#
```

次に、SAN ポート チャネル インターフェイスのスイッチ ポート パラメータ設定を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)# no switchport description
switch(config-if)# no switchport speed
switch(config-if)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
	shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。
	channel mode active (SAN ポート チャネル)	アクティブ ポート チャネル ポートとして SAN ポート チャネル インターフェイスを設定します。

switchport (仮想ファイバチャネル インターフェイス)

仮想ファイバチャネル インターフェイスのスイッチポートパラメータを設定するには、**switchport** コマンドを使用します。コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport mode {E | F | NP}

no switchport mode

構文の説明

switchport mode	バーチャルファイバチャネルインターフェイスのモードを指定します。
E	仮想ファイバチャネルインターフェイスを仮想 E (VE) ポートとして設定します。
F	仮想ファイバチャネルインターフェイスを F ポートとして設定します。これは、デフォルトのモードです。
NP	仮想ファイバチャネルインターフェイスを N ポートバーチャライザ (NPV) ポートとして設定します。

コマンドデフォルト

F ポートモード

コマンドモード

仮想ファイバチャネルインターフェイスコンフィギュレーションモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N1(1)	bind 、 description 、 shutdown 、および switchport コマンドは、 interface vfc コマンドから分けられました。
5.0(2)N2(1)	仮想 E (VE) ポートのサポートが追加されました。
5.0(3)N3(1)	N ポートバーチャライザ (NPV) ポートのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

仮想ファイバチャネルインターフェイスにバインドするイーサネットインターフェイスまたは EtherChannel インターフェイスは、トランクポートである必要があります。

ローカルスイッチで vPC の唯一のメンバである場合、仮想ポートチャネル (vPC) のメンバに F ポートをバインドできます。ハードウェアの制限のため、複数の仮想ファイバチャネルインターフェイスを vPC の複数のメンバにバインドできません。ただし、F ポートは非 vPC EtherChannel にバインドすることができます。

デフォルトでは、VE ポートはトランクモードの場合、イネーブルになります。VE ポートは MAC アドレスにバインドできません。

VE 対応のポートでは Cisco Nexus 5500 シリーズスイッチと SAN スイッチ間の仮想リンクの検出およびインスタンス化が可能で、これによりスイッチ上でのマルチホップ FCoE がイネーブルになります。

例

次に、仮想ファイバチャネルインターフェイス 3 で F ポートを設定する例を示します。

switchport (仮想ファイバチャネルインターフェイス)

```
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport mode trunk
switch(config-if)# exit
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# bind interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport mode F
switch(config-if)#
```

次に、仮想ファイバチャネルインターフェイス 3 で VE ポートを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport mode trunk
switch(config-if)# exit
switch(config)# interface vfc 3
switch(config-if)# bind interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport mode E
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface vfc	仮想ファイバチャネルインターフェイスを設定します。
show interface vfc brief	属性およびステータスなど、指定の VFC インターフェイスを表示します。
shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。
switchport mode trunk	イーサネットインターフェイスをトランクポートとして設定します。

switchport mode trunk

トランク ポートとしてイーサネット インターフェイスを設定するには、**switchport mode trunk** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport mode trunk

no switchport mode trunk

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
5.0(2)N1(1)	スイッチポート トランク モードは、仮想ファイバ チャンネル インターフェイスではデフォルトでオンになっています。

使用上のガイドライン

イーサネット インターフェイスは、同じインターフェイス上でファイバ チャンネルとイーサネット トラフィックの両方を許可するように、トランク ポートとして設定する必要があります。



(注)

Cisco NX-OS 5.0(2)N1(1) では、スイッチポート トランク モードは、デフォルトでは仮想ファイバ チャンネル インターフェイスに対してオンになっており、設定することはできません。

例

次に、インターフェイス イーサネット 2/1 のトランク モードをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# switchport mode trunk
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface switchport	スイッチポートとして設定されているすべてのインターフェイスに関する情報を表示します。

switchport ignore bit-errors

ビットエラーしきい値イベントの検出により、ファイバチャネル インターフェイスがディセーブルになるのを回避するには、**switchport ignore bit-errors** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport ignore bit-errors

no switchport ignore bit-errors

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ビットエラー レートしきい値は、パフォーマンスの低下がトラフィックに重大な影響を与える前にエラー レートの増加を検出するために、スイッチにより使用されます。

ビットエラーは、以下の理由により発生する場合があります。

- ケーブルの欠陥または不具合
- SFP の欠陥または不具合
- SFP が 1 Gbps で動作するよう指定されているのに、2 Gbps で使用されている
- 短距離用ケーブルが長距離に、または長距離用ケーブルが短距離に使用されている
- 瞬間的な同期ずれ
- ケーブルの片端または両端での接続不良
- SFP の片端または両端での接続不良

5 分間に 15 のエラー バーストが発生すると、ビットエラー レートしきい値が検出されます。デフォルトでは、しきい値に達するとスイッチはインターフェイスをディセーブルにします。**shutdown/no shutdown** コマンドを順番に入力すると、インターフェイスを再度イネーブルにできます。

switchport ignore bit-errors コマンドが設定されているかどうかに関係なく、ビットエラーしきい値イベントが検出されると Syslog メッセージが生成されます。

例

次に、ビットエラー イベント検出によるインターフェイスのディセーブル設定を回避する例を示します。

```
switch(config)# interface fc2/1
switch(config-if)# switchport ignore bit-errors
```

次に、ビット エラー イベント検出によってインターフェイスをディセーブルにできるようにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc2/1
switch(config-if)# no switchport ignore bit-errors
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイス情報を表示します。

system default switchport

ファイバ チャネル インターフェイスのポート属性を設定するには、**system default switchport** コマンドを使用します。ポート属性をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
system default switchport {shutdown | trunk mode {auto | off | on}}
```

```
no system default switchport {shutdown | trunk mode {auto | off | on}}
```

構文の説明

shutdown	デフォルトでスイッチ ポートをディセーブルまたはイネーブルにします。
trunk	デフォルトでトランキング パラメータを設定します。
mode	トランキング モードを設定します。
auto	自動感知トランキングをイネーブルにします。
off	トランキングをディセーブルにします。
on	トランキングをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して設定された属性は、その時点で個別に設定されていなくても、これ以降すべてのポート コンフィギュレーションにおいてグローバルに適用されます。

このコマンドは、次のポートのコンフィギュレーションを管理モード F に変更します。

- 動作していないすべてのポート
- 動作モードが F であり、管理モードが F でない、動作しているすべての F ポート

このコマンドは、F 以外の動作しているポートには影響しませんが、これらのポートが動作していない場合は、その管理モードがこのコマンドにより変更されます。

例

次に、ポートのシャットダウンを設定する例を示します。

```
switch(config)# system default switchport shutdown
```

次に、トランク モードを設定する例を示します。

```
switch(config)# system default switchport trunk mode auto
```

関連コマンド

コマンド	説明
show system default switchport	スイッチ ポート属性のデフォルト値を表示します。
show interface brief	ファイバチャネル ポート モードを表示します。

system default zone default-zone permit

ゾーンのデフォルト値を設定するには、**system default zone default-zone permit** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

system default zone default-zone permit

no system default zone default-zone permit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ゾーンのデフォルト値はありません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、すべての Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のデフォルト ゾーンのデフォルト値を定義します。デフォルト値は、VSAN が最初に作成されてアクティブになる際に使用されます。デフォルト値を使用しない場合は、**zone default-zone permit vsan** コマンドを使用して、デフォルト ゾーンの稼働値を定義します。

system default zone default-zone permit コマンドは、まだ作成されていない VSAN だけで使用してください。既存の VSAN には作用しません。

VSAN 1 はデフォルトの VSAN なので常に存在します。そのため、このコマンドは VSAN 1 には作用しません。

例

次に、デフォルト ゾーンを設定してデフォルト値を使用する例を示します。

```
switch(config)# system default zone default-zone permit
```

次に、デフォルト設定に戻す例を示します。

```
switch(config)# no system default zone default-zone permit
```

関連コマンド

コマンド	説明
zone default-zone permit vsan	デフォルト ゾーン (作成済みゾーンが割り当てられていないノード) で、その中のすべてへのアクセスが許可されるか、拒否されるかを定義します。
show system default zone	デフォルト ゾーンのデフォルト値を表示します。

system default zone distribute full

ゾーンセットへの配信にデフォルト値を設定するには、**system default zone distribute full** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

system default zone distribute full

no system default zone distribute full

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

アクティブゾーンセットだけに配信

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、デフォルトゾーンのデフォルト値をすべての Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) に配信します。デフォルト値は、VSAN が最初に作成されてアクティブになる際に使用されます。デフォルト値を使用しない場合は、**zoneset distribute full vsan** コマンドを使用して、デフォルトゾーンの稼働値を配信します。

system default zone distribute full コマンドは、まだ作成されていない VSAN だけで使用してください。既存の VSAN には作用しません。

VSAN 1 はデフォルトの VSAN なので常に存在します。そのため、このコマンドは VSAN 1 には作用しません。

例

次に、デフォルト値をゾーンセット全体に配信する例を示します。

```
switch(config)# system default zone distribute full
```

次に、デフォルト値をアクティブなゾーンセットだけに配信する例を示します。

```
switch(config)# no system default zone distribute full
```

関連コマンド

コマンド	説明
zoneset distribute full vsan	すべてのゾーンセットにデフォルトゾーンの稼働値を配信します。
show system default zone	デフォルトゾーンのデフォルト値を表示します。

■ system default zone distribute full



show コマンド

この章では、Cisco NX-OS ファイバチャネル、仮想ファイバチャネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) の **show** コマンドについて説明します。

show cfs

Cisco Fabric Services (CFS) 情報を表示するには、**show cfs** コマンドを使用します。

```
show cfs {application [name app-name] | lock [name app-name [vsan vsan-id]] | merge status
[name app-name [vsan vsan-id]] | peers [name app-name [vsan vsan-id]] | regions | status}
```

構文の説明

application	ローカルに登録されたアプリケーションを表示します。
name app-name	(任意) ローカルアプリケーション情報を名前指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
lock	アプリケーションの論理ロックまたは物理ロックの状態を表示します。
vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
merge status	CFS 結合情報を表示します。
peers	論理または物理 CFS ピアを表示します。
regions	CFS 領域を表示します。
status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。イネーブルがデフォルト設定です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show cfs application コマンドは、CFS で登録されたアプリケーションだけを表示します。CFS を使用する条件付きサービスは、そのサービスが実行されていない限り出力には表示されません。

例

次に、すべてのアプリケーションについて CFS の物理ピア情報を表示する例を示します。

```
switch# show cfs peers
```

次に、スイッチ上のすべてのアプリケーションに対する CFS の情報を表示する例を示します。

```
switch# show cfs application
```

次に、CFS 配信のステータスを表示する例を示します。

```
switch# show cfs status
```

関連コマンド

コマンド	説明
cfs	Cisco Fabric Service (CFS) 情報を設定します。

show debug npv

スイッチに設定されている N ポート バーチャライゼーション (NPV) デバッグ コマンドを表示するには、**show debug npv** コマンドを使用します。

show debug npv

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show debug npv コマンドを使用できるのは、スイッチが NPV モードの場合だけです。

例

次に、スイッチで使用できるすべての NPV デバッグ コマンドを表示する例を示します。

```
switch# show debug npv
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug npv	NPV コンフィギュレーションのデバッグをイネーブルにします。

show device-alias

デバイス名情報を表示するには、**show device-alias** コマンドを使用します。

```
show device-alias {database | merge status | name device-name [pending] | pending |
pending-diff | pwwn pwwn-id [pending] | session status | statistics | status}
```

構文の説明

database	デバイス名データベース全体を表示します。
merge status	デバイス結合ステータスを表示します。
name <i>device-name</i>	特定のデバイス名のデバイス名データベース情報を表示します。
pending	(任意) 保留中のデバイス名データベース情報を表示します。
pending-diff	デバイス名データベース情報の未決定の差異を表示します。
pwwn <i>pwwn-id</i>	特定の pWWN のデバイス名データベース情報を表示します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
session status	デバイス名セッションステータスを表示します。
statistics	デバイス名データベースの統計情報を表示します。
status	デバイス名データベースのステータスを表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

わかりにくいデバイス名を使用する代わりに、デバイス名の FC エイリアス（ファイバチャネルエイリアス）を使用するには、FC エイリアスごとにメンバを 1 つだけ追加します。

例

次に、デバイスエイリアスデータベースの内容を表示する例を示します。

```
switch# show device-alias database
```

次に、グローバルな FC エイリアスと Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) 従属 FC エイリアスをすべて表示する例を示します。

```
switch# show device-alias name efg
```

次にグローバルな FC エイリアスと VSAN 従属 FC エイリアスをすべて表示する例を示します。

```
switch# show device-alias statistics
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias name	デバイスエイリアス名を設定します。

コマンド	説明
device-alias database	デバイス エイリアス情報を設定します。
device-alias distribute	デバイス エイリアス Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにします。

show fabric-binding

設定されているファブリック バインディング情報を表示するには、**show fabric-binding** コマンドを使用します。

```
show fabric-binding {database [active] [vsan vsan-id] | efmd statistics [vsan vsan-id] | statistics
[vsan vsan-id] | status [vsan vsan-id] | violations [last number]}
```

構文の説明

database	設定されたデータベース情報を表示します。
active	(任意) アクティブ データベース コンフィギュレーション情報を表示します。
vsan vsan-id	(任意) FICON に対応した Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
efmd statistics	Exchange Fabric Membership Data (EFMD) 統計情報を表示します。
statistics	ファブリック バインディング統計情報を表示します。
status	ファブリック バインディング ステータスを表示します。
violations	ファブリック バインディング コンフィギュレーションにおける違反を表示します。
last number	(任意) 最新の違反を指定します。範囲は 1 ~ 100 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、設定されているファブリック バインディング データベース情報を表示する例を示します。

```
switch# show fabric-binding database
```

次に、アクティブ ファブリック バインディングの情報を表示する例を示します。

```
switch# show fabric-binding database active
```

次に、VSAN 固有のファブリック バインディング情報を表示する例を示します。

```
switch# show fabric-binding database active vsan 61
```

次に、VSAN 固有の設定済みファブリック バインディング情報を表示する例を示します。

```
switch# show fabric-binding database vsan 4
```

次に、ファブリック バインディングの統計情報を表示する例を示します。

```
switch# show fabric-binding statistics
```

次に、各 VSAN に対するファブリック バインディングのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show fabric-binding status
```

次に、EFMD の統計情報を表示する例を示します。

```
switch# show fabric-binding efmd statistics
```

次に、指定された VSAN に対する EFMD の統計情報を表示する例を示します。

```
switch# show fabric-binding efmd statistics vsan 4
```

次に、ファブリック バインディングの違反を表示する例を示します。

```
switch# show fabric-binding violations
```

関連コマンド

コマンド	説明
fabric-binding	VSAN にファブリック バインディングを設定します。

show fc2

FC2 情報を表示するには、**show fc2** コマンドを使用します。

```
show fc2 {bind | classf | exchange | exchresp | flogi | nport | plogi | plogi_pwwn | port [brief] |
socket | sockexch | socknotify | socknport | vsan}
```

構文の説明

bind	FC2 ソケット バインディングを表示します。
classf	FC2 classf セッションを表示します。
exchange	FC2 アクティブ交換を表示します。
exchresp	FC2 アクティブ応答交換を表示します。
flogi	FC2 Fabric Login (FLOGI) テーブルを表示します。
nport	FC2 ローカル N ポートを表示します。
plogi	FC2 Port Login (PLOGI) セッションを表示します。
plogi_pwwn	FC2 PLOGI pWWN エントリを表示します。
port	FC2 物理ポート テーブルを表示します。
brief	(任意) FC2 物理ポート テーブルを要約形式で表示します。
socket	FC2 アクティブ ソケットを表示します。
sockexch	各ソケットの FC2 アクティブ交換を表示します。
socknotify	各ソケットの FC2 ローカル N ポート PLOGI/LOGO 通知を表示します。
socknport	ソケットごとの FC2 ローカル N ポートを表示します。
vsan	FC2 VSAN テーブルを表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FC2 アクティブ ソケット情報を表示する例を示します。

```
switch# show fc2 socket
```

次に、FC2 ソケット バインディング情報を表示する例を示します。

```
switch# show fc2 bind
```

次に、FC2 ローカル N ポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show fc2 nport
```

次に、FC2 PLOGI セッション情報を表示する例を示します。

```
switch# show fc2 plogi
```

次に、FC2 物理ポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show fc2 port
```

次に、各ソケットの FC2 ローカル N ポート PLOGI 通知を表示する例を示します。

```
switch# show fc2 socknotify
```

次に、各ソケットの FC2 ローカル N ポートを表示する例を示します。

```
switch# show fc2 socknport
```

次に、FC2 VSAN テーブルを表示する例を示します。

```
switch# show fc2 vsan
```

show fc-port-security

設定されているポート セキュリティ機能に関する情報を表示するには、**show fc-port-security** コマンドを使用します。

```
show fc-port-security {database [active [vsan vsan-id]] | fwwn fwwn-id vsan vsan-id | interface
  {fc slot/port | san-port-channel port} vsan vsan-id | vsan vsan-id | pending [vsan vsan-id] |
  pending-diff [vsan vsan-id] | session status [vsan vsan-id] | statistics [vsan vsan-id] | status
  [vsan vsan-id] | violations [last count | vsan vsan-id]}
```

構文の説明

database	データベース関連のポート セキュリティ情報を表示します。
active	(任意) アクティブ化されたデータベース設定情報を表示します。
vsan vsan-id	(任意) 指定データベースの情報を表示します。
fwwn fwwn-id	特定ファブリック World Wide Name (WWN) の情報を表示します。
interface	インターフェイスの情報を表示します。
fc slot/port	指定したファイバ チャネル インターフェイスの情報を表示します。
san-port-channel port	SAN ポート チャネル インターフェイスの情報を表示します。指定できる範囲は 1 ~ 128 です。
pending	サーバアドレス未決定コンフィギュレーションを表示します。
pending-diff	サーバアドレス未決定コンフィギュレーションとアクティブ コンフィギュレーションの差異を表示します。
session status	VSAN 単位でポート セキュリティ ステータスを表示します。
statistics	ポート セキュリティ統計を表示します。
status	VSAN 単位でポート セキュリティ ステータスを表示します。
violations	ポート セキュリティ データベースでの違反を表示します。
last count	(任意) データベースの末尾の指定行数を表示します。範囲は 1 ~ 100 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

各ポートのアクセス情報は個別に表示されます。ファブリック WWN (fWWN) またはインターフェイス オプションを指定する場合、(その時点の) アクティブ データベースでペアとなっているすべてのデバイスが、指定した fWWN またはインターフェイスとともに表示されます。

last number オプションを指定して **show fc-port-security** コマンドを入力すると、最初に現れる指定数分のエントリだけが表示されます。

例

次に、ポートセキュリティデータベースの内容を表示する例を示します。

```
switch# show fc-port-security database
```

次に、VSAN 1 のアクティブポートセキュリティデータベースの出力を表示する例を示します。

```
switch# show fc-port-security database vsan 1
```

次に、アクティブデータベースを表示する例を示します。

```
switch# show fc-port-security database active
```

次に、VSAN 1 内のワイルドカード fWWN ポートセキュリティを表示する例を示します。

```
switch# show fc-port-security database fwwn 20:85:00:44:22:00:4a:9e vsan 1
```

次に、VSAN 1 内の設定済み fWWN ポートセキュリティを表示する例を示します。

```
switch# show fc-port-security database fwwn 20:01:00:05:30:00:95:de vsan 1
```

次に、VSAN 2 内のインターフェイスポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show fc-port-security database interface fc 2/1 vsan 2
```

次に、ポートセキュリティ統計情報を表示する例を示します。

```
switch# show fc-port-security statistics
```

次に、アクティブデータベースと自動学習コンフィギュレーションのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show fc-port-security status
```

次に、直近 100 件の違反を表示する例を示します。

```
switch# show fc-port-security violations
```

関連コマンド

コマンド	説明
fc-port-security	ポートセキュリティパラメータを設定します。

show fcalias

ファイバチャネルエイリアス (fcalias) のメンバー名情報を表示するには、**show fcalias** コマンドを使用します。

```
show fcalias [name fcalias-name] [pending] [vsan vsan-id]
```

構文の説明

name <i>fcalias-name</i>	(任意) 特定の名前の fcalias 情報を表示します。最大 64 文字まで可能です。
pending	(任意) 未決定の fcalias 情報を表示します。
vsan <i>vsan-id</i>	(任意) VSAN の fcalias 情報を表示します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

すべてのグローバル fcalias のリスト、およびすべての VSAN 従属 fcalias のリストを表示します。

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバイス名として、暗号デバイス名の代わりに FC エイリアスを使用するには、各 FC エイリアスにメンバーを 1 つだけ追加します。

例

次に、FC エイリアス コンフィギュレーション情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcalias vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcalias name	FC エイリアス名を設定します。

show fcdomain

ファイバチャネルドメイン (fcdomain) 情報を表示するには、**show fcdomain** コマンドを使用します。

```
show fcdomain [address-allocation [cache] | allowed | domain-list | fcid persistent [unused] |
pending [vsan vsan-id] | pending-diff [vsan vsan-id] | session-status [vsan vsan-id] | statistics
[interface {fc slot/port [vsan vsan-id]} | san-port-channel port [vsan vsan-id]] | status | vsan
vsan-id]
```

構文の説明

address-allocation	(任意) Fibre Channel (FC) ID 割り当ての統計情報を表示します。
cache	(任意) 主要スイッチのファブリックを出て再入するデバイス (ディスクまたはホスト) に対して、FC ID を再割り当てします。キャッシュ内で、Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) は当該のデバイスを含む VSAN を表し、WWN は FC ID を所有していたデバイスを表します。マスクは FC ID に対応する 1 つのエリアまたはエリア全体を表します。
allowed	(任意) 許可されたドメイン ID のリストが表示されます。
domain-list	(任意) 主要なスイッチが提供するドメイン ID のリストを表示します。
fcid persistent	(任意) 固定 FC ID (再起動後も変わらない ID) を表示します。
unused	(任意) 未使用の永続的 FCID (リブート後も保持される) を表示します。
pending	(任意) 未決定コンフィギュレーションを表示します。
vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
pending-diff	(任意) 実行コンフィギュレーションと未決定コンフィギュレーションの差異を表示します。
session-status	(任意) FC ドメインの最後の動作を表示します。
statistics	(任意) FC ドメインの統計情報を表示します。
interface	(任意) インターフェイスを指定します。
fc slot/port	(任意) ファイバチャネル インターフェイスを指定します。
san-port-channel port	(任意) SAN ポート チャネル インターフェイスを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 128 です。
status	(任意) FC ドメインのすべての VSAN 独立型情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

引数を指定せずに **show fcdomain** を入力すると、すべての VSAN が表示されます。VSAN をアクティブにする必要があります。アクティブでないとエラーになります。

例 次に、VSAN 1 の FC ドメイン情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcdomain vsan 1
```

次に、VSAN 76 の fcdomain ドメイン リスト情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcdomain domain-list vsan 76
```

```
Number of domains: 3
Domain ID          WWN
-----
0xc8(200)         20:01:00:05:30:00:47:df [Principal]
0x63(99)          20:01:00:0d:ec:08:60:c1 [Local]
0x61(97)          50:00:53:0f:ff:f0:10:06 [Virtual (IVR)]
```

表 1 に、**show fcdomain domain-list** コマンドの出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 1 show fcdomain のフィールドの説明

フィールド	説明
Domain ID	WWN に対応するドメイン ID の一覧です。
WWN	対応するドメイン ID を要求するスイッチ（物理スイッチまたは仮想スイッチ）の WWN を示します。
Principal	VSAN で主要なスイッチの WWN およびドメイン ID を表示する行を示します。
Local	ローカル スイッチ（ show fcdomain domain-list コマンドを入力したスイッチ）の WWN およびドメイン ID を表示する行を示します。
Virtual (IVR)	ドメイン ID を入手するために Inter-VSAN Routing (IVR) マネージャに使用されている仮想スイッチの WWN が表示されている行を示します。

次に、許可されたドメイン ID リストを表示する例を示します。

```
switch# show fcdomain allowed vsan 1
```

次に、許可されたドメイン ID リストの CFS 配信のステータスを表示する例を示します。

```
switch# show fcdomain status
```

次に、保留中の設定に関する変更を表示する例を示します。

```
switch# show fcdomain pending vsan 10
```

次に、保留中の設定と現在の設定における違いを表示する例を示します。

```
switch# show fcdomain pending-diff vsan 10
```

次に、配信セッションのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show fcdomain session-status vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcdomain	ファイバチャネル ドメイン機能を設定します。

show fcdroplateny

設定されているファイバ チャネル遅延パラメータを表示するには、**show fcdroplateny** コマンドを使用します。

show fcdroplateny [network | switch]

構文の説明

network	(任意) ネットワーク遅延をミリ秒単位で表示します。
switch	(任意) スイッチ遅延をミリ秒単位で表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、設定されているファイバ チャネル遅延パラメータを表示する例を示します。

```
switch# show fcdroplateny
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcdroplateny	ネットワークとスイッチのファイバ チャネル廃棄遅延時間を設定します。

show fcflow stats

設定されているファイバ チャネル フロー (fcflow) 情報を表示するには、**show fcflow stats** コマンドを使用します。

```
show fcflow stats [aggregated | usage] [index flow-index]
```

構文の説明

aggregated	(任意) 集約 fcflow 統計情報を表示します。
usage	(任意) フロー インデックスの使用状況を表示します。
index flow-index	(任意) fcflow インデックスを指定します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、集約 fcflow の詳細を表示する例を示します。

```
switch# show fcflow stats aggregated
```

次に、fcflow の詳細を表示する例を示します。

```
switch# show fcflow stats
```

次に、fcflow インデックスの使用状況を表示する例を示します。

```
switch# show fcflow stats usage
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcflow stats	fcflow 統計情報を設定します。

show fcid-allocation

会社 ID のファイバ チャネル地域リストを表示するには、**show fcid allocation** コマンドを使用します。

show fcid-allocation area | company-id-from-wwn wwn [company-id]

構文の説明	area	会社 ID の自動地域リストを表示します。
	company-id-from-wwn <i>wwn</i>	指定された World Wide Name (WWN) から会社 ID を選択します。
	<i>company-id</i>	(任意) 表示する会社 ID (組織ユニット ID、または OUI ともいいます) です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、会社 ID のファイバ チャネル地域会社リストを表示する例を示します。

```
switch# show fcid-allocation area
Fcid area allocation company id info:
```

```
00:50:2E
00:50:8B
00:60:B0
00:A0:B8
00:E0:69
00:E0:8B
00:32:23 +
```

```
Total company ids: 7
+ - Additional user configured company ids.
* - Explicitly deleted company ids from default list.
```

表 2 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 2 show fcid-allocation area company のフィールドの説明

フィールド	説明
+	デフォルトのリストに追加された会社 ID を示します。
-	デフォルトのリストから削除された会社 ID を示します。

関連コマンド	コマンド	説明
	fcid-allocation	デフォルトの地域会社 ID リストに FCID を追加します。

show fcns database

検出結果の表示、または指定の Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) あるいはすべての VSAN に対するネーム サーバデータベースの表示を行うには、**show fcns database** コマンドを使用します。

```
show fcns database {detail [vsan vsan-id] | domain domain-id [detail] [vsan vsan-range] | fcid
fcid-id [detail] vsan vsan-range | local [detail] [vsan vsan-range] | vsan vsan-id}
```

構文の説明

detail	各エントリ内の全オブジェクトを表示します。
vsan vsan-id	(任意) 指定 VSAN ID のエントリを表示します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
domain domain-id	ドメインのエントリを表示します。
detail	(任意) ドメインの詳細なエントリを表示します。
fcid fcid-id	指定したポートのエントリを表示します。
local	ローカル エントリを表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

特にファブリックが大規模な場合や複数のデバイスの応答が遅い場合に、検出が完了するのに数分かかる場合があります。

仮想エンクロージャ ポートは、**show fcns database** コマンドを使用して表示できます。

例

次に、FCNS データベースの内容を表示する例を示します。

```
switch# show fcns database
```

次に、FCNS データベースの詳細内容を表示する例を示します。

```
switch# show fcns database detail
```

次に、管理 VSAN (VSAN 2) を表示する例を示します。

```
switch# show fcns database vsan 2
```

次に、設定されているすべての VSAN のデータベースを表示する例を示します。

```
switch# show fcns database
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcns	ネーム サーバ コンフィギュレーションに使用するコンフィギュレーションモード コマンドを指定します。

show fcns statistics

指定した Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) またはすべての VSAN の統計情報を表示するには、**show fcns statistics** コマンドを使用します。

```
show fcns statistics [detail] [vsan vsan-id]
```

構文の説明

detail	(任意) 詳細統計情報を表示します。
vsan vsan-id	(任意) 指定の VSAN ID の統計情報を表示します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、指定された VSAN の統計情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcns statistics
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcns	ネーム サーバ コンフィギュレーションに使用するコンフィギュレーションモードコマンドを指定します。

show fcoe

スイッチ上の Fibre Channel over Ethernet (FCoE) パラメータのステータスを表示するには、**show fcoe** コマンドを表示します。

show fcoe

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FCoE ステータスを表示する例を示します。

```
switch# show fcoe
Global FCF details
    FCF-MAC is 00:0d:ec:a3:9d:80
    FC-MAP is 0e:fc:00
    FCF Priority is 128
    FKA Advertisement period for FCF is 8 seconds
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe fcf-priority	FCoE Initialization Protocol (FIP) のプライオリティ値を設定します。
fcoe fcmap	FCoE ノード (ENode) の関連付けに使用する FCoE MAC Address Prefix (FC MAP) を設定します。
fcoe fka-adv-period	FIP キープアライブ (FKA) メッセージが ENode の MAC アドレスに送信される時間間隔を設定します。
show fcoe database	FCoE データベース情報を表示します。

show fcoe-npv issu-impact

中断なしのインサービス ソフトウェア アップグレード (ISSU) 中に Fibre Channel over Ethernet (FCoE) N ポート バーチャライザ (NPV) によって発生した設定の問題を表示するには、**show fcoe-npv issu-impact** コマンドを使用します。

show fcoe-npv issu-impact

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**feature fcoe-npv** コマンドを使用して、スイッチ上で Fibre Channel over Ethernet (FCoE) N ポート バーチャライザ (NPV) がイネーブルであることを確認します。このコマンドには、FCoE NPV ライセンスが必要です。

例

次に、FCoE NPV 機能による設定の問題を表示する例を示します。

```
switch# show fcoe-npv issu-impact
show fcoe-npv issu-impact
-----
```

```
Please make sure to enable "disable-fka" on all logged in VFCs
Please increase the FKA duration to 60 seconds on FCF
```

```
Active VNP ports with no disable-fka set
-----
```

```
ISSU downgrade not supported as feature fcoe-npv is enabled
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature fcoe-npv	スイッチの FCoE NPV をイネーブルにします。
show running-config fcoe_mgr	FCoE 実行コンフィギュレーション情報を表示します。
show tech-support fcoe	FCoE のトラブルシューティング情報を表示します。

show fcoe database

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) データベースに関する情報を表示するには、**show fcoe database** コマンドを使用します。

show fcoe database

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FCoE データベースを表示する例を示します。

```
switch# show fcoe database
```

```
-----
INTERFACE          FCID          PORT NAME      MAC ADDRESS
-----
vfc1                0x580016     10:00:00:00:07:f8:0e:45 00:00:00:13:05:01
vfc1                0x580017     10:00:00:00:07:f8:21:bf 00:00:00:13:05:01
vfc2                0x580020     10:00:00:00:07:f8:0e:46 00:00:00:13:05:02
vfc2                0x580033     10:00:00:00:07:f8:21:c0 00:00:00:13:05:02
vfc4                0x58001e     10:00:00:00:07:f8:0e:48 00:00:00:13:05:04
vfc4                0x580031     10:00:00:00:07:f8:21:c2 00:00:00:13:05:04
vfc5                0x58001d     10:00:00:00:07:f8:0e:49 00:00:00:13:05:05
vfc5                0x580030     10:00:00:00:07:f8:21:c3 00:00:00:13:05:05
vfc6                0x58001c     10:00:00:00:07:f8:0e:4a 00:00:00:13:05:06
vfc6                0x58002f     10:00:00:00:07:f8:21:c4 00:00:00:13:05:06
vfc7                0x58001b     10:00:00:00:07:f8:0e:4b 00:00:00:13:05:07
vfc7                0x58002e     10:00:00:00:07:f8:21:c5 00:00:00:13:05:07
vfc8                0x58001a     10:00:00:00:07:f8:0e:4c 00:00:00:13:05:08
vfc8                0x58002d     10:00:00:00:07:f8:21:c6 00:00:00:13:05:08
vfc9                0x580019     10:00:00:00:07:f8:0e:4d 00:00:00:13:05:09
vfc9                0x58002c     10:00:00:00:07:f8:21:c7 00:00:00:13:05:09
vfc10               0x580018     10:00:00:00:07:f8:0e:4e 00:00:00:13:05:0a
vfc10               0x58002a     10:00:00:00:07:f8:21:c8 00:00:00:13:05:0a
vfc11               0x580023     10:00:00:00:07:f8:0e:4f 00:00:00:13:05:0b
vfc11               0x580036     10:00:00:00:07:f8:21:c9 00:00:00:13:05:0b
vfc12               0x580022     10:00:00:00:07:f8:0e:50 00:00:00:13:05:0c
vfc12               0x580035     10:00:00:00:07:f8:21:ca 00:00:00:13:05:0c
vfc13               0x580021     10:00:00:00:07:f8:0e:51 00:00:00:13:05:0d
vfc13               0x580034     10:00:00:00:07:f8:21:cb 00:00:00:13:05:0d
vfc14               0x58002b     10:00:00:00:07:f8:0e:52 00:00:00:13:05:0e
vfc14               0x58003d     10:00:00:00:07:f8:21:cc 00:00:00:13:05:0e
vfc15               0x580029     10:00:00:00:07:f8:0e:53 00:00:00:13:05:0f
vfc15               0x58003c     10:00:00:00:07:f8:21:cd 00:00:00:13:05:0f
vfc16               0x580028     10:00:00:00:07:f8:0e:54 00:00:00:13:05:10
vfc16               0x58003b     10:00:00:00:07:f8:21:ce 00:00:00:13:05:10
```

show fcoe database

```

vfc17          0x580027          10:00:00:00:07:f8:0e:55 00:00:00:13:05:11
vfc17          0x580039          10:00:00:00:07:f8:21:cf 00:00:00:13:05:11
vfc18          0x580026          10:00:00:00:07:f8:0e:56 00:00:00:13:05:12
vfc18          0x58003a          10:00:00:00:07:f8:21:d0 00:00:00:13:05:12
vfc19          0x580025          10:00:00:00:07:f8:0e:57 00:00:00:13:05:13
vfc19          0x580038          10:00:00:00:07:f8:21:d1 00:00:00:13:05:13
vfc20          0x580024          10:00:00:00:07:f8:0e:58 00:00:00:13:05:14
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe fcf-priority	FCoE Initialization Protocol (FIP) のプライオリティ値を設定します。
fcoe fcmap	FCoE ノード (ENode) の関連付けに使用する FCoE MAC Address Prefix (FC MAP) を設定します。
fcoe fka-adv-period	FIP キープアライブ (FKA) メッセージが ENode の MAC アドレスに送信される時間間隔を設定します。
show fcoe	FCoE CFS パラメータのステータスを表示します。

show fcroute

ファイバチャネルおよび Fabric Shortest Path First (FSPF) の既存の設定に関する特定の情報を表示するには、**show fcroute** コマンドを使用します。

```
show fcroute {distance | label [label] vsan vsan-id | multicast [fc-id vsan vsan-id | vsan vsan-id] |
summary [vsan vsan-id] | unicast [[host] fc-id fc-mask vsan vsan-id | vsan vsan-id]}
```

構文の説明

distance	FC ルートの優先順位を表示します。
label	ラベル ルートを表示します。
<i>label</i>	(任意) 指定されたラベルのルートを表示します。
vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します (1 ~ 4093)。
multicast	FC マルチキャスト ルートを表示します。
<i>fc-id</i>	(任意) ファイバチャネル ID を指定します。
summary	FC ルート概要を表示します。
unicast	FC ユニキャスト ルートを表示します。
<i>host</i>	指定されたホストのユニキャスト ルートを表示します。
<i>fc-mask</i>	マスクで指定された FCID の範囲に一致するホストのユニキャスト ルートを表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コマンド出力でルート数が表示される際、合計ルート数には表示ルートと非表示ルートの両方が含まれています。

例

次に、アドミニストレーティブ ディスタンスを表示する例を示します。

```
switch# show fcroute distance
```

次に、マルチキャスト ルーティング情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcroute multicast
```

次に、指定された VSAN の FCID 情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcroute multicast vsan 3
```

次に、指定された VSAN の FCID とインターフェイスの情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcroute multicast 0xfffff vsan 2
```

次に、ユニキャスト ルーティング情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcroute unicast
```

次に、指定された VSAN のユニキャスト ルーティング情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcroute unicast vsan 4
```

次に、指定された FCID のユニキャスト ルーティング情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcroute unicast 0x040101 0xffffffff vsan 4
```

次に、ルート データベース情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcroute summary
```

次に、指定された VSAN のルート データベース情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcroute summary vsan 4
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcroute	ファイバ チャネル ルートを設定し、ポリシー ルーティングをアクティブにします。

show fcs

ファブリック設定のステータスを表示するには、**show fcs** コマンドを使用します。

```
show fcs {database [vsan vsan-id] | ie [nwwn wwn | vsan vsan-id] | platform {name string | vsan vsan-id} | port {pwwn wwn | vsan vsan-id} | statistics vsan vsan-id | vsan}
```

構文の説明

database	Frame Check Sequence (FCS; フレーム チェック シーケンス) のローカルデータベースを表示します。
vsan <i>vsan-id</i>	(任意) Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
ie	相互接続要素オブジェクト情報を表示します。
nwwn <i>wwn</i>	(任意) ノード WWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。
platform	プラットフォーム オブジェクト情報を表示します。
name <i>string</i>	(任意) プラットフォーム名を指定します。名前は、最大 255 文字まで指定できます。
port	ポート オブジェクト情報を表示します。
pwwn <i>wwn</i>	ポート WWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。
statistics	FCS パケットの統計情報を表示します。
vsan	すべての VSAN のリストを表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FCS データベース情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcs database
```

次に、特定の VSAN の相互接続要素オブジェクト情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcs ie vsan 1
```

次に、特定の WWN の相互接続要素オブジェクト情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcs ie nwwn 20:01:00:05:30:00:16:df vsan 1
```

次に、プラットフォーム情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcs platform name SamplePlatform vsan 1
```

次に、指定された VSAN 内のプラットフォーム情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcs platform vsan 1
```

次に、指定された VSAN 内の FCS ポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcs port vsan 24
```

次に、指定された WWN 内のポートを表示する例を示します。

```
switch# show fcs port pwn 20:51:00:05:30:00:16:de vsan 24
```

次に、FCS 統計情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcs statistics
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcs	FCS プラットフォーム属性を設定します。

show fcsp

Fibre Channel Security Protocol (FC-SP; ファイバチャネルセキュリティプロトコル) コンフィギュレーションのステータスを表示するには、**show fcsp** コマンドを使用します。

```
show fcsp [asciiwwn ascii-wwn | dhchap [database] | interface {fc slot/port | vfc vfc-id} [statistics | wwn]]
```

構文の説明

asciiwwn <i>ascii-wwn</i>	(任意) 認証、許可、アカウントिंग (AAA) サーバで使用する World Wide Name (WWN) の ASCII 表記を表示します。
dhchap	(任意) Diffie-Hellman Challenge Handshake Authentication Protocol (DHCHAP) ハッシュ アルゴリズムのステータスを表示します。
database	(任意) ローカル DHCHAP データベースの内容を表示します。
interface	(任意) ファイバチャネルまたはファイバチャネルインターフェイスの FC-SP 設定を表示します。
fc slot/port	ファイバチャネルインターフェイスを指定します。
vfc vfc-id	(任意) バーチャルファイバチャネルインターフェイスを指定します。
statistics	(任意) 指定インターフェイスの統計情報を表示します。
wwn	(任意) 他のデバイスの FC-SP ID を表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FC インターフェイスの DHCHAP 設定を表示する例を示します。

```
switch# show fcsp interface fc2/3
```

次に、FC インターフェイスの DHCHAP 統計情報を表示する例を示します。

```
switch# show fcsp interface fc2/3 statistics
```

次に、指定されたインターフェイスで接続したデバイスの FC-SP WWN を表示する例を示します。

```
switch# show fcsp interface fc 2/1 wwn
```

次に、ローカルスイッチに設定されているハッシュ アルゴリズムと DHCHAP のグループを表示する例を示します。

```
switch# show fcsp dhchap
```

次に、DHCHAP ローカルパスワードデータベースを表示する例を示します。

```
switch# show fcsp dhchap database
```

次に、デバイス WWN の ASCII 表記を表示する例を示します。

```
switch# show fcsp asciiwn 30:11:bb:cc:dd:33:11:22
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcsp enable	このスイッチの FC-SP 機能をイネーブルにします。

show fctimer

ファイバチャネル タイマー (fctimer) を表示するには、**show fctimer** コマンドを使用します。

```
show fctimer [d_s_tov [vsan vsan-id] | e_d_tov [vsan vsan-id] | f_s_tov [vsan vsan-id] | r_a_tov
[vsan vsan-id] | last action status | pending | pending-diff | session status | status | vsan
vsan-id]
```

構文の説明

d_s_tov	(任意) 分散サービスのタイムアウト値 (D_S_TOV) をミリ秒単位で表示します。
vsan vsan-id	(任意) Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の情報を表示します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
e_d_tov	(任意) エラー検出のタイムアウト値 (E_D_TOV) をミリ秒単位で表示します。
f_s_tov	(任意) ファブリック安定性のタイムアウト値 (F_S_TOV) をミリ秒単位で表示します。
r_a_tov	(任意) リソース割り当てのタイムアウト値 (R_A_TOV) をミリ秒単位で表示します。
last action status	(任意) 最後に実行した Cisco Fabric Service (CFS) 確定または廃棄操作のステータスを表示します。
pending	(任意) 未決定 fctimer コマンドのステータスを表示します。
pending-diff	(任意) 保留中のデータベースと実行中の設定の間における違いを表示します。
session status	(任意) fctimer CFS セッションの状態を表示します。
status	(任意) ファイバチャネル タイマーの状態を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、設定されているグローバル タイムアウト値 (TOV) を表示する例を示します。

```
switch# show fctimer
```

次に、指定の VSAN に設定された TOV を表示する例を示します。

```
switch# show fctimer vsan 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
fctimer	fctimer パラメータを設定します。

show fdmi

Fabric-Device Management Interface (FDMI) データベースの情報を表示するには、**show fdmi** コマンドを使用します。

```
show fdmi database [detail [hba-id {hba-id vsan vsan-id} | vsan vsan-id] | vsan vsan-id] |
suppress-updates
```

構文の説明

database	FDMI データベース コンテンツを表示します。
detail	(任意) 詳細な FDMI 情報を指定します。
hba-id hba-id	(任意) 指定された Host Bus Adapter (HBA; ホスト バス アダプタ) エントリの詳細情報を表示します。
vsan vsan-id	(任意) 指定された Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の FDMI 情報を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
suppress-updates	アップデートを停止するように設定されている VSAN を表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、すべての HBA 管理サーバを表示する例を示します。

```
switch# show fdmi database
```

次に、VSAN1 固有の FDMI 情報を表示する例を示します。

```
switch# show fdmi database detail vsan 1
```

次に、指定された HBA エントリの詳細を表示する例を示します。

```
switch# show fdmi database detail Hba-id 21:01:00:e0:8b:2a:f6:54 vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
fdmi suppress-updates	FDMI アップデートを抑制します。

show fex

特定のファブリック エクステンダまたはすべての接続されたシャーシに関する情報を表示するには、**show fex** コマンドを使用します。

```
show fex [chassis_ID [detail]]
```

構文の説明	<i>chassis_ID</i>	(任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID。有効なシャーシ ID の範囲は 100 ~ 199 です。
	detail	(任意) 詳細なリストを表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、接続されたすべてのファブリック エクステンダ シャーシに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show fex
FEX          FEX          FEX          FEX
Number      Description  State         Model         Serial
-----
100          FEX0100     Online        N5K-C5110T-BF-1GE  JAF1237ABSE
101          FEX0101     Online        N2K-C2248TP-1GE   JAF11223333
102          FEX0102     Online        N5K-C5110T-BF-1GE  JAF1241BLHQ
105          FEX0105     Online        N2K-C2232P-10GE   JAF1331AKBM
switch#
```

次の例では、特定のファブリック エクステンダ シャーシに関する情報のサマリーを表示する方法を示します。

```
switch# show fex 101
FEX: 101 Description: FEX0101 state: Online
FEX version: 4.2(1)N1(1) [Switch version: 4.2(1)N1(1)]
Extender Model: N2K-C2248TP-1GE, Extender Serial: JAF11223333
Part No: 73-12748-01
pinning-mode: static Max-links: 1
Fabric port for control traffic: Eth3/5
Fabric interface state:
Po5 - Interface Up. State: Active
Eth3/5 - Interface Up. State: Active
Eth3/6 - Interface Up. State: Active
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fex	ファブリック エクステンダを作成し、ファブリック エクステンダ コンフィギュレーション モードを開始します。

show flogi

すべての Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) を対象としたあらゆるインターフェイスによる全ファブリック ログイン (FLOGI) セッションを表示するには、**show flogi** コマンドを使用します。

```
show flogi {auto-area-list} | database {fcid fcid-id | interface {fc slot/port | vfc vfc-id} | vsan vsan-id}
```

構文の説明

auto-area-list	割り当て領域である Organizational Unit Identifier (OUI) のリストを表示します。
database	FLOGI セッションに関する情報を表示します。
fcid fcid-id	割り当てられた Fibre Channel (FC) ID に基づいて FLOGI データベース エントリを表示します。フォーマットは <i>0xhhhhhh</i> です。
interface	ログインしたインターフェイスに基づいて FLOGI データベース エントリを表示します。
fc slot/port	ファイバ チャンネル インターフェイスまたはバーチャル ファイバ チャンネル インターフェイスをスロットおよびポート番号で指定します。
vfc vfc-id	バーチャル ファイバ チャンネル インターフェイスを指定します。
vsan vsan-id	VSAN ID に基づいて FLOGI データベース エントリを表示します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの出力はインターフェイス番号別、および VSAN ID 別に保存されます。

FC ファブリックでは、各ホストまたはディスクに FCID が必要です。以下の例にあるように、Fabric Login (FLOGI) テーブルにストレージ デバイスが表示されているかどうか確認するには、**show flogi database** コマンドを使用します。必要なデバイスが FLOGI テーブルに表示されていれば、FLOGI が正常に行われます。ホスト Host Bus Adapter (HBA) および接続ポートに直接接続されているスイッチ上の FLOGI データベースを検査します。

例

次に、FLOGI データベースの詳細を表示する例を示します。

```
switch# show flogi database
```

次に、FLOGI インターフェイスを表示する例を示します。

```
switch# show flogi database interface fc 2/3
```

次に、FLOGI VSAN を表示する例を示します。

```
switch# show flogi database vsan 1
```

次に、特定の FCID に対する FLOGI を表示する例を示します。

```
switch# show flogi database fcid 0xef02e2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcns database	すべてのローカルおよびリモートのネーム サーバ エントリを表示します。

show fspf

グローバル Fibre Shortest Path First (FSPF) ルーティング情報を表示するには、**show fspf** コマンドを使用します。

```
show fspf [database [vsan vsan-id] [detail | domain domain-id detail] | interface | vsan vsan-id
interface {fc slot/port | san-port-channel port-channel}]
```

構文の説明

database	(任意) FSPF リンク ステート データベースを表示します。
vsan <i>vsan-id</i>	(任意) Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
detail	(任意) 詳細な FSPF 情報を表示します。
domain <i>domain-id</i>	(任意) データベースのドメインを指定します。有効な範囲は 0 ~ 255 です。
interface	(任意) FSPF インターフェイスを指定します。
fc <i>slot/port</i>	設定するファイバ チャネル インターフェイスを指定します。
san-port-channel <i>port-channel</i>	ポート チャネル インターフェイスを指定します。有効な範囲は 1 ~ 256 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

パラメータを指定せずに、このコマンドを入力すると、データベース内のすべてのエントリが表示されます。

例

次に、FSPF インターフェイス情報を表示する例を示します。

```
switch# show fspf vsan 1 fc2/1
```

次に、FSPF データベース情報を表示する例を示します。

```
switch# show fspf database vsan 1
```

```
FSPF Link State Database for VSAN 1 Domain 0xc6(198)
LSR Type                = 1
Advertising domain ID   = 0xc6(198)
LSR Age                  = 1050
LSR Incarnation number   = 0x800007c5
LSR Checksum             = 0x35d2
Number of links          = 0
  NbrDomainId      IfIndex   NbrIfIndex   Link Type      Cost
-----
switch#
```

次のコマンドは、指定された VSAN に対する FSPF 情報を表示する例を示します。

```
switch# show fspf vsan 1
FSPF routing for VSAN 1
FSPF routing administration status is enabled
FSPF routing operational status is UP
It is an intra-domain router
Autonomous region is 0
SPF hold time is 0 msec
MinLsArrival = 1000 msec , MinLsInterval = 2000 msec
Local Domain is 0xc6(198)
Number of LSRs = 1, Total Checksum = 0x000035d2

Protocol constants :
  LS_REFRESH_TIME = 30 minutes (1800 sec)
  MAX_AGE          = 60 minutes (3600 sec)

Statistics counters :
  Number of LSR that reached MaxAge = 0
  Number of SPF computations         = 0
  Number of Checksum Errors          = 0
  Number of Transmitted packets :   LSU 0 LSA 0 Hello 0 Retranmsitted LSU 0
  Number of received packets :     LSU 0 LSA 0 Hello 0 Error packets 0

switch#
```

次のコマンドは、すべてのインターフェイスの FSPF 情報を表示する例を示します。

```
switch# show fspf interface
FSPF interface vfc5 in VSAN 1
FSPF routing administrative state is active
Interface cost is 2100
Timer intervals configured, Hello 20 s, Dead 80 s, Retransmit 5 s
FSPF State is DOWN

switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fspf	FSPF を設定します。

show in-order-guarantee

順次配信機能の現在の設定ステートを表示するには、**show in-order-guarantee** コマンドを使用します。

show in-order-guarantee

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、順次配信機能の現在の設定状態を表示する例を示します。

```
switch# show in-order-guarantee
```

関連コマンド

コマンド	説明
in-order-guarantee	順次配信をイネーブルにします。

show interface fcoe

インターフェイスの Fibre Channel over Ethernet (FCoE) に関する情報を表示するには、**show interface fcoe** コマンドを使用します。

show interface [*interface number*] **fcoe**

構文の説明

<i>interface</i>	(任意) インターフェイス、イーサネット、または EtherChannel を指定します。
<i>number</i>	インターフェイス番号を指定します。 <i>number</i> には、次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> イーサネット インターフェイスのスロット、およびスロット内のポート番号。スロット番号の範囲は 1 ~ 255、ポート番号の範囲は 1 ~ 255 です。 EtherChannel 番号。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、イーサネット インターフェイスに対する FCoE 情報を表示する例を示します。

```
switch# show interface fcoe
Ethernet1/1 is FCoE UP
Ethernet1/2 is FCoE UP
Ethernet1/3 is FCoE UP
Ethernet1/4 is FCoE UP
Ethernet1/5 is FCoE UP
Ethernet1/6 is FCoE UP
Ethernet1/7 is FCoE UP
Ethernet1/8 is FCoE UP
Ethernet1/9 is FCoE UP
Ethernet1/10 is FCoE UP
Ethernet1/11 is FCoE down
Ethernet1/12 is FCoE down
Ethernet1/13 is FCoE UP
Ethernet1/14 is FCoE UP
Ethernet1/15 is FCoE down
Ethernet1/16 is FCoE down
Ethernet1/17 is FCoE UP
Ethernet1/18 is FCoE down
Ethernet1/19 is FCoE UP
Ethernet1/20 is FCoE UP
Ethernet1/21 is FCoE UP
Ethernet1/22 is FCoE UP
Ethernet1/23 is FCoE UP
Ethernet1/24 is FCoE UP
```

```
Ethernet1/25 is FCoE UP
Ethernet1/26 is FCoE UP
Ethernet1/27 is FCoE UP
Ethernet1/28 is FCoE UP
Ethernet1/29 is FCoE UP
Ethernet1/30 is FCoE UP
Ethernet1/31 is FCoE UP
Ethernet1/32 is FCoE UP
Ethernet1/33 is FCoE UP
  vfc1 is Up
    FCID is 0x580016
    PWWN is 10:00:00:00:07:f8:0e:45
    MAC addr is 00:00:00:13:05:01
    FCID is 0x580017
    PWWN is 10:00:00:00:07:f8:21:bf
    MAC addr is 00:00:00:13:05:01
  vfc2 is Up
    FCID is 0x580020
    PWWN is 10:00:00:00:07:f8:0e:46
    MAC addr is 00:00:00:13:05:02
    FCID is 0x580033
    PWWN is 10:00:00:00:07:f8:21:c0
    MAC addr is 00:00:00:13:05:02
  vfc4 is Up
    FCID is 0x58001e
    PWWN is 10:00:00:00:07:f8:0e:48
    MAC addr is 00:00:00:13:05:04
    FCID is 0x580031
    PWWN is 10:00:00:00:07:f8:21:c2
    MAC addr is 00:00:00:13:05:04
  vfc5 is Up
    FCID is 0x58001d
    PWWN is 10:00:00:00:07:f8:0e:49
    MAC addr is 00:00:00:13:05:05
    FCID is 0x580030
    PWWN is 10:00:00:00:07:f8:21:c3
    MAC addr is 00:00:00:13:05:05
  vfc6 is Up
    FCID is 0x58001c
    PWWN is 10:00:00:00:07:f8:0e:4a
    MAC addr is 00:00:00:13:05:06
    FCID is 0x58002f
    PWWN is 10:00:00:00:07:f8:21:c4
    MAC addr is 00:00:00:13:05:06
Ethernet1/34 is FCoE down
Ethernet1/35 is FCoE UP
<--Output truncated-->
switch#
```

次に、特定のイーサネット インターフェイスに対する FCoE 情報を表示する例を示します。

```
switch# show interface ethernet 1/21 fcoe
Ethernet1/21 is FCoE UP
switch#
```

次に、特定の EtherChannel インターフェイスに対する FCoE 情報を表示する例を示します。

```
switch# show interface port-channel 3 fcoe
port-channel3 is FCoE UP
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcoe	FCoE CFS パラメータのステータスを表示します。

show interface san-port-channel

SAN ポート チャネル インターフェイスの設定情報を表示するには、**show interface san-port-channel** コマンドを使用します。

show interface san-port-channel *port-num* [**brief** | **counters** [**brief**] | **trunk vsan** [*vsan-range*]]

構文の説明	
<i>port-num</i>	SAN ポート チャネル インターフェイス ID。有効な範囲は 1 ~ 256 です。
brief	(任意) SAN ポート チャネル インターフェイスに関する要約情報を表示します。
counters	(任意) SAN ポート チャネル インターフェイスのカウンタを表示します。
trunk	(任意) SAN ポート チャネル インターフェイスのトランク情報を表示します。
vsan	(任意) SAN ポート チャネル インターフェイスのトランクの VSAN 情報を表示します。
<i>vsan-range</i>	(任意) VSAN の範囲です。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、指定した SAN ポート チャネル インターフェイスの設定情報を表示する例を示します。

```
switch# show interface san-port-channel 101
san-port-channel 101 is down (No operational members)
  Hardware is Fibre Channel
  Port WWN is 24:65:00:05:9b:74:a6:c0
  Admin port mode is NP, trunk mode is off
  snmp link state traps are enabled
  Port vsan is 1
  1 minute input rate 0 bits/sec, 0 bytes/sec, 0 frames/sec
  1 minute output rate 0 bits/sec, 0 bytes/sec, 0 frames/sec
    0 frames input, 0 bytes
      0 discards, 0 errors
      0 CRC, 0 unknown class
      0 too long, 0 too short
    0 frames output, 0 bytes
      0 discards, 0 errors
      0 input OLS, 0 LRR, 0 NOS, 0 loop inits
      0 output OLS, 0 LRR, 0 NOS, 0 loop inits
  last clearing of "show interface" counters never
  No members

switch#
```

次に、指定した SAN ポート チャネル インターフェイスのカウンタの要約情報を表示する例を示します。

show interface san-port-channel

```
switch# show interface san-port-channel 101 counters brief
```

```
-----
Interface                Input (rate is 1 min avg)      Output (rate is 1 min avg)
-----
                        Rate      Total          Rate      Total
                        MB/s     Frames         MB/s     Frames
-----
san-port-channel 101    0         0              0         0
-----
```

```
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface san-port-channel	SAN ポート チャネル インターフェイスを設定します。
show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
show running-config interface san-port-channel	SAN ポート チャネルの実行コンフィギュレーション情報を表示します。

show interface vfc

仮想ファイバ チャンネル インターフェイスの設定情報を表示するには、**show interface vfc** コマンドを使用します。

```
show interface vfc vfc-id [brief] [counters]
```

構文の説明	<i>vfc-id</i>	仮想ファイバ チャンネル インターフェイス ID。有効な範囲は 1 ~ 8192 です。
	brief	(任意) 仮想ファイバ チャンネル インターフェイスに関する要約情報を表示します。
	counters	(任意) 仮想ファイバ チャンネル インターフェイスのカウントを表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、指定した仮想ファイバ チャンネル インターフェイスの設定情報を表示する例を示します。

```
switch# show interface vfc 1
vfc1 is down (Administratively down)
  Bound MAC is 00:50:3e:8d:64:00
  Hardware is Virtual Fibre Channel
  Port WWN is 20:00:00:05:9b:23:40:7f
  Admin port mode is F, trunk mode is on
  snmp link state traps are enabled
  Port vsan is 1
  1 minute input rate 0 bits/sec, 0 bytes/sec, 0 frames/sec
  1 minute output rate 0 bits/sec, 0 bytes/sec, 0 frames/sec
    0 frames input, 0 bytes
      0 discards, 0 errors
    0 frames output, 0 bytes
      0 discards, 0 errors
  last clearing of "show interface" counters never
```

switch#

次に、指定した仮想ファイバ チャンネル インターフェイスの要約情報を表示する例を示します。

```
switch# show interface vfc 5 brief
```

```
-----
Interface  Vsan   Admin  Admin  Status      SFP    Oper  Oper  Port
          Mode   Mode   Mode
          Mode
          (Gbps)
-----
vfc5      1      E      on     down       --     --     --
switch#
```

次に、指定した仮想ファイバチャネルインターフェイスのカウンタを表示する例を示します。

```
switch# show interface vfc 5 counters
vfc5
  5 minute input rate 0 bits/sec, 0 bytes/sec, 0 frames/sec
  5 minute output rate 0 bits/sec, 0 bytes/sec, 0 frames/sec
  0 frames input, 0 bytes
    0 discards, 0 errors, 0 CRC
    0 too long, 0 too short
  0 frames output, 0 bytes
    0 discards, 0 errors
  0 input OLS, 0 LRR, 0 NOS, 0 loop inits
  0 output OLS, 0 LRR, 0 NOS, 0 loop inits
  0 link failures, 0 sync losses, 0 signal losses
  0 BB credit transitions from zero

switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>interface vfc</code>	仮想ファイバチャネルインターフェイスを設定します。

show lldp

スイッチ上の Link Layer Discovery Protocol (LLDP; リンク層検出プロトコル) 設定に関する情報を表示するには、**show lldp** コマンドを使用します。

```
show lldp {interface {ethernet slot/port | mgmt intf-no} | neighbors [detail | interface] | timers | traffic [interface {ethernet slot/port | mgmt intf-no}]}
```

構文の説明

interface	インターフェイスの LLDP インターフェイス情報または LLDP ネイバー情報を表示します。
ethernet slot/port	イーサネット IEEE 802.3z インターフェイスの設定情報を表示します。スロット番号は 1 ~ 255、ポート番号は 1 ~ 128 です。
mgmt intf-no	管理インターフェイスのコンフィギュレーション情報を表示します。管理インターフェイス番号は 0 です。
neighbors	LLDP ネイバーに関する情報を表示します。
detail	(任意) LLDP ネイバーに関する詳細情報を表示します。
timers	LLDP タイマーに関する情報を表示します。
traffic	スイッチで設定される LLDP カウンタを表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、LLDP インターフェイス情報を表示する例を示します。

```
switch# show lldp traffic interface ethernet 1/1
LLDP interface traffic statistics:

Total frames transmitted: 7490
Total entries aged: 0
Total frames received: 7458
Total frames received in error: 0
Total frames discarded: 0
Total unrecognized TLVs: 0
switch#
```

次に、LLDP 管理インターフェイス情報を表示する例を示します。

```
switch# show lldp traffic interface mgmt 0
LLDP interface traffic statistics:

Total frames transmitted: 0
Total entries aged: 0
Total frames received: 0
Total frames received in error: 0
Total frames discarded: 0
Total unrecognized TLVs: 0
```

```
switch#
```

次に、スイッチ上で LLDP タイマーを表示する例を示します。

```
switch# show lldp timers
LLDP Timers:

    Holdtime in seconds: 120
    Reinit-time in seconds: 2
    Transmit interval in seconds: 30
switch#
```

次に、LLDP ネイバーの情報を表示する例を示します。

```
switch# show lldp neighbors
Capability codes:
  (R) Router, (B) Bridge, (T) Telephone, (C) DOCSIS Cable Device
  (W) WLAN Access Point, (P) Repeater, (S) Station, (O) Other
Local Intf  Chassis ID      Port ID      Hold-time    Capability
Eth1/1     000d.eca3.6080    Eth1/1       120          B
Eth1/2     000d.eca3.6080    Eth1/2       120          B
Eth1/3     000d.eca3.6080    Eth1/3       120          B
Eth1/4     000d.eca3.6080    Eth1/4       120          B
Eth1/7     000d.ecf2.0880    Eth1/7       120          B
Eth1/8     000d.ecf2.0880    Eth1/8       120          B
Eth1/9     000d.ecf2.0b40    Eth1/9       120          B
Eth1/10    000d.ecf2.0b40    Eth1/10      120          B
switch#
```

次に、指定されたインターフェイスの LLDP 情報を表示する例を示します。

```
switch# show lldp interface ethernet 1/1
Interface Information:
  Enable (tx/rx/dcbx): Y/Y/Y      Port Mac address: 00:0d:ec:b2:30:c8

Peer's LLDP TLVs:
Type Length Value
----
001 007 04000dec a36080
002 007 05457468 312f31
003 002 0078
004 009 4e354b2d 506f7274 00
005 013 45756765 6e652d4e 354b2d32 00
006 010 4e354b2d 53776974 6368
007 004 00040004
008 012 05010ac1 8303021a 00000000
128 055 001b2102 020a0000 00000001 00000001 06060000 80000808 080a0000
      80008906 001b2108 04110000 80000001 00003232 00000000 000002
128 005 00014201 01
128 006 0080c201 0001
000 000
switch#
```

次に、LLDP トラフィックの情報を表示する例を示します。

```
switch# show lldp traffic
LLDP traffic statistics:

    Total frames transmitted: 89743
    Total entries aged: 0
    Total frames received: 59300
    Total frames received in error: 0
    Total frames discarded: 0
    Total unrecognized TLVs: 0
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
lldp	スイッチにグローバル LLDP オプションを設定します。
lldp (インターフェイス)	インターフェイスに LLDP 機能を設定します。

show loadbalancing

特定のユニキャストフローのロードバランシングステータスを表示するには、**show loadbalancing** コマンドを使用します。

show loadbalancing vsan vsan-id source-fcid dest-fcid [exchange-id]

構文の説明

vsan vsan-id	割り当てられた FCID に基づいてファブリック ログイン (FLOGI) データベース エントリを表示します。フォーマットは 0xhhhhhh です。
source-fcid	指定されたソース FCID のロードバランシングステータスを表示します。フォーマットは 0xhhhhhh です。
dest-fcid	指定された宛先 FCID のロードバランシングステータスを表示します。フォーマットは 0xhhhhhh です。
exchange-id	(任意) 指定された交換のロードバランシングステータスを表示します。フォーマットは 0xhhhhhh です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 3 で指定されたソース、および宛先に対するロードバランシング情報を表示する例を示します。

```
switch# show loadbalancing vsan 3 0x3345 0x2546
```

関連コマンド

コマンド	説明
vsan	VSAN 情報またはメンバーシップを設定します。

show npv flogi-table

N Port Virtualization (NPV; N ポート仮想化) によるファブリック ログイン (FLOGI) セッションに関する情報を表示するには、**show npv flogi-table** コマンドを使用します。

show npv flogi-table

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show npv flogi-table コマンドを使用できるのは、スイッチが NPV モードの場合だけです。

例

次に、NPV FLOGI セッションに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show npv flogi-table
```

関連コマンド

コマンド	説明
show npv status	NPV の現在のステータスを表示します。

show npv status

N ポート バーチャライゼーション (NPV) の現行のステータスを表示するには、**show npv status** コマンドを使用します。

show npv status

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show npv status コマンドを使用できるのは、スイッチが NPV モードの場合だけです。

例

次に、NPV の現在のステータスを表示する例を示します。

```
switch# show npv status
```

関連コマンド

コマンド	説明
show npv flogi-table	NPV FLOGI セッションに関する情報を表示します。

show npv traffic-map

N ポート バーチャライゼーション (NPV) トラフィック マップを表示するには、**show npv traffic-map** コマンドを使用します。

show npv traffic-map

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show npv traffic-map コマンドを使用できるのは、スイッチが NPV モードの場合だけです。

例

次に、NPV の現在のステータスを表示する例を示します。

```
switch# show npv traffic-map
```

関連コマンド

コマンド	説明
show npv flogi-table	NPV FLOGI セッションに関する情報を表示します。

show port index-allocation

ポート インデックス割り当て情報を表示するには、**show port index-allocation** コマンドを使用します。

show port index-allocation [startup]

構文の説明

startup	(任意) 始動時のポート インデックス割り当て情報を表示します。
----------------	----------------------------------

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ポート インデックスの最大数が 256 のスイッチでは、この制限を超えるモジュールの電源は投入されません。Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチでは、始動時のモジュール インデックス配信はありません。

例

次に、ポート インデックスの割り当て情報を表示する例を示します。

```
switch# show port index-allocation
```

show rlr

Registered Link Incident Report (RLIR) 情報を表示するには、**show rlr** コマンドを使用します。

```
show rlr {erl [vsan vsan-id] | history | recent {interface fc slot/port | portnumber port} |
statistics [vsan vsan-id]}
```

構文の説明

erl	Established Registration List を表示します。
vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
history	リンク インシデント履歴を表示します。
recent	最近のリンク インシデントを表示します。
interface fc slot/port	ファイバ チャネル インターフェイスを指定します。
portnumber port	指定ポート番号の RLIR 情報を表示します。
statistics	すべての VSAN または指定 VSAN の RLIR 統計情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 1 の RLIR 情報を表示する例を示します。

```
switch# show rlr erl vsan 1
```

次に、RLIR 統計情報を表示する例を示します。

```
switch# show rlr statistics vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
rlir preferred-cond fcid	RLIR フレームを受信する優先ホストを指定します。

show rscn

Registered State Change Notification (RSCN) 情報を表示するには、**show rscn** コマンドを使用します。

```
show rscn {event-tov vsan vsan-id | pending vsan vsan-id | pending-diff vsan vsan-id | scr-table
[vsan vsan-id] | session status vsan vsan-id | statistics [vsan vsan-id]}
```

構文の説明

event-tov	イベント タイムアウト値を表示します。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
pending	未決定コンフィギュレーションを表示します。
pending-diff	アクティブ コンフィギュレーションと未決定コンフィギュレーションの差異を表示します。
scr-table	State Change Registration (SCR) テーブルを表示します。
session status	RSCN セッション ステータスを表示します。
statistics	RSCN 統計情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

SCR テーブルを設定できません。このテーブルは、1 つまたは複数の N ポートが RSCN 情報の登録のために SCR フレームを送信した場合にだけデータが入力されます。**show rscn scr-table** コマンドがエントリを返さない場合、RSCN 情報を受信できる N ポートはありません。

例

次に、RSCN 情報を表示する例を示します。

```
switch# show rscn scr-table vsan 1
```

次に、RSCN 統計情報を表示する例を示します。

```
switch# show rscn statistics vsan 1
```

次に、VSAN 1 に設定された RSCN イベント タイムアウト値を表示する例を示します。

```
switch# show rscn event-tov vsan 1
```

次に、VSAN 1 でアクティブになっている RSCN 設定と保留中の RSCN 設定の間における違いを表示する例を示します。

```
switch# show rscn pending-diff vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
rscn	Registered State Change Notification (RSCN) を設定します。

show running-config fcoe_mgr

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) に関する実行コンフィギュレーション情報を表示するには、**show running-config fcoe_mgr** コマンドを使用します。

show running-config fcoe_mgr [all]

構文の説明

all (任意) デフォルト設定も含め、すべての動作情報を表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N2(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FCoE 実行コンフィギュレーション情報を表示する例を示します。

```
switch# show running-config fcoe_mgr

!Command: show running-config fcoe_mgr
!Time: Fri Jan  2 06:33:11 2009

version 5.0(3)N2(1)

interface vfc1
  bind mac-address 00:50:3e:8d:64:00
fcoe fka-adv-period 60
fcoe veloopback
```

```
switch#
```

次に、実行コンフィギュレーションの詳細情報を表示する例を示します。

```
switch# show running-config fcoe_mgr all

!Command: show running-config fcoe_mgr all
!Time: Fri Jan  2 05:36:52 2009

version 5.0(3)N2(1)
logging level fcoe_mgr 3

interface vfc1
  bind mac-address 00:50:3e:8d:64:00
fcoe fka-adv-period 60
fcoe veloopback
```

```
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーション情報をスタートアップ コンフィギュレーション ファイルにコピーします。
show tech-support fcoe	FCoE のトラブルシューティング情報を表示します。

show running-config interface san-port-channel

SAN ポート チャネル インターフェイスの実行システム コンフィギュレーション情報を表示するには、**show running-config interface san-port-channel** コマンドを使用します。

show running-config interface san-port-channel *port-num* [all | expand-port-profile]

構文の説明

all	(任意) 設定された情報とデフォルト情報を表示します。
expand-port-profile	(任意) ポート プロファイルのコンフィギュレーション情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、指定した SAN ポート チャネル インターフェイスの実行コンフィギュレーション情報を表示する例を示します。

```
switch# show running-config interface san-port-channel 101

!Command: show running-config interface san-port-channel 101
!Time: Mon Apr 11 09:14:20 2005

version 5.1(3)N1(1)

interface san-port-channel 101
  channel mode active
  switchport mode NP

switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface san-port-channel	SAN ポート チャネル インターフェイスを設定します。
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーション情報をスタートアップ コンフィギュレーション ファイルにコピーします。

show san-port-channel

既存の SAN ポート チャネル設定に関する情報を表示するには、**show san-port-channel** コマンドを使用します。

```
show san-port-channel {compatibility-parameters | consistency [detail] | database [interface  
san-port-channel port] | summary | usage}
```

構文の説明

compatibility-parameters	互換性パラメータを表示します。
consistency	すべてのモジュールのデータベース整合性情報を表示します。
detail	(任意) 詳細なデータベース整合性情報を表示します。
database	SAN ポート チャネル データベースの情報を表示します。
interface san-port-channel port	(任意) SAN ポート チャネル番号を指定します。有効な範囲は 1 ~ 256 です。
summary	SAN ポート チャネルの概要を表示します。
usage	SAN ポート チャネル番号の使用状況を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、SAN ポート チャネルの概要を表示する例を示します。

```
switch# show san-port-channel summary
```

次に、SAN ポート チャネル互換性パラメータを表示する例を示します。

```
switch# show san-port-channel compatibility-parameters
```

次に、SAN ポート チャネル データベースを表示する例を示します。

```
switch# show san-port-channel database
```

次に、SAN ポート チャネル データベースの整合性ステータスを表示する例を示します。

```
switch# show san-port-channel consistency
```

次に、SAN ポート チャネル データベースの整合性ステータスに関する詳細情報を表示する例を示します。

```
switch# show san-port-channel consistency detail
```

次に、使用および未使用の SAN ポート チャネル番号の詳細を表示する例を示します。

```
switch# show san-port-channel usage
```

関連コマンド

コマンド	説明
san-port-channel persistent	自動作成された SAN ポート チャンネルを永続的な SAN ポート チャンネルに変換します。

show scsi-target

既存の SCSI ターゲット コンフィギュレーションについての情報を表示するには、**show scsi-target** コマンドを使用します。

```
show scsi-target {auto-poll | custom-list | devices [vsan vsan-id] [fcid fcid-id] | disk [vsan vsan-id]
[fcid fcid-id] | lun [vsan vsan-id] [fcid fcid-id] [os [aix | all | hpux | linux | solaris | windows]
| pwwn | status | tape [vsan vsan-id] [fcid fcid-id] | vsan vsan-id}
```

構文の説明

auto-poll	SCSI ターゲット自動ポーリング情報を表示します。
custom-list	カスタマイズされた検出ターゲットを表示します。
devices	検出された SCSI ターゲット デバイスの情報を表示します。
vsan vsan-id	(任意) Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
fcid fcid-id	(任意) 表示する SCSI ターゲットの FCID を指定します。
disk	検出されたディスク情報を表示します。
lun	検出された SCSI ターゲットの Logical Unit Number (LUN; 論理ユニット番号) を表示します。
os	(任意) 指定のオペレーティング システムを検出します。
aix	(任意) AIX オペレーティング システムを指定します。
all	(任意) すべてのオペレーティング システムを指定します。
hpux	(任意) HPUNIX オペレーティング システムを指定します。
linux	(任意) Linux オペレーティング システムを指定します。
solaris	(任意) Solaris オペレーティング システムを指定します。
windows	(任意) Windows オペレーティング システムを指定します。
pwwn	各オペレーティング システムの検出された pWWN 情報を表示します。
status	SCSI ターゲット ディスカバリのステータスを表示します。
tape	検出されたテープ情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

オンライン SCSI ターゲットの自動検出を確認するには、**show scsi-target auto-poll** コマンドを使用します。

例

次に、SCSI 検出のステータスを表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target status
```

■ show scsi-target

次に、カスタマイズされた検出ターゲットを表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target custom-list
```

次に、検出されたディスクの情報を表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target disk
```

次に、すべてのオペレーティング システムについて検出された LUN を表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target lun os all
```

次に、Solaris オペレーティング システムについて検出された LUN を表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target lun os solaris
```

次に、自動ポーリングの情報を表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target auto-poll
```

次に、各オペレーティング システム (Windows、AIX、Solaris、Linux、または HPUX) に割り当てられたポート WWN を表示する例を示します。

```
switch# show scsi-target pwwn
```

関連コマンド

コマンド	説明
scsi-target	SCSI ターゲット検出を設定します。

show startup-config fcoe_mgr

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) に関するスタートアップ コンフィギュレーション情報を表示するには、**show startup-config fcoe_mgr** コマンドを使用します。

show startup-config fcoe_mgr

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N2(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FCoE スタートアップ コンフィギュレーション情報を表示する例を示します。

```
switch# show startup-config fcoe_mgr

!Command: show startup-config fcoe_mgr
!Time: Fri Jan  2 05:41:38 2009
!Startup config saved at: Thu Jan  1 00:04:46 2009

version 5.0(3)N2(1)
logging level fcoe_mgr 3

interface vfc1
  bind mac-address 00:50:3e:8d:64:00
fcoe fka-adv-period 60
fcoe veloopback

switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーション情報をスタートアップ コンフィギュレーション ファイルにコピーします。
show tech-support fcoe	FCoE のトラブルシューティング情報を表示します。

show tech-support fcoe

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) に関するトラブルシューティング情報を表示するには、**show tech-support fcoe** コマンドを使用します。

show tech-support fcoe

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N2(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FCoE インターフェイスに関するシスコ テクニカル サポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show tech-support fcoe
***** FCOE MGR tech-support start *****
`show platform software fcoe_mgr event-history errors`
1) Event:E_DEBUG, length:71, at 269945 usecs after Fri Jan  2 06:35:17 2009
   [102] fcoe_mgr_demux(535): (Warning) unexpected mts msg (opcode - 7972)

2) Event:E_DEBUG, length:64, at 269136 usecs after Fri Jan  2 06:35:17 2009
   [102] fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_data(5428): fka-adv-period: 60

3) Event:E_DEBUG, length:64, at 269107 usecs after Fri Jan  2 06:35:17 2009
   [102] fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_data(5427): fcf-priority   : 128

4) Event:E_DEBUG, length:68, at 269076 usecs after Fri Jan  2 06:35:17 2009
   [102] fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_data(5426): fcmap           : 0xefc00

5) Event:E_DEBUG, length:100, at 269036 usecs after Fri Jan  2 06:35:17 2009
   [102] fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_data(5425): fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_da
   ta: Exiting, ret_val = 0

6) Event:E_DEBUG, length:88, at 268788 usecs after Fri Jan  2 06:35:17 2009
   [102] fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_data(5400): fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_data:
   Entering

7) Event:E_DEBUG, length:63, at 567997 usecs after Fri Jan  2 06:30:27 2009
   [102] fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_data(5428): fka-adv-period: 8

8) Event:E_DEBUG, length:64, at 567965 usecs after Fri Jan  2 06:30:27 2009
   [102] fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_data(5427): fcf-priority   : 128

9) Event:E_DEBUG, length:68, at 567932 usecs after Fri Jan  2 06:30:27 2009
```

```

[102] fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_data(5426): fcmap          : 0xefc00

10) Event:E_DEBUG, length:100, at 567891 usecs after Fri Jan  2 06:30:27 2009
[102] fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_data(5425): fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_da
ta: Exiting, ret_val = 0

11) Event:E_DEBUG, length:88, at 567732 usecs after Fri Jan  2 06:30:27 2009
[102] fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_data(5400): fcoe_mgr_pss_add_global_cfg_da
ta: Entering

12) Event:E_DEBUG, length:88, at 567667 usecs after Fri Jan  2 06:30:27 2009
[102] fcoe_mgr_cli_set_ve_loopback(1562): Enabling VE loopback (will disable
VFID check)

13) Event:E_DEBUG, length:129, at 177534 usecs after Fri Jan  2 06:25:17 2009
[102] fcoe_mgr_mts_vfc_bind_check_resp_handler(2488): Bind Check Resp: if_in
dex: 0x0, status: (null): success (err_id 0x00000000)

14) Event:E_DEBUG, length:71, at 176687 usecs after Fri Jan  2 06:25:17 2009
[102] fcoe_mgr_demux(535): (Warning) unexpected mts msg (opcode - 7972)

15) Event:E_DEBUG, length:71, at 392038 usecs after Fri Jan  2 06:16:00 2009
[102] fcoe_mgr_mac_pool_bmp_to_tlv(143): mac_pool->mac_usage_bmp = NULL

16) Event:E_DEBUG, length:63, at 89603 usecs after Fri Jan  2 06:16:00 2009
[102] fcoe_mgr_get_eth_fcoe_info(58): sending lls down Eth1/31

17) Event:E_DEBUG, length:63, at 89509 usecs after Fri Jan  2 06:16:00 2009
[102] fcoe_mgr_get_eth_fcoe_info(58): sending lls down Eth1/29

18) Event:E_DEBUG, length:63, at 89405 usecs after Fri Jan  2 06:16:00 2009
[102] fcoe_mgr_get_eth_fcoe_info(58): sending lls down Eth1/18

19) Event:E_DEBUG, length:63, at 89310 usecs after Fri Jan  2 06:16:00 2009
[102] fcoe_mgr_get_eth_fcoe_info(58): sending lls down Eth1/17

20) Event:E_DEBUG, length:63, at 89212 usecs after Fri Jan  2 06:16:00 2009
[102] fcoe_mgr_get_eth_fcoe_info(58): sending lls down Eth1/15

21) Event:E_DEBUG, length:62, at 89101 usecs after Fri Jan  2 06:16:00 2009
[102] fcoe_mgr_get_eth_fcoe_info(58): sending lls down Eth1/8

<--Output truncated-->
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config fcoe_mgr	FCoE に関する実行コンフィギュレーション情報を表示します。

show topology

接続されている SAN スイッチのトポロジ情報を表示するには、**show topology** コマンドを使用します。

show topology [vsan vsan-id]

構文の説明	vsan vsan-id (任意) VSAN の情報を表示します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
-------	---

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	EXEC モード
---------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、トポロジの情報を表示する例を示します。

```
switch# show topology
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cfs ipv4 mcast-address	IPv4 を介した CFS 配信の IPv4 マルチキャストアドレスを設定します。
	cfs ipv6 distribute	CFS を使用して、アプリケーションの IPv6 を介した CFS 配信をイネーブルにします。
	cfs ipv6 mcast-address	IPv6 を介した CFS 配信の IPv6 マルチキャストアドレスを設定します。

show trunk protocol

トランク プロトコルのステータスを表示するには、**show trunk protocol** コマンドを使用します。

show trunk protocol

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、トランク プロトコルのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show trunk protocol
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
trunk protocol enable	ファイバ チャネル インターフェイスのトランキング プロトコルを設定します。

show vlan fcoe

Fibre Channel over Ethernet (FCoE) VLAN と Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のマッピングに関する情報を表示するには、**show vlan fcoe** コマンドを使用します。

show vlan fcoe

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、スイッチでの FCoE VLAN と VSAN のマッピングを表示する例を示します。

```
switch# show vlan fcoe
VLAN      VSAN      Status
-----
331       331       Operational
332       332       Operational
333       333       Operational
334       334       Operational
335       335       Non-operational
336       336       Operational
337       337       Operational
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe vsan	FCoE VLAN を VSAN にマッピングします。

show vsan

設定された仮想 SAN (VSAN) の情報を表示するには、**show vsan** コマンドを使用します。

```
show vsan [vsan-id [membership] | membership [interface {fc slot/port | san-port-channel port |
vfc vfc-id}] | usage]
```

構文の説明	
<i>vsan-id</i>	(任意) 指定された VSAN ID の情報を表示します。有効な範囲は 1 ~ 4094 です。
membership	(任意) メンバーシップ情報を表示します。
interface	(任意) インターフェイス タイプを指定します。
fc slot/port	ファイバ チャネル インターフェイスを指定します。
san-port-channel port	ポート チャネル番号で指定された SAN ポート チャネル インターフェイスを指定します。
vfc vfc-id	バーチャル ファイバ チャネル インターフェイスを指定します。
usage	(任意) システムでの VSAN の使用状況を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

show vsan membership interface コマンドを入力すると、この VSAN に設定されているインターフェイスに関するインターフェイス情報が表示されます。

インターフェイスの範囲は昇順で、オーバーラップなしです。ハイフンを使用して範囲を指定することも、コンマを使用して複数のインターフェイスを指定することもできます。

- ファイバ チャネル インターフェイスのインターフェイス範囲は、次の形式で指定します。

fcslot/port - port , fcslot/port , fcslot/port です。

例 : `show int fc2/1 - 3 , fc2/4 , fc3/2`

例 次に、設定されている VSAN の情報を表示する例を示します。

```
switch# show vsan 1
vsan 1 information
  name:VSAN0001 state:active
  interoperability mode:default
  loadbalancing:src-id/dst-id/oxid
  operational state:up

switch#
```

次に、すべての VSAN に対するメンバーシップ情報を表示する例を示します。

```
switch # show vsan membership
vsan 1 interfaces:

vsan 331 interfaces:
    fc2/3          fc2/4          san-port-channel 14 vfc1
    vfc2           vfc3           vfc4           vfc5
    vfc6           vfc7           vfc8           vfc9
    vfc10          vfc11          vfc12          vfc13
    vfc14          vfc15          vfc16          vfc17
    vfc18          vfc19          vfc20

vsan 332 interfaces:
    fc2/5          fc2/6          fc2/7          fc2/8
    san-port-channel 8 san-port-channel 9 vfc21          vfc22
    vfc23          vfc24          vfc25          vfc26
    vfc27          vfc28          vfc29          vfc30
    vfc31          vfc32          vfc33          vfc34
    vfc35          vfc36          vfc37          vfc38
    vfc39          vfc40

vsan 333 interfaces:
    fc2/1          fc2/2          san-port-channel 13

vsan 334 interfaces:

vsan 336 interfaces:

vsan 337 interfaces:

vsan 4079(evfp_isolated_vsan) interfaces:

vsan 4094(isolated_vsan) interfaces:

switch#
```

次に、指定されたインターフェイスのメンバーシップ情報を表示する例を示します。

```
switch# show vsan membership interface fc2/1
fc2/1
    vsan:333
    allowed list:1-4078,4080-4093
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
vsan	VSAN を設定します。

show wwn

WWN コンフィギュレーションのステータスを表示するには、**show wwn** コマンドを使用します。

```
show wwn {status [block-id number] | switch | vsan-wwn}
```

構文の説明	パラメータ	説明
	status	WWN の使用状況とアラーム ステータスの要約を表示します。
	block-id number	(任意) ブロック ID に対する WWN の使用状況とアラーム ステータスを表示します。有効な範囲は 34 ~ 1793 です。
	switch	スイッチの WWN を表示します。
	vsan-wwn	すべてのユーザ設定 VSAN WWN を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、スイッチの WWN を表示する例を示します。

```
switch# show wwn switch
```

次に、ユーザ設定の VSAN WWN を表示する例を示します。

```
switch# show wwn vsan-wwn
```

関連コマンド	コマンド	説明
	wwn vsan	インターオペラビリティ モード 4 がイネーブルになっている一時停止状態の VSAN に WWN を設定します。

show zone

ゾーン情報を表示するには、**show zone** コマンドを使用します。

```
show zone [active [vsan vsan-id] | analysis {active vsan vsan-id | vsan vsan-id | zoneset
zoneset-name} | ess [vsan vsan-id] | member {fcalias alias-name | fcid fc-id [active | lun lun-id
| vsan vsan-id] | pwwn wwn [active | lun lun-id | vsan vsan-id]} | name string [active]
[pending] [vsan vsan-id] | pending [active] [vsan vsan-id] | pending-diff [vsan vsan-id] |
policy [pending] [vsan vsan-id] | statistics [vsan vsan-id] | status [vsan vsan-id]]
```

構文の説明

active	(任意) アクティブ ゾーンセットに属するゾーンを表示します。
vsan vsan-id	(任意) 指定 VSAN ID に属するゾーンを表示します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
analysis	(任意) ゾーン データベースの分析を表示します。
active	アクティブ ゾーン データベースの分析を表示します。
vsan	指定された VSAN のゾーン データベースの分析を表示します。
zoneset zoneset-name	指定されたゾーンセットの分析を表示します。
ess	(任意) Exchange Switch Support (ESS) の情報を表示します。
member	(任意) 指定したメンバーがその一部であるすべてのゾーンを表示します。
fcalias alias-name	特定の fcalias のメンバー情報を表示します。
fc-id fc-id	特定のファイバチャネル ID のメンバー情報を表示します。
lun lun-id	論理ユニット ID を表示します。
pwwn wwn	特定の pWWN のデバイス名情報を表示します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
name string	指定したゾーンのメンバーを表示します。
pending	現行セッションの指定ゾーンのメンバーを表示します。
pending-diff	ゾーン データベースへの未決定変更を表示します。
statistics	ゾーン サーバ統計を表示します。
status	ゾーン サーバの現在のステータスを表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、設定されているゾーン情報を表示する例を示します。

```
switch# show zone
```

次に、特定の VSAN のゾーン情報を表示する例を示します。

```
switch# show zone vsan 1
```

次に、特定のゾーンのメンバを表示する例を示します。

```
switch# show zone name Zone1
```

次に、FCID を使用してメンバが属するすべてのゾーンを表示する例を示します。

```
switch# show zone member pwwn 21:00:00:20:37:9c:48:e5
```

次に、他のスイッチと交換される制御フレームの数を表示する例を示します。

```
switch# show zone statistics
```

次に、設定されたゾーンのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show zone status
```

次に、**zoneset distribute vsan** コマンドのステータスをチェックし、特定の VSAN、またはアクティブな全 VSAN のデフォルトのゾーン属性を表示する例を示します。

```
switch# show zone status vsan 1
VSAN:1 default-zone:deny distribute:active only Interop:default
      mode:basic merge-control:allow session:none
      hard-zoning:enabled
Default zone:
      qos:low broadcast:disabled ronly:disabled
Full Zoning Database :
      Zonesets:0 Zones:0 Aliases:0
Active Zoning Database :
      Database Not Available
Status:
```

表 3 に、**show zone status vsan** で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 3 show zone status のフィールドの説明

フィールド	説明
VSAN:	表示される VSAN の番号
default-zone:	デフォルトのゾーン ポリシー (許可または拒否のいずれか)
Default zone:	指定された VSAN の属性を表示するフィールド。属性には、Quality of Service (QoS) レベル、ブロードキャスト ゾーン分割のイネーブル/ディセーブル、および読み取り専用のゾーン分割のイネーブル/ディセーブルが含まれます。
distribute:	フル ゾーン セット (full) またはアクティブ ゾーン セット (active only) の配信
Interop:	インターオペラビリティ モード。100 = デフォルト、1 = 標準、2 および 3 = 他社ベンダー
mode:	ゾーン分割モード (基本モード、または拡張モードのいずれか)
merge control:	マージ ポリシー (許可、または制限のいずれか)
Hard zoning is enabled	ハードウェア リソース (TCAM) が満杯になった場合、ハード ゾーン分割は自動的にディセーブルになります。
Full Zoning Database:	ゾーン データベースの値
Active Zoning Database:	アクティブ ゾーン データベースの値
Status:	最終ゾーン配信のステータス

関連コマンド

コマンド	説明
zone	ゾーン情報を設定します。

show zone analysis

ゾーン分割データベースについての詳細な分析および統計情報を表示するには、**show zone analysis** コマンドを使用します。

```
show zone analysis {active vsan vsan-id | vsan vsan-id | zoneset name vsan vsan-id}
```

構文の説明	構文	説明
	active	アクティブゾーンセットの分析情報を表示します。
	vsan vsan-id	指定 VSAN ID の分析情報を表示します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
	zoneset name	指定ゾーンセットのゾーンセット分析情報を表示します。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、アクティブゾーン分割データベースの詳細な統計情報と分析を表示する例を示します。

```
switch# show zone analysis active vsan 1
```

次に、フルゾーン分割データベースの詳細な統計情報と分析を表示する例を示します。

```
switch# sh zone analysis vsan 1
Zoning database analysis vsan 1
  Full zoning database
    Last updated at: 14:36:56 UTC Oct 04 2005
    Last updated by: Local [CLI / SNMP / GS / CIM / INTERNAL] or
                    Merge [interface] or
                    Remote [Domain, IP-Address]
                    [Switch name]

    Num zonesets: 1
    Num zones: 1
    Num aliases: 0
    Num attribute groups: 0
    Formatted database size: < 1 Kb / 2000 kb ( < 1% usage)

Unassigned zones:
  zone name z1 vsan 1
```

フルゾーン分割データベースに対する **show zone analysis** コマンドの出力に表示される各フィールドについて、表 4 に説明を示します。

表 4 フルゾーン分割データベースに対する show zone analysis コマンドのフィールドの説明

フィールド	説明
Last updated at	フルゾーン分割データベースが最後に更新された時刻のタイムスタンプを表示します。
Last Updated by	フルゾーン分割データベースを最後に変更したエージェントを表示します。エージェントには次の 3 種類があります。 <ul style="list-style-type: none"> • Local : 次のいずれかのアプリケーションによる設定変更を通じて、フルデータベースが最後にローカルで変更されたことを示します。 <ul style="list-style-type: none"> – CLI : フルゾーン分割データベースがユーザによってコマンドラインインターフェイスから変更されました。 – SNMP : フルゾーン分割データベースがユーザによって Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) を通じて変更されました。 – GS : フルゾーン分割データベースが Generic Services (GS) クライアント から変更されました。 – CIM : フルゾーン分割データベースがアプリケーションによって Common Information Model (CIM) を使用して変更されました。 – INTERNAL : フルゾーン分割データベースが、Inter-VSAN Routing (IVR) または IP ストレージ サービス マネージャ から内部のアクティベーションによって変更されました。 • Merge : フルデータベースが結合プロトコルによって最後に変更されたことを示します。この場合、結合が発生したインターフェイスも表示されます。 • Remote : フルゾーンセットの配信が可能である場合、フルデータベースが、リモートスイッチから開始された変更プロトコルによって最後に変更されたことを示します。変更を開始したスイッチのドメイン、IP アドレス、およびスイッチ名も表示されます。 <p>(注) スイッチ名が設定されている場合にだけ、スイッチ名は次の行に、ドメインと並んで表示されます。デフォルトのスイッチ名 <i>switch</i> および <i>ip-address</i> は表示されません。</p>
Num zonesets	データベース中の合計ゾーンセット数を表示します。
Num zones	まだ割り当てられていないゾーンを含め、データベース中の合計ゾーン数を表示します。
Num aliases	まだ割り当てられていないファイバチャネルエイリアスを含め、データベース中の合計エイリアス数を表示します。
Num attribute groups	データベースにある属性グループの合計数を表示します。このフィールドは、拡張ゾーン分割が使用されているときにだけ適用されます。

表 4 フル ゾーン分割データベースに対する show zone analysis コマンドのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Formatted database size	<p>フォーマット時にワイヤ送信されたフル データベースの合計サイズを表示します。</p> <p>フォーマット済みのデータベース サイズが、次の例のようにキロバイト単位で < X KB / Y KB の形式で表示されます。</p> <p>Formatted database size: < 1 KB/2000 KB</p> <p>この例では、フォーマット化されたデータベース サイズは最大サイズ 2000 KB の内の 1 KB 未満です。</p>
Unassigned zones	<p>VSAN 内でまだ割り当てられていないゾーンをすべて表示します。ゾーン名だけが表示されます。ゾーンのメンバーに関する詳細はこのセクションでは表示されません。</p>

次に、ゾーン セットの分析情報を表示する例を示します。

```
switch# show zone analysis zoneset zs1 vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
zone compact database	VSAN 内のゾーン データベースを圧縮します。

show zoneset

設定されているゾーン セットを表示するには、**show zoneset** コマンドを使用します。

```
show zoneset [active [vsan vsan-id] | brief [active [vsan vsan-id] | vsan vsan-id] | name
zoneset-name [active [vsan vsan-id] | brief [active [vsan vsan-id] | vsan vsan-id] | vsan vsan-id]
| pending [active [vsan vsan-id] | brief [active [vsan vsan-id] | vsan vsan-id] | vsan vsan-id] |
vsan vsan-id
```

構文の説明

active	(任意) アクティブ ゾーン セットだけを表示します。
vsan vsan-id	(任意) VSAN を表示します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
brief	(任意) 概略リスト内のゾーン セット メンバーを表示します。
name zoneset-name	(任意) 指定ゾーン セットのメンバーを表示します。
pending	(任意) セッション内のゾーン セット メンバーを表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、設定されているゾーン セットの情報を表示する例を示します。

```
switch# show zoneset vsan 1
```

次に、特定の VSAN について設定されたゾーン セットの情報を表示する例を示します。

```
switch# show zoneset vsan 2-3
```

関連コマンド

コマンド	説明
zoneset (グローバル コ ンフィギュレーション モード)	各ゾーンを 1 つのゾーン セットにグループ化します。
zoneset (EXEC モー ド)	ゾーン セット データベースをマージします。



T コマンド

この章では、T で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

trunk protocol enable

ファイバチャネルインターフェイスのトランキングプロトコルを設定するには、**trunk protocol enable** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

trunk protocol enable

no trunk protocol enable

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

イネーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

トランキングプロトコルがスイッチでディセーブルの場合、そのスイッチのポートは新規トランクコンフィギュレーションを適用できません。既存のトランク設定は影響を受けません。TE ポートは引き続きトランクモードで機能しますが、(トランキングプロトコルがイネーブルのときに) 事前にネゴシエートした Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のトラフィックだけをサポートします。また、このスイッチに直接接続している他のスイッチも同様に接続インターフェイスで影響を受けます。場合によっては、非トランキング ISL (スイッチ間リンク) 間の異なるポート VSAN からのトラフィックを統合する必要が生じます。そのような場合は、トラフィックを結合する前に、トランキングプロトコルをディセーブルにする必要があります。

例

次に、トランクプロトコル機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no trunk protocol enable
```

次に、トランクプロトコル機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# trunk protocol enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
show trunk protocol	トランクプロトコルのステータスを表示します。



V コマンド

この章では、V で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

vsan

同じ物理インフラストラクチャを共有している複数のファブリックを作成し、ポートを Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) に割り当て、インターオペラビリティ モードをオンまたはオフにし、ロード バランスを送信元交換 ID または送信元/宛先 ID ごとに行って、VSAN メンバーシップを開始するには、**vsan** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

vsan vsan-id

```
[interface {fc slot/port | san-port-channel port | vfc vfc-id} |
interop [mode] [loadbalancing {src-dst-id | src-dst-ox-id}] |
loadbalancing {src-dst-id | src-dst-ox-id} |
name name [interop [mode] [loadbalancing {src-dst-id | src-dst-ox-id}] | loadbalancing
{src-dst-id | src-dst-ox-id}] | suspend [interop [mode] [loadbalancing {src-dst-id |
src-dst-ox-id}] | loadbalancing {src-dst-id | src-dst-ox-id}] |
suspend [interop [mode] [loadbalancing {src-dst-id | src-dst-ox-id}] | loadbalancing
{src-dst-id | src-dst-ox-id}]]
```

no vsan vsan-id

```
[interop [mode] [loadbalancing {src-dst-id | src-dst-ox-id}] |
loadbalancing {src-dst-id | src-dst-ox-id} |
name name [interop [mode] [loadbalancing {src-dst-id | src-dst-ox-id}] | loadbalancing
{src-dst-id | src-dst-ox-id}] | suspend [interop [mode] [loadbalancing {src-dst-id |
src-dst-ox-id}] | loadbalancing {src-dst-id | src-dst-ox-id}] |
suspend [interop [mode] [loadbalancing {src-dst-id | src-dst-ox-id}] | loadbalancing
{src-dst-id | src-dst-ox-id}]]
```

構文の説明

vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4094 です。
interface fc slot/port	(任意) ファイバチャネル インターフェイスをスイッチのスロットおよびポート番号で指定します。
san-port-channel port	SAN ポート チャネル番号によって指定される SAN ポート チャネル インターフェイスを設定します。
vfc vfc-id	バーチャル ファイバ チャネル インターフェイスを指定します。
interop	(任意) インターオペラビリティ モードをオンにします。
mode	(任意) インターオペラビリティ モードを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4 です。
loadbalancing	(任意) ロード バランシング方式を設定します。
src-dst-id	ロード バランス用の src-id/dst-id を設定します。
src-dst-ox-id	ロード バランスに ox-id/src-id/dst-id を設定します (デフォルト)。
name name	VSAN に名前を割り当てます。名前は、最大 32 文字まで指定できます。
suspend	VSAN を一時停止します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

VSAN データベース コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
	5.0(2)N1(1)	VSAN ID 範囲が 4094 に増加しました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、VSAN データベース モードに変更する必要があります。

インターフェイスの範囲は昇順で、オーバーラップなしです。ハイフンを使用して範囲を指定することも、コンマを使用して複数のインターフェイスを指定することもできます。

- ファイバ チャネル インターフェイスのインターフェイス範囲は、次の形式で指定します。

fcslot/port - port , fcslot/port , fcslot/port:

例 : `show int fc2/1 - 3 , fc2/4 , fc3/2`

- SAN ポート チャネルの形式は、次のとおりです。

san-port-channel portchannel-number.subinterface-number:

例 : `show int san-port-channel 5.1`

インターオペラビリティ モードには次の 4 種類があります。

- インターオペラビリティ モード 1 : ファブリック内の他のすべてのベンダーがインターオペラビリティ モードになる必要のある標準ベースのインターオペラビリティ モード
- インターオペラビリティ モード 2 : Brocade ネイティブ モード (Core PID 0)
- インターオペラビリティ モード 3 : Brocade ネイティブ モード (Core PID 1)
- インターオペラビリティ モード 4 : McData ネイティブ モード。インターオペラビリティ モード 4 を設定する (または設定を削除する) 前に、VSAN を一時停止する必要があります。McData OUI [08:00:88] の VSAN 依存スイッチ WWN を設定した後でだけ VSAN の一時停止を解除します。

`vsan vsan-id interface` コマンドの `no` 形式は、サポートされていません。インターフェイスの VSAN メンバーシップ (例 : VSAN 7 からのインターフェイス fc1/8) を削除するには、インターフェイスを別の VSAN に割り当てる必要があります。ベスト プラクティスは、インターフェイスをデフォルトの VSAN (VSAN 1) に割り当て直すことです。

例

次に、同じ物理インフラストラクチャを共有する複数のファブリックを作成し、ポートを VSAN に割り当てる例を示します。

```
switch(config)# vsan database
switch-config-vsan-db# vsan 2
switch(config-vsan-db)# vsan 2 name TechDoc
switch(config-vsan-db)# vsan 2 loadbalancing src-dst-id
switch(config-vsan-db)# vsan 2 loadbalancing src-dst-ox-id
switch(config-vsan-db)# vsan 2 suspend
switch(config-vsan-db)# no vsan 2 suspend
switch(config-vsan-db)# end
```

次に、VSAN を一時停止して、インターオペラビリティ モード 4 をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# vsan database
switch(config-vsan-db)# vsan 100 suspend
switch(config-vsan-db)# vsan 100 interop 4
switch(config-vsan-db)# exit
```

次に、VSAN FCOE-VLAN から VSAN へのマッピングを行うように VSAN を設定する例を示します。

```
switch(config)# vsan database
switch(config-vsan-db)# vsan 377
```

```
switch(config-vsan-db)# exit
switch(config)# vlan 30
switch(config-vlan)# fcoe vsan 337
switch(config-vlan)#
```

次に、VSAN 7 からインターフェイス fc2/1 を削除する例を示します。

```
switch(config)# vsan database
switch(config-vsan-db)# vsan 1 interface fc2/1
switch(config-vsan-db)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vsan	VSAN のコンフィギュレーション情報を表示します。
show vlan fcoe	FCoE VLAN から VSAN へのマッピングを表示します。
show vsan membership	VSAN メンバーシップ情報を表示します。
wwn vsan	インターオペラビリティ モード 4 がイネーブルになっている一時停止状態の VSAN に WWN を設定します。

vsan database

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) データベース モードを開始して VSAN 情報およびメンバーシップを設定するには、**vsan database** コマンドを使用します。

vsan database

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

VSAN データベース コンフィギュレーション モードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

例

次に、VSAN データベース コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch(config)# vsan database
switch(config-vsan-db)# exit
switch(config)#
```

次に、VSAN と仮想ファイバ チャンネル インターフェイスの関連付けを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vsan database
switch(config-vsan-db)# vsan 2 interface vfc 4
switch(config-vsan-db)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vsan	VSAN のコンフィギュレーション情報を表示します。
show vlan fcoe	FCoE VLAN から VSAN へのマッピングを表示します。
show vsan membership	VSAN メンバーシップ情報を表示します。
vsan	VSAN 情報またはメンバーシップを設定します。



W コマンド

この章では、W で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

wwn secondary-mac

SAN ノードにセカンダリ MAC アドレスを割り当てるには、**wwn secondary-mac** コマンドを使用します。

```
wwn secondary-mac wwn-id range address-range
```

構文の説明

wwn-id	MAC アドレスの形式は、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。
range address-range	指定された WWN の範囲を指定します。有効値は 64 だけです。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは元に戻せません。

Worldwide Name への変更は、必要な場合にだけ実行します。これは毎日変更されるものではありません。これらの変更は、管理者が行うか、スイッチ操作を熟知している人が行ってください。

例

次に、セカンダリ MAC アドレスの範囲を割り当てる例を示します。

```
switch(config)# wwn secondary-mac 00:99:55:77:55:55 range 64
```

関連コマンド

コマンド	説明
show wwn	WWN コンフィギュレーションのステータスを表示します。

wwn vsan

インターオペラビリティ モード 4 がイネーブルになっている一時停止 Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の WWN を設定するには、**wwn vsan** コマンドを使用します。コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
wwn vsan vsan-id vsan-wwn wwn
```

```
no wwn vsan vsan-id vsan-wwn wwn
```

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
	<i>vsan-wwn wwn</i>	VSAN の WWN を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、次の条件が満たされた場合にだけ成功します。

- VSAN が一時停止していなければいけません。
- スイッチ WWN を指定できるようになる前に、VSAN でインターオペラビリティ モード 4 がイネーブルである必要があります。
- スイッチ WWN はファブリック全体で一意でなければいけません。
- 設定されたスイッチ WWN には McData OUT [08:00:88] が必要です。

例 次に、WWN を VSAN に割り当てる例を示します。

```
switch(config)# wwn vsan 100 vsan-wwn 20:64:08:00:88:0d:5f:81
switch(config)# vsan database
switch(config-vsan-db)# vsan 100 suspend
switch(config-vsan-db)# exit
switch(config)# wwn vsan 100 vsan-wwn 20:64:08:00:88:0d:5f:81
```

関連コマンド	コマンド	説明
	vsan database	同じ物理インフラストラクチャを共有する複数のファブリックを作成し、ポートを VSAN に割り当て、インターオペラビリティ モードをオンまたはオフにし、ロード バランスを送信元交換 ID または送信元/宛先 ID ごとに行って、VSAN メンバーシップを作成します。



Z コマンド

この章では、Z で始まる、Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

zone clone

ゾーン名を複製するには、**zone clone** コマンドを使用します。

```
zone clone current-zone-name new-zone-name vsan vsan-id
```

構文の説明		
<i>current-zone-name</i>		ゾーン属性グループ名を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できません。
<i>new-zone-name</i>		ゾーン名を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できません。
vsan <i>vsan-id</i>		VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ゾーン名を削除するには、**zone name** (コンフィギュレーション モード) コマンドの **no** 形式を使用します。

例 次に、origZone という名前のオリジナル ゾーン グループのクローンを、VSAN 45 のクローン ゾーン グループ cloneZone に作成する例を示します。

```
switch(config)# zone clone origZone cloneZone vsan 45
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show zone	ゾーン情報を表示します。

zone commit

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のゾーン分割の変更をコミットするには、**zone commit** コマンドを使用します。コマンドを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
zone commit vsan vsan-id [force]
```

```
no zone commit vsan vsan-id [force]
```

構文の説明

vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
force	(任意) 強制的に確定します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ロックを開始したスイッチのセッションロックを消去するには、**zone commit** コマンドの **no** 形式を使用します。

例

次に、VSAN 200 のゾーン分割の変更をコミットする例を示します。

```
switch(config)# zone commit vsan 200
```

関連コマンド

コマンド	説明
show zone	ゾーン情報を表示します。

zone compact

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) 内のゾーン データベースを圧縮するには、**zone compact** コマンドを使用します。

zone compact vsan vsan-id

構文の説明

vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチでは、8000 のゾーンがサポートされます。

複数の VSAN を結合する場合は、1 つの VSAN に 2000 を超えるゾーンが存在し、それに隣接する VSAN が 2000 までしかゾーンをサポートできないと、その結合は失敗します。

VSAN 内に 2000 を超えるゾーンが存在する場合、2000 までしかゾーンをサポートできないスイッチがそのファブリック内に 1 つでも存在すると、アクティベーションは失敗します。

例

次に、VSAN 1 のゾーン データベースを圧縮する例を示します。

```
switch(oongif)# zone compact vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show zone	ゾーン情報を表示します。
show zone analysis	ゾーン分割データベースに関する詳細な分析および統計情報を表示します。

zone copy

アクティブなゾーン セットをフルゾーン セットにコピーするには、**zone copy** コマンドを使用します。コマンドを無効にするか、または工場出荷時のデフォルト状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
zone copy active-zoneset full-zoneset [include-auto-zones] vsan vsan-id
```

```
zone copy vsan vsan-id active-zoneset {bootflash: | ftp: | full-zoneset | scp: | sftp: | tftp: | volatile:}
```

```
no zone copy
```

構文の説明

active-zoneset	アクティブ ゾーン セットからコピーします。
full-zoneset	アクティブ ゾーン セットからフルゾーン セットにコピーします。
include-auto-zones	(任意) アクティブ ゾーン セットをコピーすると自動ゾーンを含むように指定します。
vsan vsan-id	VSAN 上のアクティブ ゾーン セットをフルゾーン セットにコピーするように設定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
bootflash:	アクティブ ゾーン セットを bootflash: ディレクトリ内の任意の場所にコピーします。
ftp:	アクティブ ゾーン セットを、ファイル転送プロトコル (FTP) を使用してリモート ロケーションにコピーします。
scp:	アクティブ ゾーン セットを、SCP プロトコルを使用してリモート ロケーションにコピーします。
sftp:	アクティブ ゾーン セットを、SFTP プロトコルを使用してリモート ロケーションにコピーします。
tftp:	アクティブ ゾーン セットを、TFTP プロトコルを使用してリモート ロケーションにコピーします。
volatile:	アクティブ ゾーン セットを volatile: ディレクトリ内の任意の場所にコピーします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、アクティブ ゾーン セットをフルゾーン セットにコピーする例を示します。

```
switch# zone copy active-zoneset full-zoneset vsan 1
```

次に、VSAN 3 のアクティブ ゾーン セットを、SCP を使用してリモート ロケーションにコピーする例を示します。

```
switch# zone copy vsan 3 active-zoneset scp://guest@myserver/tmp/active_zoneset.txt
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show zone</code>	ゾーン情報を表示します。

zone default-zone

デフォルトゾーン（作成されたゾーンに割り当てられていないノードに指定されるゾーン）がデフォルトゾーン内のすべてのノードへのアクセスを許可するか拒否するかを定義するには、**zone default-zone** コマンドを使用します。コマンドを無効にするか、または工場出荷時のデフォルト状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
zone default-zone permit vsan vsan-id
```

```
no zone default-zone permit vsan vsan-id
```

構文の説明

permit	デフォルトゾーン内すべてのノードに対するアクセスを許可します。
vsan vsan-id	指定した Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のデフォルトのゾーン分割動作を設定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

すべてのデフォルトゾーンがアクセスを許可します。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

VSAN 内のデフォルトゾーンに対する運用値を定義するには、**zone default-zone permit vsan** コマンドを使用します。このコマンドは既存の VSAN に適用されます。まだ作成されていない VSAN には効果がありません。

全 VSAN のデフォルトゾーンに定義されたデフォルト値を使用するには、**system default zone default-zone permit** コマンドを使用します。デフォルト値は、VSAN が最初に作成されてアクティブになる際に使用されます。

例

次に、VSAN 2 内のデフォルトゾーン分割を許可する例を示します。

```
switch(config)# zone default-zone permit vsan 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
system default zone default-zone permit	ゾーンのデフォルト値を設定します。
show zone	ゾーン情報を表示します。

zone merge-control restrict vsan

ゾーン データベースの結合を制限するには、**zone merge-control restrict vsan** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
zone merge-control restrict vsan vsan-id
```

```
no zone merge-control restrict vsan vsan-id
```

構文の説明	vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。				
コマンド デフォルト	ディセーブル				
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>リリース 6.0</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	リリース 6.0	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	結合の制御設定が制限され、2 つのデータベースが同じでない場合、結合は失敗し、スイッチ間のスイッチ間リンク (ISL) は隔離されます。				
例	次に、VSAN 10 のゾーン結合制御を制限に設定する例を示します。 <pre>switch(config)# zone merge-control restrict vsan 10</pre>				
関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>show zone</td><td>ゾーン情報を表示します。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	show zone	ゾーン情報を表示します。
コマンド	説明				
show zone	ゾーン情報を表示します。				

zone mode enhanced

Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の拡張ゾーン分割をイネーブルにするには、**zone mode enhanced** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

zone mode enhanced vsan vsan-id

no zone mode enhanced vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。				
コマンド デフォルト	ディセーブル				
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>5.0(2)N1(1)</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	<p>zone mode enhanced コマンドを使用する前に、ファブリックの全スイッチが拡張ゾーン分割モードで動作可能であることを確認してください。1 つまたは複数のスイッチが拡張ゾーン分割モードで動作しない場合、拡張ゾーン分割モードをイネーブルにする要求は拒否されます。</p> <p>zone mode enhanced vsan コマンドが正常に完了すると、ソフトウェアは、セッションの開始、拡張ゾーン分割データ構造を使用したゾーン分割データベースの配信、コンフィギュレーション変更の適用、およびファブリックの全スイッチへの Release Change Authorization (RCA) の送信を自動的に実行します。次に、ファブリックの全スイッチは拡張ゾーン分割モードをイネーブルにします。</p>				
例	次に、拡張ゾーン分割モードをイネーブルにする例を示します。 <pre>switch(config)# zone mode enhanced vsan 10</pre>				
関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>show zone</td><td>ゾーン情報を表示します。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	show zone	ゾーン情報を表示します。
コマンド	説明				
show zone	ゾーン情報を表示します。				

zone name (コンフィギュレーション モード)

ゾーンを作成するには、**zone name** コマンドを使用します。コマンドを無効にするか、または工場出荷時のデフォルト状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
zone name zone-name vsan vsan-id
member
```

```
zone name zone-name vsan vsan-id
no member
```

```
no zone name zone-name vsan vsan-id
```

構文の説明

zone-name	ゾーン名を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ゾーンはゾーンセットに割り当てられます。ゾーンセットは 1 つのスイッチからアクティブになり、ファブリック全体のすべてのスイッチに伝播されます。ゾーンは、ノード (ホストおよびストレージ) 間のアクセスを許可および拒否するセキュリティ対策を可能にします。**zone name** コマンドは、コンフィギュレーション モードから入力します。VSAN 用のゾーンは、**config-zone** モードから設定します。

switch World Wide Name (sWWN) を検索するには、**show wwn switch** コマンドを使用します。sWWN を指定しない場合、ソフトウェアは自動的にローカル sWWN を使用します。

例

次に、指定のメンバタイプ (pWWN、ファブリック pWWN、FCID、またはファイバチャネルエイリアス) および値に基づいて、指定ゾーン (Zone1) の属性を設定する例を示します。

```
switch(config)# zone name Zone1 vsan 10
switch(config-zone)# member device-alias device1
```

次に、指定のメンバタイプ (pWWN、ファブリック pWWN、FCID、またはファイバチャネルエイリアス) および値に基づいて、指定ゾーン (Zone2) のメンバを設定する例を示します。

```
switch(config)# zone name Zone2 vsan 10
switch(config-zone)# member fcalias Payroll
switch(config-zone)# member domain-id 2 portnumber 23
```

関連コマンド

コマンド	説明
show zone	ゾーン情報を表示します。
zone rename	ゾーンの名前を変更します。
zone-attribute-group name	ゾーン属性グループを設定します。

zone name (ゾーンセットコンフィギュレーションモード)

ゾーンセットのゾーンを設定するには、**zone name** コマンドを使用します。ゾーンセットからゾーンを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

zone name *zone-name*

no zone name *zone-name*

構文の説明	<i>zone-name</i>	ゾーン名を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
-------	------------------	----------------------------------

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	ゾーンセットコンフィギュレーションモード
---------	----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ゾーンセットにゾーンを設定する例を示します。

```
switch(config)# zoneset name Sample vsan 1
switch(config-zoneset)# zone name MyZone
```

次に、ゾーンセットからゾーンを削除する例を示します。

```
switch(config-zoneset)# no zone name Zone2
switch(config-zoneset)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show zoneset	ゾーンセット情報を表示します。
	zone name (コンフィギュレーションモード)	ゾーンを設定します。
	zoneset	ゾーンセット属性を設定します。

zone rename

ゾーンの名前を変更するには、**zone rename** コマンドを使用します。

```
zone rename current-name new-name vsan vsan-id
```

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>current-name</i>	現在の FC エイリアスの名前を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
	<i>new-name</i>	新しい FC エイリアスの名前を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
	vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例
次に、ゾーンの名前を変更する例を示します。
switch# **zone rename** ZoneA ZoneB vsan 10

関連コマンド	コマンド	説明
	show zone	ゾーン情報を表示します。
	zone name	ゾーンを作成および設定します。

zoneset (コンフィギュレーション モード)

複数のゾーンを 1 つのゾーン セットにまとめるには、**zoneset** コマンドを使用します。コマンドを無効にするか、または工場出荷時のデフォルト状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
zoneset {activate [name zoneset-name] vsan vsan-id | clone zoneset-currentName
zoneset-cloneName vsan vsan-id | distribute full vsan vsan-id name zoneset-name vsan
vsan-id | rename current-name new-name vsan vsan-id}
```

```
no zoneset {activate [name zoneset-name] vsan vsan-id | clone zoneset-currentName
zoneset-cloneName vsan vsan-id | distribute full vsan vsan-id name zoneset-name vsan
vsan-id | rename current-name new-name vsan vsan-id}
```

構文の説明

activate	ゾーン セットをアクティブにします。
name <i>zoneset-name</i>	(任意) ゾーン セットの名前を指定します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
vsan <i>vsan-id</i>	指定した Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のゾーン セットをアクティブにします。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
clone <i>zoneset-currentName</i> <i>zoneset-cloneName</i>	現行の名前から新しい名前にゾーン セットを複製します。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
distribute full	ゾーン セットの伝播をイネーブルにします。
rename	ゾーン セットの名前を変更します。
<i>current-name</i>	現在の FC エイリアスの名前を指定します。
<i>new-name</i>	新しい FC エイリアスの名前を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

親ゾーン セットをアクティブ化することでゾーンはアクティブ化されます。

zoneset distribute full vsan コマンドは、デフォルト ゾーン の運用値を VSAN 内の全ゾーン セットに配信します。運用値を配信したくない場合は、**system default zone distribute full** コマンドを使用して、デフォルト値を配信します。デフォルト値は、最初に VSAN が作成されてアクティブになるときに使用されます。

zoneset distribute full vsan コマンドは既存の VSAN に適用されます。まだ作成されていない VSAN には効果がありません。

例

次に、zSet1 というゾーン セットを VSAN 333 内でアクティブにする例を示します。

```
switch(config)# zoneset activate name zSet1 vsan 333
```

次に、zSet1 という名前のゾーン セットを、VSAN 45 内の zSetClone という名前の新しいゾーン セットに複製する例を示します。

```
switch(config)# zoneset clone existing zSet1 zSetClone vsan 45
```

次に、デフォルト ゾーンの動作値を VSAN 22 内のすべてのゾーン セットに配信する例を示します。

```
switch(config)# zoneset distribute full vsan 22
```

関連コマンド

コマンド	説明
system default zone distribute full	ゾーン セットに配信するデフォルト値を設定します。
show zoneset	ゾーン セット情報を表示します。

zoneset (EXEC モード)

ゾーンセット データベースを結合するには、**zoneset** コマンドを使用します。

```
zoneset {distribute | export | import interface {fc slot/port | san-port-channel port-number}}
vsan vsan-id
```

構文の説明

distribute	ファブリックのフルゾーンセットを配信します。
export	ゾーンセット データベースを、指定した Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の隣接スイッチにエクスポートします。このスイッチのアクティブゾーンセットは、結合された Storage Area Network (SAN; ストレージエリアネットワーク) のアクティブ化されたゾーンセットになります。
import	ゾーンセット データベースを指定したインターフェイスの隣接スイッチにインポートします。この隣接スイッチのアクティブゾーンセットは、結合された SAN のアクティブ化されたゾーンセットになります。
interface	インターフェイスを設定します。
fc slot/port	指定スロット番号およびポート番号のファイバチャネル インターフェイスを設定します。
san-port-channel port-number	SAN ポート チャネル インターフェイスを指定します。
vsan vsan-id	指定したインターフェイス上にある VSAN のゾーンセット データベースを結合します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

zoneset import および **zoneset export** コマンドは VSAN の範囲に対しても入力できます。

zoneset distribute vsan vsan-id コマンドは、interop 2 および interop 3 モードではサポートされますが、interop 1 モードではサポートされていません。

例

次に、VSAN 2 インターフェイスを介して接続された隣接スイッチからゾーンセット データベースをインポートする例を示します。

```
switch# zoneset import interface fc2/3 vsan 2
```

次に、VSAN 5 を介して接続された隣接スイッチにゾーンセット データベースをエクスポートする例を示します。

```
switch# zoneset export vsan 5
```

次に、ゾーンセットを VSAN 333 内で配信する例を示します。

```
switch# zoneset distribute vsan 333
```

関連コマンド

コマンド	説明
show zone status vsan	指定した VSAN の配信ステータスを表示します。
show zoneset	ゾーンセット情報を表示します。

■ zoneset (EXEC モード)

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>